

東京都緑化白書

PART37

特集 東京都都市緑化基金

— 緑化基金が果たしてきた役割と今後の展望 —



東京都緑化白書

表紙写真：左側 3 枚 支援事業を起点につながる民有地の緑（「まちなか緑化活動支援事業」の現況）
右側 2 枚 日比谷公園ガーデニングショーの会場風景（「おもいのたけ」とテント出展）

発刊にあたって

東京都緑化白書は、昭和 57 年発刊以来、今回で 37 号を数えることになりました。この間、東京都建設局公園緑地部をはじめ多くの自治体関係者の皆様のご協力により取りまとめられました。改めて、本白書を取りまとめるに当たりご協力いただいた自治体関係者の皆様に衷心よりお礼を申し上げます。

本書は、東京の緑を増やし、緑を育て、美しく安心して住める東京の街づくりを目指す当協会の設立趣旨に沿い、東京の緑の街づくりの取り組みについて、広く発信したいという思いで取り組んでいるものでございます。

この書は、これまでの取り組みの成果を記録化してだけでなく、緑行政に関わる方々の貴重な情報誌として、その役割を果たすことができればと思っています。そして、緑行政に携わる多くの関係者および都民の皆さんとともに東京都の緑行政の取り組みについて情報を共有化し、ともに東京の緑環境づくりを考えていく一助となればと考えております。

「平成 30 年度版東京都緑化白書」では、毎年実施しております「東京都の緑化の動向調査」および「特集」の 2 本立てとしております。

緑化動向調査では、平成 29 年度の決算を中心に、公園等の整備・維持管理、街路樹等の整備、維持管理の取り組みおよび各自治体における緑の普及啓発活動の取り組みについて整理しました。また、特集では、「東京都都市緑化基金」について取り上げてみました。

東京都都市緑化基金は、設立から 30 年が経過しました。この基金は、東京都の民有地緑化に大きく貢献してきているばかりでなく、都民の緑の普及啓発においても、多大な功績を残しております。この基金の設立に当たっては、当協会の会員の皆さんが多額の寄付を出し合い、東京が緑豊かで快適な環境づくりに貢献したいという熱い思いがありました。しかし、年月が過ぎるに従い、当協会会員ばかりか、緑化業に関わる関係者の皆さんにおいても、東京都都市緑化基金に対する認識が希薄になりつつあります。

そこで、東京都公園協会が発刊した「東京都都市緑化基金 30 年のあゆみ」をもとに、当協会会員の関わりを含めた内容として紹介します。

特集の取りまとめに当たっては、前東京都公園協会公益事業推進課長をされた金田哲男氏に多大なご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

この白書の作成にあっては、「東京都都市緑化基金」から助成をいただいております。

今後とも、私たちが培ってきた知識、技術・技能を結集し、さらに質の高い東京の緑環境づくりに貢献していきたいと考えています。今後とも関係各位のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 7 月

一般社団法人 東京都造園緑化業協会
理事長 卯之原 昇

目 次

発刊にあたって	3
一般社団法人東京都造園緑化業協会理事長 卯之原 昇	
I 東京都の緑化の動向	
1. 東京都の緑化動向に関する基礎調査	6
(1) はじめに	
(2) 調査の方法と対象	
2. 平成 29 年度事業の概要	8
(1) 公園等の整備及び維持管理の実態について	
(2) 街路樹等の整備費及び維持管理費の実態について	
(3) 緑の普及啓発等に関する事業について	
(4) 樹木診断の取り組みについて	
3. 緑化行政の現況	13
(1) 特色ある公園づくりの事例について	
(2) 緑の普及啓発等に関するイベント等の実施について	
(3) 緑の普及啓発等に関する P R 活動等について	
II 特集 東京都都市緑化基金 - 基金が果たしてきた役割と今後の展望 -	
特集にあたって	44
一般社団法人東京都造園緑化業協会 広報委員会副委員長 山下 得男	
1. 東京都都市緑化基金とは	45
2. 造成と運用及び事業費の推移	48
3. 歩んできた事業を辿る	52
4. 今日の事業展開	66
5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例	72
6. 基金事業への東京都造園緑化業協会の貢献	84
7. 今後の都市緑化基金への期待と展望	88
会員名簿	92
あとがき	95
一般社団法人東京都造園緑化業協会 広報委員会委員長 松村 一	

I 東京都の緑化の動向

1. 東京都の緑化動向に関する基礎調査

(1) はじめに

東京都の緑化動向に関する基礎調査は、東京都をはじめ区市町等の多くの自治体の関係者のご協力により、取りまとめられた貴重なデータである。各自治体等の緑施策の現状を理解するうえでの参考となる資料でもある。

この白書では、これまでの間、各自治体の緑施策の現状について、さまざまな観点からご紹介をさせていただいてきた。今回は、平成29年度における各自治体の緑関係の決算および緑関係の施策の取り組みを中心に調査を行った。

調査に当たっては、各自治体の皆さんのご負担を少しでも軽減できるように、前年度までの調査項目を見直し簡略化に努めてきたところである。しかし、緑関連施策は、自治体によってさまざまな部署にまたがるケースも見られ、取りまとめいただいた所管部署の方々には、大変ご苦勞をおかけしており、改めて感謝申し上げたい。

(2) 調査の方法と対象

平成29年度における各自治体の緑施策の取り組みについては、大きく次の4つ項目についてアンケート調査を依頼した。その内容は以下の通りである。

- ①公園等に整備および維持管理に関する取り組みについて
- ②街路樹の整備および維持管理に関する取り組みについて
- ③樹木診断の取り組みについて
- ④緑の普及啓発に関する取り組みについて

調査に当たっては、公園、街路樹、緑の普及啓発等、緑化関連事業が多岐にわたることから、各自治体の総括窓口をお願いしてきた。

調査の対象は、東京都関係（建設局、港湾局、都市整備局）をはじめ、特別区、市町、島しょにご協力いただいた（一部、ご回答いただけない自治体があった）。

各自治体にお願ひしたアンケート内容は、以下の通りである。

1. 公園等の整備および維持管理について

(1) 平成29年度の「公園等の整備および維持管理に関する決算」について伺います。

- ・都市公園等の整備に関わる費用（ 千円）
- ・都市公園等の維持管理に関わる費用（ 千円）
- ・都市公園等の用地所得に関わる費用（ 千円）取得面積（ m²）

(2) 上記「都市公園等の維持管理に関わる費用」のうち、樹木管理に要した費用を伺います。

- ・樹木管理に要した費用（ 千円）

- (3) 貴団体において「特色ある公園づくりの事例」がありましたらご紹介願います。
- ・新規事例（公園等の名称、特色ある内容、実施年次）
 - ・リニューアル（公園等の名称、特色ある内容、実施年次）
2. 道路の街路樹等の整備・維持管理について
- (1) 平成 30 年 4 月 1 日現在の貴団体所管の道路における街路樹本数と植栽面積を伺います。
- ・街路樹本数（ 本）
 - ・植樹帯等の植栽面積（ m²）
- (2) 平成 29 年度における街路樹等の新規植栽および植樹帯等の整備に要した費用を伺います。
- ・街路樹等の新規植栽（植栽本数 本）（費用 千円）
 - ・植樹帯等の植栽（植栽面積 m²）（費用 千円）
- (3) 平成 29 年度における街路樹および植樹帯等の維持管理に要した費用を伺います。
- ・街路樹等の維持管理費用（ 千円）
 - ・植樹帯等の維持管理費用（ 千円）
3. 樹木診断の取り組みについて
- (1) 最近、台風等による強風で樹木の倒木等が発生している状況がみられます。樹木の老木化が進む中で、貴団体の公園や街路樹等で樹木診断の取り組みの状況について伺います。
- ・樹木診断を実施している（ ） 樹木診断を実施していない（ ）
- (2) 「樹木診断を実施している」団体においては、次の内容について伺います。
- ・29 年度実績（公園樹木 本、街路樹 本）（費用 千円）
 - ・30 年度予算（公園樹木 本、街路樹 本）（費用 千円）
- (3) 平成 31 年度の予算について伺います。
- ・実施を予定している（ ） 実施を予定していない（ ）
4. 緑の普及啓発に関する事業について
- (1) 平成 29 年度において、苗木等の配布や生垣助成等に要した事業費について伺います。
- ・苗木の配布（ 千円）
 - ・生垣事業費（ 千円）
 - ・その他の事業費（ 千円）
- (2) 緑の普及啓発等の事業として実施したイベント等について伺います。
- ・イベント名、実施場所、実施時期、イベントの主な内容
- (3) 緑の普及啓発等に関する PR として、市民に配布されているパンフレット・冊子等についてご紹介下さい。
- ・広報誌名 発行時期、主な内容

2. 平成 29 年度事業の概要

(1) 公園等の整備費および維持管理費の実態について

①公園等の整備および維持管理決算

東京都をはじめ特別区、市町の 55 行政機関からいただいた回答をもとに集計すると、東京都における平成 29 年度の公園等の整備および維持管理決算は、総額 1,134 億 34,000 千円であった（島しょ除く）。その割合としては、整備費が約 6 割、維持費が約 4 割の構成となっている。整備費のうち、構築費と用地費の割合は、ほぼ半分である。（表 1）

表 1 平成 29 年度公園等の整備および維持管理に関する決算（全体） 単位：千円

行政機関	整備費 (A)			維持費 (B)	合計 (A+B)
	構築費	用地費	計		
東京都関係	17,235,227	10,231,857	27,467,084	16,212,422	43,679,506
特別区	13,007,314	16,528,298	29,585,612	25,375,582	54,961,194
市町	3,543,597	4,483,216	8,026,813	6,722,752	14,793,461
全体計	33,786,138	31,243,371	65,079,509	48,310,756	113,434,161
構成比	29.8%	27.6%	57.4%	42.6%	100%

その内訳（表 7 ①、②）をみると、東京都の緑関係の決算では、約 437 億円と東京都全体の約 4 割を占めている。このうち、建設局所管の都立公園の整備および維持管理等の決算は、約 396 億円と都立公園の整備および維持管理に費やされる割合（東京都全体の約 35%）が高くなっている。中でも整備費は、6 割強と都立公園の整備拡充に向けた取り組みの傾向がうかがえる。

東京都関係以外の各自治体としては、特別区における決算が約 550 億円、市町の決算が 148 億円となっている。

特別区、市町における公園等の整備費用をみると、特別区で約 5 割、市町で約 5 割となっている。このことは、特別区や市町においては、年々、各自治体における維持管理費用のウエイトが高くなっている傾向がうかがえる。

各自治体の公園整備の取り組みの傾向についてみると、区部では、品川区、世田谷区、中野区、杉並区、豊島区、荒川区、練馬区、葛飾区等で用地取得も含め公園整備費の割合が高い。一方では、中央区、新宿区、文京区、江東区、北区、江戸川区等では、公園緑地事業費の約 8 割以上が維持管理に費やされている自治体もある。各自治体の緑環境の置かれた状況の違いが分かる。

市町の傾向をみると、新規に用地取得を行い公園等の整備を行っている自治体としては、立川、三鷹、武蔵野、調布、日野、清瀬、羽村市などがあげられる。それ以外の市町では、約 8 割以上が維持管理の費用に充てている傾向にある。

なお、鳥しょにおける取り組みについては、十分なデータを得ることができなかった。今後、調査方法について改めて見直したいと考えている。

②都市公園等の維持管理費用のうち、樹木管理に要した費用

都市公園等の維持管理に関わる費用のうち、樹木管理に要した費用は、特別区および市町とも、維持管理費用全体の2割弱である。

特徴的な点として、江東区、世田谷区、板橋区などでは、公園の維持管理費のうち、4割以上を樹木管理にかけている自治体もみられる。また、多摩部でも、府中市、小金井市、東村山市、瑞穂町等では、5割以上を樹木管理に充てている。

しかし、樹木管理に要した費用は、各自治体の公園等の管理体制（直営体制で実施している等）や管理方法（指定管理者制度の導入等）等により事情が異なり、単純に比較することは適切でないと考えるが、樹木の高木化、老齢化等、樹木管理にかかる経費負担が増してきているのは確かのようなのである。また、樹木管理費用の中には、害虫駆除、剪定枝の再資源化などの工種が入っている事例もみられる。

今回の調査においては、各自治体が公園の樹木管理にどの程度の費用をかけているか、その実態を掴むことができた。

その費用は、区部で約47億円、市町で13億円である。都立公園を所管する建設局では、指定管理者に公園管理を委ねており、その費用の把握はできていない。港湾局所管の海上公園では、約6%を樹木管理の経費に充てている。（表8①、②）

③都市公園等に関わる用地取得状況

平成29年度において公園等の用地を取得した自治体は、23自治体である。（表9）

新たな用地取得費用は、東京都関係を含め総額約212億98,000千円、総取得面積約22.6haであった。建設局所管の都立公園の整備に関する用地取得費が、全体の約5割を占めている。（表2）

表2 平成29年度都市公園等に関わる用地取得状況（全体）

行政機関	用地取得費用（千円）		用地取得面積（㎡）	
	金額	割合	面積	割合
東京都関係	10,231,857	48%	48,088	21%
特別区	6,583,490	31%	22,730	10%
市町	4,483,216	21%	154,788	69%
合計	21,298,563	100%	225,606	100%

各自治体における公園用地取得の傾向をみると、区部では、まちづくりの関連で新たに取得するなど、公園の拡張・充実に向けた取り組みがみられる。

今回の調査では、新たに用地を取得した公園名までの把握ができなかった。

(2) 街路樹等の整備費および維持管理費の実態について

①街路樹の新規植栽および植樹帯整備決算

平成 29 年度決算において、街路樹の新規植栽および植樹帯整備状況をみると、新たに整備した費用としては、東京都、特別区および市町の合計で 6 億 79,000 千円であった。このうち、都道等での整備費が 86%、区道で 10%、市町道で 4%であった。(表 3)

表 3 各自治体の街路樹等の整備および構成比 (平成 29 年度末)

行政機関	街路樹等整備費用 (千円)	構成比
東京都関係	583,616	86%
特別区	70,213	10%
市町	25,330	4%
計	679,149	100%

※鳥しょ除く

新規植栽および植樹帯の整備規模については、残念ながら、都道等においては不明である。区道では、街路樹新規植栽が 905 本、植樹帯整備面積が 1,512㎡であった。市町道では、街路樹新規植栽が 87 本、植樹帯整備面積が 1,173㎡であった。(表 11 ①、②)

②街路樹本数および植樹帯等の面積

平成 29 年度末現在の都道、区道、市町道 (鳥しょ部は除く) の街路樹総本数は、1,115,885 本である。

その内訳として、都道を中心にした東京都関係の街路樹総本数が 658,462 本、区道の街路樹総本数が 335,084 本、多摩部の市町が所管する街路樹総本数は、122,339 本である。(表 4)

表 4 各自治体の街路樹本数と植樹帯面積 (平成 29 年度末)

行政機関	街路樹本数 (本)		植樹帯面積 (㎡)	
	本数	構成比	面積	構成比
東京都関係	658,462	59%	1,299,479	39%
特別区	335,084	30%	1,213,152	37%
市町	122,339	11%	788,117	24%
計	1,115,885	100%	3,300,748	100%

※鳥しょ除く

所管別の構成割合でみると、都道等の街路樹が 59%、特別区が 30%、市町が 11%となっている。

都道、区道、市町道の植樹帯の総面積は、3,300,748㎡である。これは、日比谷公園約 287 個分の規模である。東京都関係が約 130ha、特別区が約 121ha、市町が約 79ha である。植樹帯の規模からみて、特別区が所管する植樹帯の規模は、都道等の規模に匹敵している。区道では、比較的狭い空間であっても快適な歩行者空間を提供するため、さまざまな工夫を施し、植樹帯を設けている。

③街路樹および植樹帯等の維持管理費用

本調査では、街路樹と植樹帯等の維持管理費用について、それぞれ分けて回答をお願いした。しかし、多くの自治体では、街路樹の維持管理費用に植樹帯費用が含まれた決算をしているケースが多かった。ここでは、街路樹等の維持管理費用に使われた合計費用について概観したい。

表 5 平成 29 年度街路樹および植樹帯等の維持管理費用

行政機関	街路樹および植樹帯等維持管理費用（千円）	構成比
東京都関係	5,616,469	51%
特別区	3,640,748	33%
市町	1,833,118	16%
計	11,090,335	100%

※島しょ除く

平成 29 年度の決算をみると、都道、区市町道（島しょ除く）における維持管理費用は、総額で約 111 億円であった。都道等で約 5 割、区道で約 3 割、市町道で約 2 割を占めている。

これを所管別にみると、都道で約 55 億円と最も多い。特別区では、江戸川区が約 6.7 億円、江東区が約 3.1 億円、葛飾区が約 3 億円、大田区が約 2.8 億円、世田谷区が約 2.7 億円となっている。また、市町では、町田市が約 2.5 億円、府中市が約 2.2 億円、八王子市が約 2.1 億円、多摩市が約 1.7 億円などである。（表 12 ①、②）

(3) 平成 29 年度緑の普及啓発等に関する事業について

平成 29 年度における苗木等の配布や生垣助成等の事業費については、東京都関係よりも特別区および市町等の取り組みが多い。この設問における「苗木等の配布や生垣助成、その他緑化関連事業」では、特別区で総額 86,597 千円、多摩部の市町で 45,210 千円であった。

その特徴をみると、特別区では、苗木の配布事業や生垣助成事業等、区民の緑化啓発を狙いとした取り組みが多く見受けられる。（表 14 ①、②）

(4) 樹木診断の取り組みについて

各自治体の公園や街路樹等の樹木診断の取り組みの状況について伺ったところ、各自治体とも樹木診断など樹木の安全管理に向けた取り組みを積極的に進めている傾向がうかがえる。特に、老木化が進む中で、台風等による強風で樹木の倒木等が発生するなど、街路樹をはじめ公園樹木における樹木診断を積極的に実地している。

表6 平成29年度街路樹および植樹帯等の維持管理費用

行政機関	公園（千円）	街路樹（千円）	計（千円）	構成比
東京都関係	—	—	243,689	50.8%
特別区	10,898	12,032	197,405	41.1%
市町	1,592	1,866	38,957	8.1%
計	12,490	13,898	480,051	100%

特別区では、ほとんどの区において樹木診断を実施しており、今後もその予定があると回答している。多摩地区の市町では、約3分の1の自治体で実施している。（表13①、②）
「樹木診断を実施している」自治体の取り組み状況について、29年度の樹木診断の実績としては、東京都、特別区及び市町（島しょ除く）の実施費用は、約4.8億円であった。東京都関係が約5割、特別区が約4割、市町が約1割であった。実施本数については、各自治体の委託方法に違いがみられ、外観調査を中心に行っている自治体もあれば、外観調査および精密診断を兼ねて行っている自治体もあるなど、実施本数の扱いに違いがみられた。

ちなみに、平成30年度の予算について伺ったところ、東京都、特別区および市町（島しょ除く）の予算総額は、約5.9億円である。（表13①、②）

3. 緑化行政の現況

(1) 特色ある公園づくりの事例について

公園に対する都民のニーズが変化してきている。ここでは、各自治体で取り組んでいる特色ある公園づくりについてご紹介したい。

今回の調査では、その意図が十分伝わり切れてない点もあってか、各自治体からいただいた紹介が限られたものになってしまった。さらなる情報収集の必要性であると考えている。

限られた事例紹介になったが、公園が地域のニーズや街づくり等との関係から、新たに生まれ変わっている事例も少なくない。今回、紹介いただいた事例についてみると、地域の新たなコミュニティの場として変身したり、地域の歴史性を伝える施設として生まれ変わった事例など、都市における公園の役割、期待が多様化している。(表 10)

(2) 緑の普及啓発等に関するイベント等の実施について

ここでは、各自治体における緑の普及啓発等とした実施した①イベント名、②実施場所、③実施時期、④イベントの主な内容に関する4つの項目について伺った。

今回の調査では、東京都関係を含め45自治体からの回答をいただいている。その内容を整理したものが別表の通りである。(表 15)

その結果、緑の普及啓発等に関するイベントは、都民の緑に関する意識を高める取り組みとしてだけでなく、地域社会を繋げる接着材としての役割を果たしているようである。

イベントの規模の大小にかかわらず、地域に密着した取り組みをうかがい知ることができる。

(3) 緑の普及啓発等に関するPR活動等について

市民に配布されているパンフレット・冊子等、緑の普及啓発等に関するPR内容について、伺ったところ、各自治体の特徴ある取り組み事例を紹介いただくことができた。

今回の調査では、東京都関係はじめ29自治体からご紹介いただいた。各自治体に取り組んでいるPRについて参考にしていただきながら、各自治体の関係者の方々にも、より質の高い情報提供をしていただければと思う。(表 16)

東京都の緑化の動向

表7① 平成29年度公園緑地関係決算（都および特別区）

< 東京都関係 >

単位：千円

行政機関	整備費(A)			維持費(B)	合計(A+B)
	構築費	用地費	計		
建設局	14,529,551	10,231,857	24,761,408	14,847,114	39,608,522
港湾局	2,705,676	0	2,705,676	1,365,308	4,070,984
都市整備局	0	0	0	0	0
計	17,235,227	10,231,857	27,467,084	16,212,422	43,679,506

< 特別区 >

単位：千円

行政機関	整備費(A)			維持費(B)	合計(A+B)
	構築費	用地費	計		
千代田区	164,459	0	164,459	282,633	447,092
中央区	124,347	0	124,347	516,297	640,644
港区	18,728	355,000	373,728	568,243	941,971
新宿区	41,008	0	41,008	842,103	883,111
文京区	130,506	0	130,506	617,970	748,476
台東区	207,789	0	207,789	434,403	642,192
墨田区	383,428	44,809	428,237	576,535	1,004,772
江東区	194,223	0	194,223	942,370	1,136,593
品川区	1,767,936	83,605	1,851,541	1,137,013	2,988,554
目黒区	217,937	0	217,937	601,030	818,967
大田区	1,477,962	529,231	2,007,193	4,832,532	6,839,725
世田谷区	628,373	6,216,142	6,844,515	2,241,054	9,085,569
渋谷区	181,769	0	181,769	208,463	390,232
中野区	1,021,205	2,898,969	3,920,174	719,117	4,639,291
杉並区	211,682	2,686,618	2,898,300	928,623	3,826,923
豊島区	2,445,075	0	2,445,075	473,682	2,918,757
北区	51,157	97,867	149,024	1,292,304	1,441,328
荒川区	118,955	1,533,024	1,651,979	302,058	1,954,037
板橋区	899,736	0	899,736	1,057,519	1,957,255
練馬区	408,970	1,444,410	1,853,380	1,322,980	3,176,360
足立区	597,908	125,806	723,714	1,839,245	2,562,959
葛飾区	1,450,060	438,865	1,888,925	1,396,498	3,285,423
江戸川区	264,101	73,952	388,053	2,242,910	2,630,963
計	13,007,314	16,528,298	29,585,612	25,375,582	54,961,194

表 7 ② 平成 29 年度公園緑地関係決算（市・町および島しょ）

< 市および町関係 >

単位：千円

行政機関	整備費 (A)			維持費 (B)	合計 (A+B)
	構築費	用地費	計		
八王子市	327,814	52,798	380,612	1,230,449	1,611,061
立川市	256,465	201,552	458,017	297,497	755,514
武蔵野市	166,188	454,315	620,503	167,553	788,056
三鷹市	598,043	496,147	1,094,190	150,658	1,244,848
青梅市	39,155	0	39,155	196,408	235,563
府中市	101,241	931,615	1,032,856	533,737	1,566,593
昭島市	1,534	0	1,534	85,790	87,324
調布市	152,668	758,816	911,484	348,446	1,259,930
町田市	898,609	496,582	1,395,191	967,360	2,362,551
小金井市	62,247	42,477	104,724	102,246	206,970
小平市	0	0	0	310,246	310,246
日野市	321,063	318,051	639,114	88,866	727,980
東村山市	35,477	0	35,477	89,133	124,610
国分寺市	22,050	0	22,050	76,860	98,910
国立市	—	—	—	—	—
福生市	8,614	0	8,614	179,245	187,859
狛江市	0	63,567	63,567	112,847	176,414
東大和市	3,824	314	4,138	123,571	127,709
清瀬市	7,744	234,475	242,219	66,794	309,013
東久留米市	0	0	0	95,778	95,778
武蔵村山市	28,067	0	28,067	48,343	76,410
多摩市	66,628	0	66,628	546,592	613,220
稲城市	42,759	0	42,759	343,796	386,555
羽村市	175,888	234,829	410,717	247,251	657,968
あきる野市	—	—	—	—	43,896
西東京市	212,127	197,678	409,805	194,451	604,256
瑞穂町	15,392	0	15,392	104,159	119,551
日の出町	0	0	0	14,676	14,676
檜原町	—	—	—	—	—
奥多摩町	—	—	—	—	—
計	3,543,597	4,483,216	8,026,813	6,722,752	14,793,461

< 島しょ >

単位：千円

行政機関	整備費 (A)			維持費 (B)	合計 (A+B)
	構築費	用地費	計		
大島支庁	—	—	—	—	—
八丈支庁	41,625	0	41,625	124,888	166,513
大島町	—	—	—	—	—
八丈町	—	—	—	—	—
三宅村	0	0	0	0	0
新島村	0	0	0	13,365	13,365
計	41,625	0	41,625	138,253	179,878

東京都の緑化の動向

表8① 平成29年度都市公園等の維持管理に関わる費用の内、樹木管理に要した費用(都および特別区)

< 東京都関係 >

単位：千円

行政機関	29年度都市公園の維持に関わる樹木管理費用			備考
	都市公園等の維持管理費用 (A)	樹木管理に要した費用 (B)	樹木管理費用の割合 (B/A)	
建設局	14,847,114	—	—	
港湾局	1,365,308	78,294	5.7%	海上公園に関するもの
都市整備局	0	0	0	維持管理はしていない
計	16,212,422	—	—	

< 特別区 >

単位：千円

行政機関	29年度都市公園の維持に係わる樹木管理費用			備考
	都市公園等の維持管理費用 (A)	樹木管理に要した費用 (B)	樹木管理費用の割合 (B/A)	
千代田区	282,633	13,261	4.7%	
中央区	516,297	40,176	7.8%	
港区	568,243	130,809	23.0%	
新宿区	842,103	126,067	15.0%	
文京区	617,970	85,832	13.9%	
台東区	434,403	60,077	13.8%	
墨田区	576,535	119,272	20.7%	
江東区	942,370	404,005	42.9%	
品川区	1,137,013	193,703	17.0%	樹木管理、害虫駆除、松管理
目黒区	601,030	103,070	17.1%	
大田区	4,832,532	278,332	5.8%	
世田谷区	2,241,054	918,065	41.0%	
渋谷区	208,463	67,604	32.4%	公園樹木剪定、病虫害防除
中野区	719,117	140,600	19.6%	
杉並区	928,623	138,786	14.9%	
豊島区	473,682	60,858	12.8%	樹木剪定、剪定枝葉等再資源化、薬剤防除
北区	1,292,304	75,078	5.8%	
荒川区	302,058	38,036	12.6%	
板橋区	1,057,519	457,571	43.3%	
練馬区	1,322,980	250,095	18.9%	
足立区	1,839,245	267,146	14.5%	
葛飾区	1,396,498	191,966	13.7%	
江戸川区	2,242,910	532,482	23.7%	
計	25,375,582	4,692,891	18.5%	

表 8② 平成 29 年度都市公園等の維持管理に関わる費用の内、樹木管理に要した費用（市町および島しょ）

< 市および町関係 >

単位：千円

行政機関	29 年度都市公園の維持に関わる樹木管理費用			備考
	都市公園等の維持管理費用 (A)	樹木管理に要した費用 (B)	樹木管理費用の割合 (B/A)	
八王子市	1,230,449	56,423	4.6%	
立川市	297,497	94,567	31.8%	
武蔵野市	167,553	—	—	
三鷹市	150,658	21,112	14.0%	
青梅市	196,408	28,350	14.4%	
府中市	533,737	298,242	55.9%	
昭島市	85,790	14,150	16.5%	
調布市	348,446	65,136	18.7%	
町田市	967,360	45,753	4.7%	
小金井市	102,246	52,884	51.7%	
小平市	310,246	52,010	16.8%	
日野市	88,866	139,613	—	公園、水路、街路樹、植樹帯等含む
東村山市	89,133	51,359	57.6%	
国分寺市	76,860	12,254	15.9%	
国立市	—	—	—	
福生市	179,245	24,139	13.5%	
狛江市	112,847	28,046	24.9%	
東大和市	123,571	24,966	20.2%	
清瀬市	66,794	3,842	5.8%	
東久留米市	95,778	11,428	11.9%	
武蔵村山市	48,343	3,842	7.9%	
多摩市	546,592	43,253	7.9%	
稲城市	343,796	17,225	5.0%	
羽村市	247,251	19,459	7.9%	
あきる野市	—	21,434	—	維持管理費は整備費と一体として決算
西東京市	194,451	79,076	40.7%	樹木管理、植生管理委託等含む
瑞穂町	104,159	93,341	89.6%	
日の出町	14,676	5,787	39.4%	
檜原町	—	—	—	
奥多摩町	—	—	—	
計	6,722,752	1,307,691	19.5%	

< 島しょ >

単位：千円

行政機関	29 年度都市公園の維持に係る樹木管理費用			備考
	都市公園等の維持管理費用 (A)	樹木管理に要した費用 (B)	樹木管理費用の割合 (B/A)	
大島支庁	—	—	—	
八丈支庁	124,888	38,608	30.9%	自然公園も管理
大島町	—	—	—	
八丈町	—	—	—	
三宅村	0	0	0	
新島村	13,365	766	5.7%	
計	138,253	39,374	28.5%	

東京都の緑化の動向

表9 平成29年度都市公園等に関わる用地取得費および規模（東京都・特別区・市町）

< 東京都関係 >

単位：千円

行政機関	用地取得費用（千円）	用地取得規模（㎡）	備考
建設局	10,231,857	48,088	
港湾局	0	0	
都市整備局	0	0	
計	10,231,857	48,088	

< 特別区 >

単位：千円

行政機関	用地取得費用（千円）	用地取得規模（㎡）	備考
港区	355,000	271	
墨田区	44,809	228	
品川区	83,605	215	
中野区	2,898,969	4,660	
北区	97,867	488	
荒川区	1,533,024	4,482	
練馬区	1,444,410	12,005	
足立区	125,806	381	
計	6,583,490	22,730	

< 市および町関係 >

単位：千円

行政機関	用地取得費用（千円）	用地取得規模（㎡）	備考
八王子市	52,798	2,472	
立川市	201,552	863	
武蔵野市	454,315	1,462	
三鷹市	496,147	2,159	
府中市	931,615	5,580	
調布市	758,816	1,649	
町田市	496,582	8,858	
小金井市	42,477	157	
日野市	318,051	122,363	他団体所有地の取得
西東京市	197,678	861	
狛江市	63,567	181	
東大和市	314	—	
清瀬市	234,475	1,895	
羽村市	234,829	6,288	
計	4,483,216	154,788	

※取得面積は、小数点以下を四捨五入

表 10 平成 29 年度特色ある公園づくりの事例（特別区・市町）

< 特別区 >

行政機関	公園名	区分	実施年度	公園の特色
港区	霊南坂公園	新規	32 年度 開設予定	未開設都市計画公園の早期開設を図るため、「港区公園街づくり制度」を利用した公園
	芝浦公園	リニューアル	平成 28 年度	土地区画整理事業により位置を変更すると共に、従前の公園（4,320㎡）よりも面積を確保（約 6,800㎡）し、公共公益施設と一体的に整備された公園
文京区	肥後細川庭園	リニューアル	平成 26 年度 ～ 平成 29 年度	歴史性を活かした庭園や松馨閣を基点とし、周辺施設と連携した観光客誘致など、一体感のある公園となっている。
台東区	山谷堀公園（2 期）	リニューアル	平成 30 年度	浮世絵や昔の写真により山谷堀の面影等を紹介する歴史パネルを設置
	御徒町公園	リニューアル	平成 30 年度	大名庭園の名残りを活かす池や石積みの修景
目黒区	目黒天空庭園	新規	平成 24 年度	首都高速道路大橋ジャンクションの屋上に整備された立体都市公園。菜園などが設けられ、地域住民による維持管理が行われている。
	成田西ふれあい農業公園	新規	平成 27 年度	区民が農に親しむ農業公園として、杉並らしい農のある風景を演出するとともに、農や食への理解や知識の向上を図り、また都市における農の魅力や農地の多目的機能の大切さを伝える場として整備。
	井草森公園	リニューアル	平成 27 年度	園庭のない保育施設及び地域の乳幼児の健全育成を図り、あわせて地域の子育て中の親子同士の交流を図るため、公園の一部を乳幼児の利用を主として広場として整備
	天沼弁天池公園			
	高南幼児公園			
	阿佐ヶ谷中央公園			
	阿佐ヶ谷ことり公園			
	松庵わかくさ公園			
	浜田山かなめ公園			
	兵庫橋公園			
	梅里中央公園			
	永福北公園			
	桐の木公園			
	柳窪公園			
新町鳥居先公園				
たんぽぽ公園	平成 29 年度			

東京都の緑化の動向

豊島区	造幣局地区 跡地公園	新規	2020年 竣工予定	東池袋木造住宅密集地域の「防災拠点」として豊島区最大面積1.7haの公園を整備。公園を南北に貫く170mのイチヨウ並木と、はらっぱに面した広いウッドデッキのあるカフェが特徴。
	池袋西口公園	リニューアル	2019年 竣工予定	池袋西口公園は公園全体がコンサートホールに変身。インフォメーションカフェと一体で豊島区を楽しむ空間に。
	中池袋公園	リニューアル	2019年 竣工予定	中池袋公園はリニューアルした豊島公会堂と感動を分かち合う広場として整備。
練馬区	練馬区 総合運動公園	新規	平成29年 ～30年度 整備	日本陸連第4種公認の400mトラックをはじめとする区の中核となるようなスポーツ施設等を有する近隣公園
	四季の香公園 (西欧庭園区域)	リニューアル	32年度改修 33年度開園	平成28年5月にオープンした、バラの香りをテーマとした「四季の香ローズガーデン」と一体的になるよう、新たに「バラの色」と「ハーブの香り」をテーマにしたゾーンを整備する。
足立区	伊興ファミリー 公園	新規	平成29年度	緑化率80%以上の公園として整備。グラウンドゴルフが盛んで、利用者や地域の協力により芝生が美しく管理されている。
	竹の塚第一公園	リニューアル	平成29年度	昆虫をテーマに改修。既存の遊具を改良し、しゃくとり虫の滑り台や蟻の巣の遊具に仕立てた。トイレの壁にはカブトムシを描いた
	舎人十号公園	その他	平成29年度	昭和の空き地をイメージした公園。土管を置いただけだが、子ども達からは「ドラえもん公園」「マリオ公園」と呼ばれ親しまれている。
江戸川区	東部交通公園	新規	平成29年 ～30年度	交通教育の場として交通公園機能を配置した。最近の新たな交通ルールとして、ブルーレーン、ナビマークを導入した。また、高台と広さを生かして防災公園としての機能（防災井戸、マンホールトイレ等）も設置した。

< 市町 >

行政機関	公園名	区分	実施年度	公園の特色
三鷹市	下連雀こまどり 児童遊園	新規	平成30年 11月開園	ボール遊び可能（高さ5mのネット設置）
西東京市	(仮称) 泉小学校跡地公園	新規	平成31 年度整備	基本設計の段階から市民懇談会を実施し、設計から市民ニーズを取り入れている。

表 11 ① 平成 29 年度街路樹等の整備費（決算）および総規模（都および特別区）

< 東京都関係 >

行政機関	街路樹新規 植栽本数 (本)	植樹帯 整備面積 (㎡)	整備費用（千円）			平成 29 年度末 総規模	
			街路樹	植樹帯	計	街路樹本数 (本)	植樹帯面積 (㎡)
建設局	—	—	583,616	—	583,616	649,078	1,152,962
港湾局	0	0	0	0	0	9,384	146,517
※都市整備局	0	0	0	0	0	0	0
計	—	—	583,616	—	583,616	658,462	1,299,479

< 特別区 >

行政機関	街路樹新規 植栽本数 (本)	植樹帯 整備面積 (㎡)	整備費用（千円）			平成 29 年度末 総規模	
			街路樹	植樹帯	計	街路樹本数 (本)	植樹帯面積 (㎡)
千代田区	11	28	1,036	489	1,525	5,417	29,983
中央区	50	288	—	—	34,592	6,791	13,534
港区	13	7	2,292	1,063	3,355	5,393	※ 15097
新宿区	0	0	0	0	0	4,473	30,995
文京区	0	0	0	0	0	2,873	13,759
台東区	0	0	0	0	0	2,729	9,242
墨田区	0	0	0	0	0	3,836	15,780
江東区	687	118	11,145	1,374	12,519	17,635	89,229
品川区	43	154	6,059	1,616	7,675	3,807	22,250
目黒区	9	120	379	1,137	1,516	2,828	19,073
大田区	0	0	0	0	0	11,363	79,984
世田谷区	21	296	—	—	—	138,811	79,924
渋谷区	0	0	0	0	0	3,310	15,543
中野区	18	0	1,096	100	1,196	500	17,073
杉並区	2	304	57	326	383	4,763	47,402
豊島区	0	0	0	0	0	2,341	6,706
北区	0	0	0	0	0	5,526	35,727
荒川区	0	0	0	0	0	2,390	17,937
板橋区	4	0	16	0	16	8,931	44,750
練馬区	0	0	0	0	0	6,346	66,915
足立区	14	0	1,596	0	1,596	22,860	104,838
葛飾区	21	0	2,173	0	2,173	10,964	85,309
江戸川区	12	197	1,244	2,423	3,667	61,197	367,199
計	905	1,512	27,093	8,528	70,213	335,084	1,213,152

※都市整備局の管理は無し

※港区所管の植樹帯はm表記

※世田谷区所管の街路樹等の整備費用は不明

東京都の緑化の動向

表 11 ② 平成 29 年度街路樹等の整備費（決算）および総規模（市町および島しょ）

< 市および町 >

行政機関	街路樹新規 植栽本数 (本)	植樹帯 整備面積 (㎡)	整備費用（千円）			平成 29 年度末 総規模	
			街路樹	植樹帯	計	街路樹本数 (本)	植樹帯面積 (㎡)
八王子市	0	0	0	0	0	27,676	201,077
立川市	28	204	1,210	4,450	5,660	4,718	37,303
武蔵野市	0	0	0	0	0	2,478	9,398
三鷹市	0	0	0	0	0	2,796	13,183
青梅市	0	0	0	0	0	3,587	24,209
府中市	0	894	0	7,573	7,573	16,077	58,078
昭島市	0	0	0	0	0	3,245	17,927
調布市	0	0	0	0	0	4,233	28,665
町田市	45	31	2,150	519	2,669	16,119	69,103
小金井市	0	0	0	0	0	1,069	8,764
小平市	5	0	1,491	0	1,491	3,201	23,002
日野市	0	0	0	0	0	2,967	21,598
東村山市	0	—	0	7,086	7,086	1,785	11,472
国分寺市	9	0	421	0	421	1,242	7,646
国立市	—	—	—	—	—	—	—
福生市	0	44	0	430	430	1,178	1,883
狛江市	0	0	0	0	0	1,170	8,006
東大和市	0	0	0	0	0	3,265	20,097
清瀬市	0	0	0	0	0	600	5,585
東久留米市	0	0	0	0	0	1,591	6,865
武蔵村山市	0	0	0	0	0	1,516	8,864
多摩市	0	0	0	0	0	7,873	100,639
稲城市	0	0	0	0	0	6,186	67,945
羽村市	0	0	0	0	0	2,627	4,881
あきる野市	0	0	0	0	0	1,195	5,821
西東京市	0	0	0	0	0	1,516	9,154
瑞穂町	0	0	0	0	0	1,831	9,512
日の出町	0	0	0	0	0	598	7,440
檜原町	—	—	—	—	—	—	—
奥多摩町	—	—	—	—	—	—	—
計	87	1,173	5,272	20,058	25,330	122,339	788,117

< 島しょ >

行政機関	街路樹新規 植栽本数 (本)	植樹帯 整備面積 (㎡)	整備費用（千円）			平成 29 年度末 総規模	
			街路樹	植樹帯	計	街路樹本数 (本)	植樹帯面積 (㎡)
大島支庁	—	—	—	—	—	—	—
八丈支庁	0	0	0	0	0	10,102	381,059
大島町	—	—	—	—	—	—	—
八丈町	—	—	—	—	—	—	—
三宅村	0	0	0	0	0	0	0
新島村	197	120	—	—	765	—	—
計	197	120	—	—	765	10,102	381,059

表 12 ① 平成 29 年度街路樹および植樹帯等の維持管理費用（都および特別区）

< 東京都関係 >

単位：千円

行政機関	街路樹等の費用	植樹帯等の費用	維持管理費用計	備考
建設局	5,503,868	—	5,503,868	植樹帯等費用含む
港湾局	21,856	90,745	112,601	
都市整備局	0	0	0	
計	5525724	90,745	5,616,469	

< 特別区 >

単位：千円

行政機関	街路樹等の費用	植樹帯等の費用	維持管理費用計	備考
千代田区	62,524	63,812	126,336	
中央区	75,668	129,895	205,563	
港区	22,030	—	22,030	植樹帯等費用含む
新宿区	107,138	35,410	142,548	
文京区	47,695	—	47,695	
台東区	91,431	—	91,431	植樹帯等費用含む
墨田区	94,209	—	94,209	植樹帯等費用含む
江東区	313,521	—	313,521	植樹帯等費用含む
品川区	13,103	—	13,103	植樹帯等費用含む
目黒区	48,526	11,930	60,456	
大田区	281,077	—	281,077	植樹帯等費用含む
世田谷区	273,274	—	273,274	植樹帯等費用含む
渋谷区	31,918	5,526	37,444	
中野区	47,468	—	47,468	植樹帯等費用含む
杉並区	67,774	9,878	77,652	
豊島区	33,515	5,819	39,334	
北区	202,636	—	202,636	植樹帯等費用含む
荒川区	47,709	—	47,709	植樹帯等費用含む
板橋区	143,716	—	143,716	植樹帯等費用含む
練馬区	86,754	58,762	145,516	
足立区	257,499	—	257,499	植樹帯等費用含む
葛飾区	304,209	—	304,209	植樹帯等費用含む
江戸川区	626,532	39,790	666,322	
計	3,279,926	360,822	3,640,748	

東京都の緑化の動向

表 12 ② 平成 29 年度街路樹および植樹帯等の維持管理費用 (市町および島しょ)

< 市および町関係 >

単位：千円

行政機関	街路樹等の費用	植樹帯等の費用	維持管理費用計	備考
八王子市	211,697	—	211,697	植樹帯等費用含む
立川市	82,493	42,974	125,467	
武蔵野市	86,494	—	86,494	植樹帯等費用含む
三鷹市	50,463	—	50,463	植樹帯等費用含む
青梅市	29,863	25,139	55,002	
府中市	137,754	82,122	219,876	
昭島市	13,016	14,263	27,279	
調布市	114,210	—	114,210	植樹帯等費用含む
町田市	247,609	—	247,609	植樹帯等費用含む
小金井市	17,635	18,479	36,114	
小平市	43,041	—	43,041	植樹帯等費用含む
日野市	139,613	—	139,613	植樹帯、公園樹木費用等含む
東村山市	2,170	7,086	9,256	
国分寺市	33,879	—	33,879	植樹帯等費用含む
国立市	—	—	—	
福生市	10,262	—	10,262	植樹帯等費用含む
狛江市	14,062	—	14,062	植樹帯等費用含む
東大和市	40,792	—	40,792	植樹帯等費用含む
清瀬市	899	—	899	植樹帯等費用含む
東久留米市	20,701	9,507	30,208	
武蔵村山市	3,370	2,912	6,282	
多摩市	170,627	—	170,627	植樹帯等費用含む
稲城市	66,708	—	66,708	植樹帯等費用含む
羽村市	13,500	3,099	16,599	
あきる野市	19,344	6,025	25,369	
西東京市	11,243	11,243	22,486	
瑞穂町	20,221	—	20,221	植樹帯等費用含む
日の出町	1,716	6,927	8,643	
檜原町	—	—	—	
奥多摩町	—	—	—	
計	16,033,382	229,776	1,833,118	0

< 島しょ >

単位：千円

行政機関	街路樹等の費用	植樹帯等の費用	維持管理費用計	備考
大島支庁	—	—	—	
八丈支庁	95,728	—	95,728	植樹帯等費用含む
大島町	—	—	—	
八丈町	—	—	—	
三宅村	0	0	0	
新島村	0	2,594	2,594	
計	0	2,594	2,594	

表 13① 樹木診断の取り組みについて（都および特別区）

< 東京都関係 >

行政機関	樹木診断の有無	29年度（実績）			30年度（予算）			31年度実施予定の有無
		公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	
建設局	有	0	—	243,689	0	—	261,900	有
港湾局	無	0	0	0	0	0	0	無
都市整備局	無	0	0	0	0	0	0	無
計		0	0	243,689	0	0	261,900	

< 特別区 >

行政機関	樹木診断の有無	29年度（実績）			30年度（予算）			31年度実施予定の有無
		公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	
千代田区	有	0	912	19,132	0	2,500	57,307	無
中央区	有	0	200	3,938	0	200	4,619	有
港区	有	7,373	62	38,888	136	73	2,924	有
新宿区	有	19	237	9,363	—	643	30,394	有
文京区	有	268	952	5,984	750	1,225	26,341	有
台東区※	有	1,722	2,585	1,546	995	2,576	1,560	有
墨田区	有	0	924	4,214	0	0	0	無
江東区	有	204	51	5,541	0	50	1,500	有
品川区	有	269	400	8,434	570	400	26,697	有
目黒区	有	131	0	3,252	0	0	0	無
大田区	有	0	0	0	341	1,000	23,074	有
世田谷区	有	55	86	—	91	90	6,140	有
渋谷区	有	9	1	322	0	12	636	有
中野区	無	0	0	0	0	0	0	有
杉並区	有	1	2	250	1	1,034	23,884	有
豊島区	有	0	0	0	0	8	2,300	無
北区	有	0	1,636	15,876	0	529	10,044	有
荒川区	無	0	0	0	0	0	0	無
板橋区	有	704	2,840	51,954	0	2,073	48,466	無
練馬区	有	140	81	6,220	—	35	1,471	有
足立区	有	2	745	13,705	0	500	11,330	有
葛飾区	有	0	294	8,586	0	0	0	有
江戸川区	有	1	24	200	0	0	0	無
計		10,898	12,032	197,405	2,884	12,948	278,687	

※台東区は、樹木調査を兼ねて概観診断を実施している。

東京都の緑化の動向

表 13② 樹木診断の取り組みについて（市町）

< 市および町 >

行政機関	樹木診断の有無	29年度（実績）			30年度（予算）			31年度実施予定の有無
		公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	公園（本数）	街路樹（本数）	金額（千円）	
八王子市	有	0	0	0	0	0	0	無
立川市	無	0	0	0	0	0	0	無
武蔵野市	有	—	—	9,352	—	—	3,794	有
三鷹市	有	0	2	108	0	319	7,039	無
青梅市	無	0	0	0	0	0	0	無
府中市	有	0	23	954	0	256	2,376	有
昭島市	無	0	0	0	0	0	0	無
調布市	有	0	193	4,212	0	225	3,780	無
町田市	有	0	920	14,341	0	800	15,000	有
小金井市	無	0	0	0	0	0	0	無
小平市	有	0	138	1,950	0	41	1,604	有
日野市	有	0	47	—	0	0	0	無
東村山市	有	1,592	63	3,693	2,189	129	5,411	有
国分寺市	有	0	0	0	53	3	2,248	有
国立市	—	—	—	—	—	—	—	—
福生市	無	0	0	0	0	0	0	無
狛江市	有	0	0	0	0	0	0	無
東大和市	無	0	0	0	0	0	0	無
清瀬市	無	0	0	0	0	0	0	無
東久留米市	有	0	0	0	0	30	497	有
武蔵村山市	無	0	0	0	0	0	0	無
多摩市	有	0	480	4,147	0	132	3,500	有
稲城市	無	0	0	0	0	0	0	無
羽村市	無	0	0	0	0	0	0	無
あきる野市	無	0	0	0	0	0	0	無
西東京市	有	—	—	200	—	—	200	有（※1）
瑞穂町	無	0	0	0	0	0	0	無
日の出町	無	0	0	0	0	0	0	無
檜原町	—	—	—	—	—	—	—	—
奥多摩町	—	—	—	—	—	—	—	—
計		1,592	1,866	38,957	2,242	1,935	45,449	

※1 西東京市は、公開樹木診断を公園で実施

表 14 ① 平成 29 年度緑の普及啓発に関する事業（都および特別区）

< 東京都関係 >

行政機関	緑化関連等における事業費			合計
	苗木の配布事業	生垣事業	その他の事業	
建設局	0	0	0	0
港湾局	0	0	0	0
都市整備局	0	0	0	0
計	0	0	0	0

< 特別区 >

行政機関	緑化関連等における事業費			合計
	苗木の配布事業	生垣事業	その他の事業	
千代田区	658	0	0	658
中央区	70	0	3,871	3,941
港区	4,449	0	0	4,449
新宿区	0	78	721	799
文京区	53	64	0	117
台東区	0	0	0	0
墨田区	0	375	0	375
江東区	0	0	0	0
品川区	1,580	2,193	0	3,773
目黒区	475	4,307	14,350	19,132
大田区	3,973	2,155	0	6,128
世田谷区	289	980	2,749	4,018
渋谷区	0	0	0	0
中野区	1,296	0	0	1,296
杉並区	0	1,198	1,794	2,992
豊島区	244	192	0	436
北区	3,740	620	7,266	11,626
荒川区	9,591	243	0	9,834
板橋区	0	45	0	45
練馬区	4,182	3,521	6,866	14,569
足立区	0	825	1,071	1,896
葛飾区	0	225	288	513
江戸川区	0	0	0	0
計	30,600	17,021	38,976	86,597

東京都の緑化の動向

表 14 ② 平成 29 年度緑の普及啓発に関する事業（市町）

< 市および町 >

行政機関	緑化関連等における事業費			合計
	苗木の配布事業	生垣事業	その他の事業	
八王子市	87	370	1,226	1,683
立川市	162	0	17	179
武蔵野市	1,021	939	0	1,960
三鷹市	0	693	0	693
青梅市	0	137	0	137
府中市	0	0	6,289	6,289
昭島市	812	60	2,563	3,435
調布市	0	290	282	572
町田市	343	0	0	343
小金井市	0	222	1,092	1,314
小平市	154	831	3,651	4,636
日野市	0	30	80	110
東村山市	0	33	36	69
国分寺市	0	200	0	200
国立市	—	—	—	—
西東京市	0	354	5,193	5,547
福生市	0	0	3,131	3,131
狛江市	270	65	108	443
東大和市	0	0	0	0
清瀬市	0	35	0	35
東久留米市	0	0	3,159	3,159
武蔵村山市	0	1,207	0	1,207
多摩市	1,963	375	4,126	6,464
稲城市	679	356	0	1,035
羽村市	0	60	233	293
あきる野市	108	0	375	483
瑞穂町	1,793	0	0	1,793
日の出町	0	0	0	0
檜原町	—	—	—	—
奥多摩町	—	—	—	—
計	7,392	6,257	31,561	45,210

※小金井市「その他の事業費」は、保存生垣奨励金

表 15 緑の普及啓発として実施したイベント等

< 東京都関係 >

行政機関	イベント名	実施場所	実施時期	イベントの主な内容
港湾局	グリーンづくり 2017 (東京都港湾局とグリーン(株)との共催)	海の森公園予定地	平成 29 年 5 月	クズの除去作業、海の森の散策、 生き物観察
	海の森育林活動 (東京都港湾局と三菱電機(株)との共催)	海の森公園予定地	平成 29 年 5 月	クズの除去作業、海の森の散策、
	バスでオリンピック会場「海の森」 に行こう (東京都港湾局と NPO す ぎなみ環境ネット ワークとの共催)	海の森公園予定地	平成 29 年 6 月	クズの除去作業、除去したクズを利用したリー スづくり

< 特別区 >

行政機関	イベント名	実施場所	実施時期	イベントの主な内容
千代田区	ゴーヤ苗等の配布	区内 6 出張所 千代田区役所	5 月 24 日 ～ 6 月 1 日	区内在住者及び区内事業者に対し、先着順で育 成セット (ゴーヤ苗 1 株・ハーブ苗 1 株・肥料等) を配布。希望者にはゴーヤの苗をもう 1 株配布。
中央区	花と苗木の即売会	あかつき公園 浜町公園 月島第一児童公園	5 月中旬 10 月中旬	苗木の即売 屋上緑化等の事例紹介 緑の相談コーナー 苗木無料配布 (10 月のみ)
	誕生記念植樹	築地川公園 浜町公園 石川島公園 晴海臨海公園	3 月中旬	新生児誕生のお祝いとしての記念植樹
港区	植木市	有栖川宮記念公園 芝公園	春・秋	庭木、草花、肥料及び園芸用土の販売 草花の種の無料配布。青空園芸教室。 緑の相談
	園芸講座	各地区総合支所		
新宿区	屋上緑化講座	新宿コズミック スポーツセンター	10 月	屋上緑化に関する知識や関心を高めることを目 的に、講義及び実習の講座を委託で実施
	みどりの講座と 作品展示	新宿区大久保 地域センター	12 月	みどりに関する知識や関心を高めることを目的 に、園芸講座を委託で実施。 講座で作製した作品を展示し、より多くの方に みどりに親しんでもらう。
	ミニ菊花展	新宿中央公園	11 月	区民の方が育てた菊を展示し、より多くの方に 緑に親しんでもらう。
文京区	植物講演会	文京シビックセン ター 4 階シルバー ホール	7 月 23 日 (日)	小学生とその保護者を対象に、植物についての 講演会を開催する。
	自然観察会	①東大本郷キャン パス ②六義園 ③小石川植物園	① 11 月 12 日(日) ② 30 年 3 月 11 日 ③ 30 年 3 月 25 日	年 3 回 (秋・春) 様々な場所で自然を散策する。

東京都の緑化の動向

文京区	苗木配布事業	礫川公園	10月14日 (日)	東京都苗木生産供給事業を活用し、区民を対象に苗木の配布を実施する。
	巨木スタンプラリー	東大本郷キャンパス	10月22日 (日) (台風のため中止)	小学生とその保護者に、レクリエーションを通して楽しみながら、区内に残る大きな樹木に親しみを持ってもらう。
台東区	あさがおの苗配布 (区民対象)	庁舎玄関	5月	グリーン・リーダー(台東区緑化ボランティア)が育てたあさがおの苗を区民に無料配布
	谷中まつり 苗木配布	防災広場 初音の森	10月	東京都から提供された苗木を参加者に配布
	花と緑のふれあい 広場	富士公園	3月	谷中まつり同様、東京都から提供された苗木をグリーン・リーダー主催の緑化イベントで配布
墨田区	さくらまつり	緑と花の学習園	4月第1 土曜日	苗木の配布、緑化講習会、緑化相談
	みどりの日イベント	緑と花の学習園	みどりの日	苗木の配布、緑化講習会、緑化相談
	すみだ環境フェア	庁舎	6月最終 週(イベントは土日)	苗木の配布、緑化講習会、緑化相談
	すみだまつり	錦糸公園	10月第1 土、日曜日	苗木の配布、緑化講習会、緑化相談
	菊まつり	緑と花の学習園	11月初旬 ~下旬	菊の展示・オープニングイベントでは、苗木の配布、緑化相談、緑茶サービス
江東区	みどりのコミュニティづくり講座	古石場文化センター 豊洲文化センター 総合区民センター 江東区文化センター	6月 9月~10月 11月 30年2月	はじめてのハーブ はじめてのキッチンガーデン コンテナガーデン 多肉植物
	CIG キャンペーン	深川ギャザリア 小名木川クローバー橋、深川ギャザリア、都立木場公園、区立東陽公園、旧中川・川の駅	4月23日 9月24日 10月14日 10月15日 10月28日 30年3月17日	パネル展示、フレンドシップグリーン体験、寄植え体験教室
	新規モニターマン ション講習会	地区集会所 NIC ハイム 新大橋永谷マンション 清澄第二ローヤルコーポ	12月2日 12月9日 30年2月18日 30年2月19日	植付け講習
	継続モニターマン ション講習会	クレストフォルム亀戸 プライトスクエア、メゾンイデアル木場、都営豊洲五丁目アパート、ブルージュ 東大島、区営扇橋1丁目アパート	6月18日 6月25日 7月22日 10月22日 11月2日	植付け講習
	「CITY IN THE GREEN」オンライン フォトコンテスト	—	6月1日 ~10月31日	地域のシンボルや誇りとなるまとまった緑の写真を募集し、区内の貴重な緑をPR
品川区	みどりと花のフェスティバル	東品川海上公園 西大井広場 戸越公園 しながわ区民公園	4月1,2,8,9日 4月15,16,22,23日 10月7,8,14,15日 10月21,22,28,29日	チューリップ祭り、押し花コーナー、苗販売、ふれあい動物園、苗木配布、フラワーアレンジメント教室、遊び工作、再生園芸土配布等

調査内容一覧

品川区	園芸講座	品川区役所	11月11日	区民110人を対象に、午前、午後のコースに分けて開催。30年度は季節感を感じるコンテナガーデン
目黒区	エコ・園芸生活講座	花とみどりの学習会(中目黒公園内)	4月～8月	環境に配慮した園芸への理解を促すことを目的に、家庭でもできる生ごみたい肥づくりや野菜・ハーブの栽培・活用法などをテーマとした全10回の連続講座
	いきもの発見隊	目黒川船入場 林試の森公園	5月28日 3月11日	専門家の指導により、川や公園で観察会形式の調査を行い生物生育状況を把握する区民参加型の生物調査会。生物多様性やみどりの普及啓発を行う。29年度は、目黒川で河川内で魚類等、林試の森公園で鳥類の観察会を行った。
	いきもの住民会議	東京工業大学大岡山キャンパス	11月18日	一般区民や自然通信員(生物調査ボランティア)の調査能力の向上を図る研修及び交流を目的とした調査会。29年度は土壌生物をテーマとした。
	野鳥のすめるまちづくり展	目黒区総合庁舎	7月	平成26年に制定した生物多様性地域戦略を区民に広く普及啓発するためのパネル展示。夏休み期間中のみどりやいきものに関するイベント等の事業紹介を行う。
大田区	緑のカーテン講習会	区役所、出張所等	4月15、16、22日	緑の普及及び温暖化対策の一環としてゴーヤやフウセンカズラ等、緑のカーテンの栽培方法を習得する講習会を開催している。
	緑の講習会	区民ホールアプリコ	6月7日	緑の効用と草木の育成、栽培方法を学ぶ機会を提供するため、大田区緑化推進協議会と共催し、NHK 趣味の園芸講師等を迎え講習会を開催している。
	18色の緑づくり支援育成講習会	各特別出張所	通年	18特別出張所管内ごとに地域の花を選び、地域の方に花苗や種を配布し、その育て方の講習会を開催している。
	18色の緑づくり支援育成講習会	区民ホールアプリコ	9月30日	18色の緑づくりの応援及びPRとして、NHK 趣味の園芸講師を招き講演会を行う。また、寄せ植え体験等のワークショップ、パネル展示も開催。
世田谷区	せたがやガーデニングフェア2018	馬事公苑 けやき広場	平成30年5月	見本庭園の展示、園芸・緑化資材・花苗等の販売、専門家による指導を受けての庭づくり体験、ハンギングバスケット講習会等
渋谷区	苗木配布事業	都立代々木公園	11月3日、4日	毎年開催される「くみんの広場」と呼ばれる秋のお祭りにて、ブルーベリーとオリーブの苗木を来場者に配布するイベント
中野区	中野区花と緑の祭典	中野四季の森公園	年2回(5月、10月)	実行委員会形式による区民との共催により、緑に関するさまざまな催しや、家庭で緑を楽しむための教室等を実施。
	みどりの教室	中野区役所	年1回(3月)	専門家による講義や寄せ植え実技指導により、区民のみどりに関する知識や技術、自然や環境への理解を深めていただく。
杉並区	みどりのイベント2017	柏の宮公園	5月27日	みどりに関する工作 ツリークライミング、草花、苗木の販売など
	屋敷林公開イベント 屋敷林を見学しよう	荻窪一丁目屋敷林	7月22日	屋敷林にある樹木・野菜のクイズ、所有者による屋敷林の解説、温度測定

東京都の緑化の動向

杉並区	みどりの講座	①阿佐ヶ谷地域区民センター ②塚山公園管理事務所	①8月19日 ②1月21日	①葉脈標本講座：身近な植物から葉脈標本作りしおりに作成 ②ブルーベリー苗の植え付け講座
	落ち葉感謝祭2017	中杉通り、井草森公園ほか7箇所	11月25日	公園・道路・路上の落ち葉掃き 落ち葉プール・焼いも・草木染めなどの催し 剪定枝を使った工作
	たき火	荻窪一丁目屋敷林	1月20日	たき火
	炭焼き体験会	柏の宮公園	3月 10日、11日	ドラム缶窯による炭焼き、飾り炭づくり、 来園者への炭焼き解説
	みどりのベルト寄せ植え講座	①堀之内小学校 ②杉並区役所	①3月17日 ②3月18日	寄せ植えづくり みどりのベルト事業の紹介・説明
豊島区	つる植物・いのちの森苗木配布	豊島区役所	30年6月3日 30年9月24日	つる植物・苗木の配布
北区	第12回北区環境展	王子第一小学校	10月21日	子どもたちが楽しみながら自然や環境を学び、 北区区内で活動するNPO・ボランティア団体や法人、 企業、町会、行政等で開催する。
	第87回区民植木市	飛鳥山公園	4月14日～16日	区内各家庭の緑化をはかることを目的として、 北区種苗組合とNPO法人日本多肉植物の会と共同して 開催しています。苗木類の販売や専門家による 緑の相談も受け付けています。
荒川区	第14回尾久ノ原シダレザクラ祭り	都立尾久の原公園	4月上旬	・ステージショー ・模擬店、物産展 ・草花即売会 ・大道芸や子供向けゲーム
	第9回あらかわバラの市	町屋駅周辺	5月中旬	・鉢バラの販売 ・バラと都電の関連商品販売 ・バラの育て方講習会 ・サクソフォンカルテット演奏会
板橋区	グリーンフェスタ	区立赤塚植物園	4月上旬	春の花と新緑の植物園で日替わりで イベントを行う。(例)ハーブティー配布等
	緑のガイドツアー	区内	年5回(春・秋)	区内の公園や崖線等を歩きながら植物 を中心に解説を行う。区民ボランティアと協働 で実施。各回定員30名。
練馬区	ローズガーデンフェスティバル	花とみどりの相談所、 四季の香ローズガーデン	春(5/3～5/27) 夏(7/21～8/5) 秋(10/6～10/28) 冬(12/1～12/24)	・植物を使った作品づくり ・植物にまつわる展示(クリスマスツリー等) ・ガーデンコンサート ・バラジャムのクレープ販売 など
	梅ひろい、キウイ収穫、栗ひろい、クリスマス飾りづくり	こどもの森	梅5/30、 キウイ11/13～16、 栗10/10、 クリスマス12/12	・遊びを通じた自然とのふれあい ・栗のイガの煮汁を使った染め物 ・キウイのせん定ツルやどんぐりを活用した工作
	自然体験プログラム	中里郷土の森	毎週日曜日	・遊びを通じたみどりや生き物とのふれあい ・実験や観察による身近な自然についての学習

調査内容一覧

練馬区	植物観察会	牧野記念庭園	7/16、 9/24、 11/23、 3/20	牧野記念庭園内の植物観察
足立区	○しょうぶまつり ■梅まつり	○しょうぶ沼公園 ■大谷田公園	○6月上旬 ■3月上旬	花の名所の公園を区内外にPRするイベント (○ハナショウブ、■ウメ)
	みどりのカフェ ○ぶらっと寄せ植え ■みどりのレッスン	庁舎ほか 区施設	月各1回 計18回 (8、12、3 月を除く)	対象：緑のサポーター（中学生以上ならどなたでも登録可）、緑のサポーターを募り、互いに交流する場を提供するイベント・講座 ○季節の寄せ植えづくり、植物クラフトなど（先着順） ■ガーデナーなどの講師による講座（予約制）
	みどりのがっこう ○剪定講習会 ■暮らしの園芸講座	庁舎ほか 区施設	○5、10月 各2回 ■5、8、 10、12、1、 2月計6回	対象：足立区民（予約制） ○造園業者から学ぶ講座 ■ガーデナーなどの講師による講座
	出張みどりのカフェ	庁舎以外の 区施設など	4、6、7、 12、3月の 休日計8回	主に子育て世代をターゲットに、集客力が高い公園イベントや区施設で、植物を使った小物づくりなどを実施
	足立のきれいな庭 をご紹介 (パネル展示)	○出張みどりのカ フェ■区施設	○12月、 3月 ■2～3月	区内にある美しい庭や花壇、玄関先の鉢植えなどをビューテフルガーデンとして認定し、写真で紹介するパネル展示。人気投票も実施。
葛飾区	環境・緑化フェア	テクノプラザ葛飾	6月	苗木の無料配布、花とみどりのクイズ、緑の募金、花いっぱいのもちづくり・緑化事業のパネル展示、樹木の剪定実演等
	樹木フェア	細田グリーンバンク	5、10月	花苗、樹木の無料配布、園芸相談、樹木の設定実演
江戸川区	小岩菖蒲園まつり	小岩菖蒲園（江戸川区北小岩四丁目先：江戸川河川敷）	6月3日 ～ 6月18日	期間中の土・日曜日に模擬店等の開催、草花の即売。ラッピングバスの運行（期間中の土・日曜日にJR小岩駅から小岩菖蒲園まで直通運行）
	花壇コンクール	小岩フラワーロード	5月25日 ～ 6月11日	個性豊かな草花の寄せ植えの展示を通して緑化活動を啓発し、地域の賑わいと連帯感を育む。コンテスト花壇においては、一般人気投票と審査会の採点結果により表彰している。
	花と緑の写真・短歌・俳句コンクール	※区役所本庁舎 1階ロビー	4月1日～ 11月30日 入選作品 展示 30年2月 20日～28日	江戸川区内の「四季の花・緑、人」をテーマにコンクール作品を募集・展示し、花と緑の普及啓発を行う。
	えどがわ花いっぱい運動のつどい	タワーホール船堀 1階展示ホール	30年 3月21日	区民・各種団体などと協働で進めている花のまちづくりの意識の高揚ときっかけづくりを関係団体とともに開催し、区民の環境をよくする運動への更なる促進を図る。

東京都の緑化の動向

<市および町>

行政機関	イベント名	実施場所	実施時期	イベントの主な内容
八王子市	八王子環境フェスティバル	JR 八王子駅北口 西放射線ユーロード、南口とちの木デッキ	毎年6月の第一土曜日	60を超える体験型ブースの出展（ごみクレーン体験、丸太切り体験など）や地元で活躍する方々のパフォーマンスショー、スタンプラリーなど
立川市	立川グリーンウイーク 2018 緑化まつり	みのーれ立川 北広場	4月29日	苗木・花苗の配布、植木、花卉等の販売、園芸教室。緑の募金等
武蔵野市	井の頭恩賜公園 100周年記念式典 武蔵野ファミリーデー	井の頭恩賜公園	平成 29.5.3	井の頭恩賜公園 100周年実行委員メンバーとして、これまでの緑の歴史や経緯を振り返る冊子の配布のほか、市民との協働で、ブースにて周知啓発イベントを行った。
	むさしの環境フェスタ	武蔵野 クリーンセンター	平成 29.11.12	緑豊かなまちを次世代に伝えていくことを目的に、本市の森林整備や、これまでの緑化推進の取り組みの紹介を行った。
三鷹市	ゴーヤ苗配布	市役所前	6月7日	緑のカーテンとしてゴーヤ苗 150 株を無料配布
	ガーデニングフェスタ 2017	三鷹中央防災公園	9月30日	写真コンテスト、緑と花のクイズなど、市内緑化に関するイベント
	花のまち交流会	三鷹市光のホール	6月17日	外部講師を招いてのイベント
府中市	環境まつり	府中公園	6月2日	木の実細工
昭島市	花の応援事業	昭島市内全域	6月、11月	昭島市管理の花壇、公園、学校等に花鉢を配布し、市民ボランティアと植栽することで、市内の緑化普及及び景観維持を行う。
	街角ふれあい花壇	昭島市内全域	・通年の募集 ・2月にパネル展を開催	市民から申し込みを募り、美しく整備されている花壇をパネルにし、市役所本庁において、パネル展を開催する。
調布市	緑と花の祭典 (春、秋)	調布駅前広場	(春) H29 年4月 29、30 日(秋) H29年 10月21、 22日	草花、苗、花木、サボテン、植木等の販売 球根の安価販売、花の種無料配布 緑化相談、募金 ※ H29.10.22 雨のため中止
町田市	ゴーヤの苗配布 イベント	市庁者正門玄関前	2017年5月	ゴーヤなどのつる性植物の苗を事前に申し込んだ市民や事業所、公共施設に配布しています。市民に約800苗の他、合計約5900苗を配布しました。
小平市	第25回こだいら グリーンフェスティバル	小平市立中央公園	平成29年 5月14日	苗木無料配布、カブトムシの幼虫無料配布及びみどりに関する相談等を実施。
日野市	コスモスアベニュー 事業	浅川スポーツ公園 外周	平成29年 6月11日	市民の方との協働でコスモスの種まき

調査内容一覧

日野市	自然観察会	市内の緑地を中心に近隣市の公園緑地等	H29年4月からH30年3月まで概ね第4土曜日(8月除く)	植物や樹木等の観察及び緑地等の見学
国分寺市	夏休み子ども自然教室 ①植物編 ②昆虫篇	①西恋ヶ窪緑地 ②恋ヶ窪樹林地	①7月26日②8月16日、17日	小学生を対象に市内の緑地で植物や昆虫を観察する。
	バードウォッチング	日立中央研究所	5月17日 11月29日	日立中央研究所にてバードウォッチングをする。
	エコミュージアム国分寺	西恋ヶ窪緑地ほか	10月10日	市内の自然を博物館にみたくて各所を散策する
西東京市	みどりの散策めぐり	市内	年4回 (5月、6月、10月、11月)	市とボランティア団体で作成した散策マップ&ウォーキングマップのコースを利用し、市内の散策めぐりを実施する。
	公園ボランティア養成講座	市内		
	公園指定管理者によるイベント	西東京憩いの森ほか		公園指定管理者によるサマーフェスタ
福生市	花いっぱい運動	福生市内	5月と11月	市内農家が生産した草花苗を市内の町会、自治会、学校、幼稚園、保育園、公共施設等が植栽する。また、市民団体が市内主要道路及び公園における植栽を実施。
	花いっぱいコンテスト	福生市内	7月と1月	市内農家が生産した草花苗を植栽した団体に対し、コンテストを実施(参加は任意)。
	みどりのカーテン大作戦	福生市内	6月と11月	6月のふっさ環境フェスティバルで講習会及びゴーヤの苗の配布を実施。11月にみどりのカーテンコンテストを実施。
狛江市	花とみどりの即売会	市民ひろば / 狛江市民まつり会場	4月22・23日 / 11月12日	市内生産者による花卉・植木類の展示及び販売、花・苗木の無償配布、市民からの緑化相談の受付を行う。
	園芸講習会	狛江市役所防災センター	12月15日	「クリスマスの寄せ植えをつくろう」園芸に関する基礎的な知識を講義形式で学んだ後、実際に寄せ植えづくりを行う。
	花いっぱい事業	狛江駅前	年2回 (6月頃、11月頃)	市内の中学校の生徒と共に狛江駅前のプランターに花を植える。
	花いっぱい事業	市内小学校前の歩道植栽	年1回 (年度末)	市内の小学校の児童と共に小学校前の歩道植栽に花を植える。
清瀬市	きよせカタクリまつり	清瀬中里緑地保全地域ほか	3月下旬～4月上旬	自然観察会、スタンプラリーなど
	きよせさくらまつり	清瀬市立台田運動公園	3月下旬～4月上旬	提灯を設置し、夜桜観賞など
東久留米市	名木百選認定証授与式	東久留米市役所市民プラザ	平成29年6月	市民公募によって選定された「東久留米の名木百選」の樹木所有者に、認定証を授与した。

東京都の緑化の動向

東久留米市	東久留米くるとウォーキング ～湧水・名木めぐり～	東久留米市内	平成 29 年 11～12 月	「東久留米の名木百選」の写真展及び 見学ツアーを実施した。
武蔵村山市	緑の募金	市役所内	10 月	庁舎内の職員を対象として本募金の協力を呼びかける。
	第 23 回武蔵村山市 農業まつり	イオンモール東側 臨時駐車場	平成 30 年 11 月 10 日、 11 月 11 日	農業者と市民が直接触れ合うことで、市民の農業に対する理解を深める。 (東京都苗木生産供給事業を活用し、来場者に苗木を無料配布し、緑の普及に努めた。)
多摩市	花壇作り講習会 (春編)	多摩市立グリーン ライブセンター	5 月	自治会、管理組合及び学校等の花壇を管理している団体を対象に、花種の蒔き方や手入れの仕方等の基本的な技術を講習
	花壇作り講習会 (秋編)	恵泉女学園大学 多摩キャンパス	9 月	上記対象者に向けて、花壇作りのノウハウはじめ園芸上級者向け技術を講習
羽村市	緑の募金	①羽村市動物公園 ②公共施設	① 4/29 (土・祝日) ② 3/1～ 5/31 9/1～ 10/31	①市民団体が行う緑の募金の支援事業 ②公共施設の窓口に募金箱を設置
あきる野市	第 44 回あきる野市 リサイクルフェア	都立秋留台公園	平成 29 年 5 月 13 日	【環境政策課】・グリーンカーテン用の苗・種の配布・グリーンカーテン講習会・グリーンカーテン相談・緑の募金活動
	あきる野市障がい者 防災・スポーツフェア 2017	都立秋留台公園、 秋川体育館	平成 29 年 10 月 28 日	【障がい者支援課】・苗木の配布
	第 23 回あきる野市 産業祭	都立秋留台公園	平成 29 年 11 月 11～12 日	【農林課】・苗木の配布
瑞穂町	産業まつり	瑞穂町内 ビュー パーク競技場	11 月	第 47 回瑞穂町産業まつりで苗木及び花苗の無料配布を行う。

表 16 緑の PR 等の広報紙の発行

< 東京都関係 >

行政機関	広報紙名	発行時期	主な内容
港湾局	海上公園ガイド	平成 29 年 4 月	海上公園の概要、案内等
	海の森リーフレット	平成 29 年 3 月	海の森の事業説明

< 特別区 >

行政機関	広報紙名	発行時期	主な内容
中央区	水とみどりのふれあいマップ	平成 29 年 3 月	四季ごとのおすすめ散策コースの紹介 区内で見られる生物の紹介
	桜の見所マップ	平成 30 年 2 月	区内の桜の見所の紹介
新宿区	新宿いきものガイドブック	平成 29 年 3 月	新宿区で見られるいきものの紹介
	「緑花してみませんか」	平成 25 年 3 月	接道部緑化・屋上等緑化助成制度の案内
文京区	緑・こころのやすらぎ	平成 25 年 3 月 改訂	文京区の公園と緑地に関する読み物。通年で区役所 2 階の行政情報センターにて販売している。
	生垣造成補助金について	平成 26 年 3 月 改訂	文京区生垣造成補助金についてのパンフレットで、(2) に記載した緑の普及啓発事業の際に区民に配布している。
	屋上等緑化助成制度について	平成 30 年 10 月 改訂	文京区屋上等緑化助成についてのパンフレットで、(2) に記載した緑の普及啓発事業の際に区民に配布している。
墨田区	すみだの自然といきものガイドブック	年 1 回	区内の自然や生きものが生息する公園や川を地図で紹介。小学校の環境学習の際に配布
江東区	はじめてのマンションベランダ緑化	平成 26 年 3 月	コンテナガーデニングを行う際の基礎内容
	もっと楽しむマンションベランダ緑化	平成 29 年 6 月	ベランダ緑化をより楽しむ方法を紹介
	江東区 CIG ビジョン	平成 27 年 3 月	策定の背景、目的、取組みメニュー紹介
目黒区	自然通信員だより	年 2 回程度	区民参加型調査の結果をまとめたニュースレター
	めぐろいきもの气象台	平成 21 年 3 月	生物調査への参加を募集するパンフレット
	地球とともに暮らす目黒区みどりのまちづくり	平成 28 年 3 月	みどりの役割やみどりの実態調査、生物多様性地域戦略・みどりの基本計画等の施策を紹介するパンフレット
	生物多様性活用緑化ガイド	平成 28 年 3 月	生物多様性に配慮した緑化や区の緑化助成について紹介するパンフレット
	目黒川のいきものたち	平成 24 年 3 月	生物多様性について紹介するパンフレット
	みどりのまちなみ助成(接道部・屋上・壁面)	平成 19 年	目黒区の緑化助成の助成基準や手続きの流れ等を案内するパンフレット
	保存樹木等指定・助成制度	平成 30 年 1 月	目黒区の保存樹木制度の助成基準や手続きの流れを案内するパンフレット
	樹木等の保全の協議 樹木等の移植助成	平成 19 年	樹木等保全協議の内容を紹介と樹木等の移植助成対象や手続きの流れ等を案内するパンフレット
「目黒十五(とうご)庭」 屋上緑化への誘い	平成 17 年 10 月	目黒区総合庁舎本館屋上の屋上庭園「目黒十五(とうご)庭」と屋上緑化への注意や工夫を紹介するパンフレット	

東京都の緑化の動向

目黒区	ささえあう生命（いのち）の輪（わ）めぐろのいきもの80選	平成26年3月	区民の選んだ身近ないきもの80種に加え、公園などで見られる野鳥、野草、昆虫など約300種を紹介した図鑑（頒布400円）
	みどりの散歩道改訂版コースガイド	平成29年4月	区内に「まちを見る、知る、耕す」をテーマに設定した9コースをそれぞれ地図や写真等で紹介したコースガイド（頒布300円）
	目黒区みどりの景観ガイドブック	平成28年3月	魅力のあるみどりの景観形成をめざして、みどりづくりに取り組む際のポイントや工夫を紹介するパンフレット
	目黒天空庭園オーパス夢ひろば施設&植栽ガイド	平成29年4月	大橋ジャンクションに整備している目黒天空庭園とオーパス夢ひろばの施設と植栽について紹介するパンフレット
	めぐろグリーンデータブック いきもの气象台観察ノート	平成24年5月	いきものの観察記録をつける観察カレンダーや目黒区でみられるいきものの観測地を示したマップなどをまとめた冊子
	めぐろグリーンデータブック 目黒区いきもの住民台帳 ―身近に暮らすみどりのなかまたち―	目黒区の野鳥（平成27年3月） 目黒区の蝶と蛾（平成28年3月） 土をめぐる生物（平成29年3月）	「目黒区いきもの住民台帳」は自然通信員や区などの行った専門調査の結果を目黒区に生育生息するいきものの種名リストとして集計したもので、2009年二およそ3000種類の動植物や菌類を掲載した残手番を公開。「目黒区の野鳥」「目黒区の蝶と蛾」「土をめぐる生物」は、その後の観察情報などを含めて整理修景したリストやそれぞれのいきもの専門家らによる寄稿文を掲載する冊子（頒布300円）
	みんなのまわりでいきもの発見!!	平成24年9月	目黒区でみられるいきものを紹介するパンフレット
世田谷区	世田谷区みどりの基本計画	平成30年4月	2018～2027年度の世田谷区のみどりの保全・創出に係る総合的な計画
	同上 概要版	平成30年4月	世田谷区みどりの基本計画の概要をまとめたもの
	世田谷区みどりの行動計画（第1期）＜2018年度～2021年度＞	平成30年4月	世田谷区みどりの基本計画の推進に向けて、具体的な取組（事業）を体系的に示した計画
	みどりとみずの基本計画	平成20年3月	2008～2017年度の世田谷区のみどりとみずに関する総合的な計画
	同上 概要版	平成20年3月	世田谷区みどりの基本計画の概要をまとめたもの
	生きものつながる世田谷プラン	平成29年3月	生きものと共生するみどり豊かなまちづくりに係る総合的な計画
	生きものつながる世田谷プラン概要版	平成30年4月	生きものつながる世田谷プランの概要をまとめたもの
	生きものつながる世田谷プラン行動計画（平成29年度～平成33年度）	平成29年3月	生きものと共生するみどり豊かなまちづくりに向けて、具体的な取組（事業）を体系的に示した計画
	生きものつながる世田谷プランわかりやすい版（せたがやネイチャーWORLD）	平成30年4月	生きものつながる世田谷プランの概要をわかりやすくまとめたもの

世田谷区	平成 28 年度 世田谷区 みどりの資源調査 報 告書	平成 29 年 3 月	みどりや生きものの現況について、5 年毎に実施する 調査
	みんなでつくる、みどり 豊かな世田谷（みどりの 資源調査概要版）	平成 29 年 10 月	世田谷区みどりの資源調査の概要をまとめたもの
	みどりの事業概要	平成 30 年 5 月	世田谷区のみどりや公園に関する事業を包括的に紹介 する冊子
	世田谷みどり 33 ピンバ ッジ	平成 21 年 2 月	世田谷みどり 33 啓発用のバッジ。売上相当額はみど りのトラスト基金に積み立てられ、公園植栽に活用さ れます。
	世田谷区みどりのトラ スト基金	平成 30 年 5 月	世田谷区みどりのトラスト基金の寄附案内
	そだてようみどりの世 田谷	平成 29 年 3 月	区立小学校 4 年生を対象とした、みどりの普及啓発冊 子
	緑のカーテンのつくり かた	平成 30 年 11 月	緑のカーテンの効果や作り方等を紹介した冊子
	ひとつぼみどりのスス メ	平成 30 年 12 月	1 坪程度の小さなみどりの空間を「ひとつぼみどり」 と名付け、楽しみ方を紹介したパンフ
	世田谷・みどりのフィー ルドミュージアムマップ (成城学園前駅周辺地区)	平成 30 年 8 月	地域全体をみどりの博物館と捉え、学習・体験の場と した、「世田谷・みどりのフィールドミュージアム」 のマップ
	世田谷・みどりのフィー ルドミュージアムマッ プ（喜多見 4・5 丁目農 の風景育成地区）	平成 27 年 3 月 平成 29 年 6 月 改訂	地域全体をみどりの博物館と捉え、学習・体験の場と した「世田谷・みどりのフィールドミュージアム」の マップ
	世田谷・みどりのフィー ルドミュージアムマッ プ（二子玉川公園周辺地区）	平成 30 年 4 月	地域全体をみどりの博物館と捉え、学習・体験の場と した「世田谷・みどりのフィールドミュージアム」の マップ
	生垣・花壇造成・シンボ ルツリーの植栽、屋上・ 壁面緑化、緑化制度の ご案内	平成 30 年 5 月	緑化助成の条件や内容、手続きの流れに関するご案内
	事業用等駐車場の緑化 助成制度のご案内	平成 26 年 4 月	助成要件や助成金額に関するご案内
	世田谷区国分寺崖線保 全整備条例のあらまし	平成 17 年 4 月	崖線条例に基づく、建築のルールや届出に関するご案内
	世田谷区「東京都風致地 区条例」に基づく許可申 請等の手続き	平成 30 年	風致地区条例に基づく許可申請の手続きや内容につい てのご案内
	世田谷区建築にともな う緑化のための植栽ガ イドブック	平成 22 年 6 月	色々な条件に適した植栽計画の提案や、維持管理に関 する冊子
みどりの計画書兼緑化 率適合照明申請書提出 の手引き（250㎡以上及 び風致地区内等）	平成 30 年 4 月	みどりの基本条例に基づく緑化申請書提出の手引き書	

東京都の緑化の動向

世田谷区	みどりの計画書兼緑化率適合照明申請書提出の手引き（風致地区内等を除く150㎡以上250㎡未満）	平成30年4月	みどりの基本条例、緑化地域制度に基づく緑化申請書提出の手引き書（風致地区内を含む）
	みどりの計画書・緑化地域制度	平成30年4月	敷地面積150㎡以上250㎡未満及び250㎡以上・風致地区内に関する、緑化申請書提出の概要版
	生きものの緑化ガイドブック	平成30年4月	生物多様性に配慮した緑化の実践方法や楽しみ方を紹介した冊子
	せたがや花マップ	平成30年3月	花の見どころや緑に関するイベントをご紹介するマップ
	国分寺崖線発見マップ	平成30年6月	国分寺崖線の散策ルートをご紹介するマップ
	世田谷名木百選マップ	平成29年3月	昭和61年に名木百選として、選定された樹木の場所や樹種・写真を掲載したマップ
	樹木の移植助成制度について みどりを守ろう既存樹木の保全のお願い	平成28年4月	移植助成の要件や助成金額に関するご案内と、既存樹木保全のお願いチラシ
	保存樹木等の伐採を計画されている皆様へ	平成27年4月	樹木伐採に関する届出や申請についてのご案内チラシ
	解体工事に伴う樹木伐採の届出について	平成29年9月	解体工事等に伴い伐採が行われる場合の届出や許可申請についてのご案内チラシ
	世田谷区保存樹木制度のご案内	平成27年4月	保存樹木指定要件や支援内容のご案内
	宙水をご存知ですか？	平成25年10月	区内にある約100箇所の宙水分布想定図と、宙水を保全し守るための周知パンフ
	健康器具マップ（北部版）	平成30年4月	区内の公園に設置されている健康遊具について、北部・南部に分けて、イラストや解説、設置場所などを掲載するマップ
	健康器具マップ（南部版）	平成30年4月	区内の公園に設置されている健康遊具について、北部・南部に分けて、イラストや解説、設置場所などを掲載するマップ
	公園でたのしくあそぼう	平成30年7月	公園利用のルールを、小学校低学年の児童向けにイラストで分かりやすく紹介したチラシ
	ベンチの寄附を募集しています		寄附ベンチの募集案内
	世田谷区都市公園等配置図	平成30年5月	区の都市公園、身近な公園、街路樹等の配置を示した地図（縮尺：1/11,000）
世田谷区都市公園等調書	平成30年5月	区の都市公園、身近な広場等の基礎情報の一覧を掲載	
渋谷区	ふれあい植物センター通信	毎月	渋谷区の運営する植物園における、月ごとのイベントを紹介するとともに、緑の普及啓発を推進する
中野区	中野の緑化	毎年4月	区が実施する助成制度や緑化計画の作成方法の概要を記載
杉並区	杉並のみどりと農を楽しむ小さな旅マップ	6月	「農の風景育成地区」内の農地や屋敷林をめぐって歩くお散歩マップ
	みどりとひと	7月、11月	緑化助成など行政のお知らせ、季節のイベントの紹介、四季折々の草花の特性、区内のみどりのある所の紹介

調査内容一覧

北区	北区の環境	平成 29 年 7 月	北区役所環境課にて取り組んでいる北区内の環境（自然・動物・温暖化問題・公害対策）を紹介。
	北区みどりの助成金リーフレット	平成 30 年 4 月	保護樹木・生け垣造助成・屋上・ベランダ・壁面緑化の助成金案内。
荒川区	つなげよう 花いっぱい のあなたの街 街なか 花壇	平成 29 年 3 月	区民主体の街なか花壇づくり事業の一環である街なか花壇参加団体の紹介
練馬区	みどりの美しい街並み づくり 支援ガイドブック	H29.4 月	みどりの協定、花いっばいにぎわい事業、 生け垣化助成、保護樹木・保護樹木の案内
	緑化に関する助成制度 のご案内	H30.11 月	生け垣化助成、フェンス緑化助成、沿道緑化助成、 壁面緑化助成、屋上緑化助成の案内
	みどりのカーテンプロ ジェクト ゴーヤー育 成ミニブック	H28.4 月	植え付けから育て方まで、育てた野菜活用レシピ
	ねりまの憩いの森	H30.3 月	市民緑地制度の紹介、区内のマップ
	練馬区自然環境調査概 要版	H24.3 月	区内で確認された植物、昆虫、クモ、鳥、哺乳類、 爬虫類、両生類、陸産貝類の概要
	練馬区みどりの実態調 査 報告書概要版	H29.3 月	緑被率、生け垣延長、緑視率、壁面緑化、 屋上緑化の概要
足立区	緑のサポーター通信 「みどはな」	年 3 回 3,7,11 月	緑のサポーター向け刊行誌 区主催講座のお知らせ、花や緑の話題など
	一緒につくろう！ みどりのまちなみ	平成 30 年 1 月	緑化助成の PR チラシ
葛飾区	花いっばいのまちづく り	毎年 4 月	花壇活動を行っている団体の紹介 花いっばいのまちづくり推進協議会紹介 花壇コンクール、ホームページの紹介
	緑化事業ガイド	毎年 4 月	環境課緑化推進係での事業内容の紹介 各種補助金の説明
江戸川区	荒川生き物図鑑	H27.10	水辺環境調査のデータをもとに、荒川に生息する動植 物を子どもにもわかりやすい図鑑（A3 両面を八つ折）
	江戸川生き物図鑑	H28・10	水辺環境調査のデータをもとに、江戸川に生息する動 植物を子どもにもわかりやすい図鑑（A3 両面を八つ折）
	新中川生き物図鑑	H29・11	水辺環境調査のデータをもとに、新中川に生息する動 植物を子どもにもわかりやすい図鑑（A3 両面を八つ折）
	江戸川区サクラガイド ブック	H28・1	A5 版カラー 79 ページ 内容：サクラ見所 20 選（地図有 り）、区内のサクラ紹介（44 品種）、さくら豆知識等
	水と緑・花のえどがわチ ーリズム（チラシ）	年 4 回 （春・夏・秋・冬）	水と緑・花を中心とした魅力ある江戸川区を区内外に 情報発信
	環境教育冊子 「花とみどりと私たち」	H30・3・31	緑化事業や運動の歴史をはじめ、区内の緑や花の見ど ころ、学校や家庭でもできる花壇づくりの他、区民の ボランティア活動等を紹介。

東京都の緑化の動向

< 市および町 >

行政機関	広報紙名	発行時期	主な内容
八王子市	みどりのガーデン コンテスト応募要項	毎年6月頃	市内に設置したつる性の植物によるみどりのカーテン を対象に写真を募集
武蔵野市	むさしの緑・環境の情報誌 みちまちみどり	年2回	緑やまちに関することをさまざまな視点から捉え、わ かりやすく紹介します。
	井之頭恩師公園開園100 周年記念、武蔵野市市制 70周年記念、緑と水を守 るんジャー	3月	本市の緑と水のネットワークについて振り返り、緑の 歴史や経緯を漫画で紹介しています。
府中市	ウォーキングマップ	平成28年4月	市民が歩きながら自然や歴史に触れることができるよ うにと7～8kmの10コースを選定したもの
昭島市	街角ふれあい花壇募集	4月頃	街角ふれあい花壇の募集
町田市	まちだ生きもの探しマップ	2018年3月	市内に生息する生物や生息環境を紹介し、緑や水辺に 親しめる場所を地図で示したパンフレット。
小平市	第25回こだいらグリーン フェスティバルリーフレット	平成29年4月	第25回こだいらグリーンフェスティバルの会場案内図 及びステージスケジュール等
	小平市生垣造成補助制度 のご案内		生垣造成補助制度に関する説明
	こだいら名木百選	平成26年3月	市制施行50周年を記念して実施した「こだいら名木百 選」についての紹介及び一覧
	はじめてのビオトープ	平成27年3月	チョウに関するバタフライガーデンと小鳥に関するバ ードガーデンを主に掲載
	チョウを呼びましよう	平成27年5月	チョウが好きな樹木や草花の一覧、ビオトープづくり の紹介
	小鳥を呼びましよう	平成29年5月	小鳥が好きな植物の一覧、ビオトープづくりの紹介
	身近なビオトープづくり ～チョウの観察モニター編～	平成30年3月	チョウの公募市民観察モニターの活躍の様子やチョウ のコラムなど
西東京市	散策マップ&ウォーキン グマップ	H29.3	市とボランティア団体で作成した散策マップ&ウォ ーキングマップのコースを利用し、市内の散策めぐり を実施する
	オープンガーデン・コミ ュニティガーデン ガイドマップ	平成28年度	市内のオープンガーデン・コミュニティガーデンを紹 介するためのガイドマップ
狛江市	緑のまち推進補助制度 パンフレット	平成29年10月	補助の申請要件・補助金額・申請の流れ等を掲載して います。
東久留米市	東久留米の名木百選	H29年3月	名木百選の紹介(写真・地図・一覧など)
羽村市	広報はむら	3/1号、5/1号、 9/1号	緑の募金、新たなみどりの創出助成制度の紹介
あきる野市	知って守ろうあきる野の 自然	平成24年3月	あきる野市の自然に関するリーフレット
	森林レンジャー あきる野新聞	年12回	森林レンジャーあきる野の日々の活動内容に関するリ ーフレット
	森林レンジャーがゆく (市広報に掲載)	年8回	森林レンジャーあきる野が活動を通して感じたことな どをまとめた記事

Ⅱ 特集

東京都都市緑化基金

— 緑化基金が果たしてきた役割と今後の展望 —

特集にあたって

東京都緑化白書は、発刊以来、特集テーマを決め、さまざまな観点から会員およびみどりに関わる多くの方々に情報を提供させていただいてきました。しかし、この2年間（28年度版・29年度版）、諸般の事情により、特集記事が中断されてきました。

当協会広報委員会では、これまでと同様に、会員の皆さんに対し、さまざまなみどりに関わる情報の提供を図る上からも、特集記事の掲載を復活できないか検討してきました。

その結果、「特集記事」として、「東京都都市緑化基金の果たしてきた役割と展望」について、（公財）東京都公園協会が発刊しました「東京都都市緑化基金 30年のあゆみ」（平成29年3月）を参考に取りまとめることにしました。

「東京都都市緑化基金 30年のあゆみ」を通し、改めて東京の緑づくりに都市緑化基金が果たしてきた役割を再確認することは、今後の緑化活動を展望するうえで、大切ではないかと考えます。

これまでも、民有地の緑化については、「東京都緑化白書平成27年度版」において、行政が実施してきました緑化事例を中心に取りまとめ、紹介してきました。今回は、官民あげて造られてきた東京都都市緑化基金の運用益金を活用した取り組み事例を通して、東京の都市緑化に果たしてきた基金の役割・功績を紹介するものです。

東京都都市緑化基金が誕生してから30年が経過し、この基金の運用益金による緑化普及の取り組みは、東京都の都市緑化のみならず、都民の緑化普及啓発等に、大きく貢献してきております。しかし、年月が過ぎるしたがって、当協会会員の間でも、東京都都市緑化基金に対する認識が希薄になりつつあります。

ここで、改めて、これまでの実績を紹介記事として取りまとめることは、会員の東京都都市緑化基金に対する認識をさらに高める機会になるばかりか、この特集がみどり行政関係団体の皆様にとっても、貴重な資料としてご活用いただければ幸いです。

この特集を取りまとめるに当たりましては、当協会広報委員長を中心とする小委員会を設置し、広報委員会で意見を重ね、さらに取り纏めは、（公財）東京都公園協会の元公益事業推進課長の金田哲男氏にお願いいたしました。また、東京都都市緑化基金を所管する（公財）東京都公園協会公益事業推進課長をはじめ関係者に皆さまに多大なご指導・ご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

一般社団法人 東京都造園緑化業協会
広報委員会副委員長 山下 得男

1. 東京都都市緑化基金とは

この章では、東京都都市緑化基金がどのような経緯で誕生したのか、その目的および事業内容について紹介する。

(1) 中央の財団法人都市緑化基金の設立

昭和 55 年（1980）8 月に都市計画中央審議会は「都市における総合的な緑化を推進するための方策」について、建設大臣に中間答申を行った。その背景には、昭和 30 年代後半からの高度経済成長がもたらした公害問題や顕著な緑地の減少など、環境の悪化がある。その環境改善策として、緑の必要性についての世論が、全国的に高まった時期でもあった。

この答申のなかで、都市の総合的な緑化を推進するために民有地の緑化を推進することの重要性、公益法人としての都市緑化基金の設立と民間の力による基金の造成が提言されたのである。

提言を受け、昭和 56 年（1981）4 月に財団法人都市緑化基金が設立された。その事業内容は、全国都市緑化フェアの開催など都市緑化の普及啓発事業、健康運動施設など自主研究会の設置、植樹保険の付保、受託研究調査などである。

なお、財団法人都市緑化基金は平成 23 年（2011）4 月に財団法人都市緑化機構と合併し、これを機に公益財団法人都市緑化機構が誕生し、現在に至っている。

(2) 地方にも基金設置

中央の都市緑化基金設立直後に、建設省より東京都に対し、地方における活動がより一層重要であるとの観点から、地方での基金設置が求められた。さらに翌昭和 57 年（1982）8 月、再度中央における都市緑化基金の造成および活動にあわせて、地方における都市緑化を推進する団体の設立、育成について積極的に推進するよう要請された。

設置を後押しするように、昭和 58 年（1983）6 月には、国の寄付金に関する税制改正を受け、地方の都市緑化基金への寄付金にかかる所得税、法人税について優遇措置が講ぜられることとなったことから、この制度を活用した地方の都市緑化基金設立を促す旨の通知がなされた。

(3) 東京都都市緑化基金の誕生

こうした国の積極的な働きかけを受け、東京都は昭和 59 年（1984）11 月、21 世紀初頭までに市街地の緑を 2 倍に増やす「東京都緑の倍增計画—緑豊かな東京をめざして—」を発表した。この計画のなかで、緑を増やす仕組みづくりの施策体系に「都市緑化基金の設立」が盛り込まれた。

緑化機運の高まりのなかで、この都市緑化基金の設立以外にも国、都及び区市町村などの行政と都民との緑化活動を推進するため、行政と都民との全般的な協働の仕組みづくりを進め、組織的な緑の倍增運動が展開されることとなった。行政だけではなく、都民と連携してハード面、ソフト面を含めた一体的な東京の緑化を進めて行こうとの決意表明がなされたのである。

昭和 60 年（1985）3 月、東京都建設局は（財）東京都公園協会（以下本文中では公益財団後

も含めて公園協会という)に昭和60年度中の都市緑化基金の設置を依頼し、翌月に公園協会は、期間内に設置すべく準備を進める旨の回答を行った。

公園協会が寄付行為の変更申請などの事務手続きを行う一方で、東京都は昭和60年度(1985)に1億円を出捐し同基金の原資とし、翌年度、翌々年度にも各1億円を出捐し、3年間で3億円の出捐をすることを決定。同年7月1日、東京都は公園協会の寄付行為の一部変更を認可し、ここに東京都都市緑化基金(以下本文中では都市緑化基金という。但し、中央の都市緑化基金との区別が必要な場合はこの限りではない)が誕生した。

(4) 東京都都市緑化基金の事業内容

都市緑化基金は、都民からの寄付により造成されるものであることから、事業を行うに当たって管理および運営は適正かつ効率的に行わなければならないことが大前提となる。

そこで、事業費の原資は基金の利子によるものとし、以下の3点に当たるとした。

- ①都市緑化に関する普及啓発に要する経費
- ②民有地緑化推進事業として行う民間の自主的な緑化への助成金、住民の活動等への助成金、緑地保全地区等の維持管理への助成金等の各経費
- ③都市緑化に関する調査等に関する経費

なお、この事業実施に当たっては、公園協会内に新たな組織として緑化基金部を立ち上げた。当時の公園協会の都市緑化基金への意気込みが感じられる。

こうして、上記の内容で事業がスタートし、その後、社会状況や基金の原資の状況などから、事業内容は改善が重ねられ、現在に至っている(詳細:第2章以降)。

(5) 東京都都市緑化基金の造成目標額

当初の目標額は、昭和69年(1943)年度末までの10ヵ年で20億円とされた。内訳は東京都出捐金3億円、民間からの募金17億円だったが、その後「東京都緑の倍增計画」の改訂を機に、東京都出捐金が10億円、民間募金が10億円に変更されている。

なお、当時のバブル経済期を背景に、当初の造成目標額達成が確実になったことから、造成目標額は平成13年度(2002)末までに30億円と変更された(詳細:第2章)。

(6) 試験研究法人の認定

公園協会は、基金設立後まもなく同基金への寄付金が税の優遇措置を得られるよう、東京都に試験研究法人の認定申請を行い、昭和61年(1986)9月に試験研究法人として認定された。

なお、試験研究法人は昭和63年度(1988)に特定公益増進法人に改称されている。

(7) 「緑の募金」、「花と緑の東京募金」との関係

現在、東京都には都市緑化基金以外に、基金設立以前から募金活動を行っていた「緑の募金」(旧緑の羽根募金)と、基金設立後に募金活動を始めた「花と緑の東京募金」(旧緑の東京募金)が存在する。

それぞれ都民を主体とした都市緑化の実現という共通目的があるが、募金する側は分かりに

くい。これら二つの募金の概要と都市緑化基金との違いは以下の通りである。

「緑の募金」(旧緑の羽根募金)

「緑の募金」は、戦後の荒廃した森林山野の緑化を幅広い国民運動として展開するため、昭和25年(1950)に国土緑化推進委員会が設立され、公共的な植樹を推進するために募金活動を開始し、「緑の羽根募金」として普及した。

この地方版として昭和27年(1952)に設置されたのが、首都緑化推進委員会である。平成7年(1995)の「緑の募金法」制定を契機に翌年首都緑化推進委員会は解散し、(財)東京都森林整備公社に業務を移管し、さらに平成10年(1998)公益財団法人東京都農林水産振興財団に業務は引き継がれ、同財団内に東京緑化推進委員会が設置され、現在に至っている。

集められた募金は、森林整備関連や区市町村等の募金協力団体が実施する緑化推進事業への助成、社会公共福祉施設の緑化事業への助成、緑化運動の普及啓発及び募金活動の経費として使われている。

都市緑化に関する助成対象の観点からは、都市緑化基金のように対象施設への直接助成ではなく、区市町村や民間の助成団体が実施する助成事業に対し助成している点が異なっている。

「花と緑の東京募金」(旧緑の東京募金)

「花と緑の東京募金」は、東京都が平成18年(2006)末に「10年後の東京—東京が変わる—」を策定し、そのなかで「緑の東京10年プロジェクト」を掲げ、平成19年(2007)「緑の東京募金」を創設した。

緑の倍増計画と同様、この施策でも、緑あふれる東京の実現には、都だけではなく、社会のあらゆる主体が緑の創出に取り組まなければならないことを明確に打ち出し、都民や企業からの幅広い賛同を得て、都市の緑化を進めていくことにした。

このため、集められた募金は、海の森の整備、街路樹の倍増、校庭芝生緑化、花粉の少ない森づくりと用途を明確に限定し、平成28年(2016)事業を終了。同年に、引き続き緑を増やす取り組みに加え、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「おもてなし」につながる花を活かした緑化や緑を守る人材の育成を推進していくため「花と緑の東京募金」として再出発した。

この募金は、民有地の緑化を対象外としている点が都市緑化基金と異なっている。

2. 造成と運用及び事業費の経緯

この章では、都市緑化基金がどのような経緯で造成され現在に至っているのか、経済状況が変化するなかでどのような形で基金の運用を行ってきたのか、またその運用益を原資とする事業費はどのようになっているのか、財務面について紹介する。

(1) 東京都都市緑化基金造成の経緯

1) 造成目標額の増額

前述したように、緑化基金設立当初の目標額は昭和 69 年(1994) 度末までに 20 億円とし、東京都からの出捐金 3 億円以外の 17 億円は都民や企業などから寄付を募ることでスタートしたが、昭和 62 年(1987) の緑の倍增計画の改訂を機に、翌年の昭和 63 年(1988) 度に東京都の出捐金が 7 億円追加され 10 億円となり、民間からの寄付金は 10 億円を目指すことになった。

公園協会では、都の出捐金の大幅アップに合わせるため、積極的な寄付金の募集活動を展開した。当時の記録によれば、理事長自ら先頭に立ち、関係団体や企業に精力的にお願いに回っており、こうした努力があり、昭和 63 年(1988) 度、平成元年(1999) 度には、バブル期という経済状況の追い風と相まって、単年度で 3 億円強という驚異的な寄付金が集まっている。

中でも、東京の緑づくりを支える中小造園建設業界で構成される(一社)東京都造園緑化業協会は、緑化基金に対する寄付を会員に幅広く働きかけ、基金設立に貢献してきている。こうしたことから、当初の目標額達成は確実となり、平成 4 年(1992) 度には、造成目標額を平成 13 年(2002) 度末までに 30 億円と増額した。

表 1 都市緑化基金造成額の推移

単位：千円

年 度	基金造成額	基金累計
昭和 60 年(1985)	105,312	105,312
昭和 61 年(1986)	119,134	224,446
昭和 62 年(1987)	154,354	378,800
昭和 63 年(1988)	1,092,608	1,471,408
平成元年(1989)	320,668	1,792,076
平成 2 年(1990)	141,502	1,933,578
平成 3 年(1991)	49,771	1,983,349
平成 4 年(1992)	45,924	2,029,273
平成 5 年(1993)	50,614	2,079,887
平成 6 年(1994)	34,018	2,113,905
平成 7 年(1995)	33,765	2,147,669
平成 8 年(1996)	39,794	2,187,463
平成 9 年(1997)	25,891	2,213,354
平成 10 年(1998)	33,091	2,246,445
平成 11 年(1999)	26,185	2,272,630
平成 12 年(2000)	19,906	2,292,536
平成 13 年(2001)	51,141	2,343,676
平成 14 年(2002)	33,359	2,377,035
平成 15 年(2003)	40,948	2,417,983
平成 16 年(2004)	37,418	2,455,401
平成 17 年(2005)	39,393	2,494,794
平成 18 年(2006)	39,249	2,534,042
平成 19 年(2007)	35,401	2,569,443
平成 20 年(2008)	40,588	2,610,031
平成 21 年(2009)	34,746	2,644,777
平成 22 年(2010)	34,509	2,679,286
平成 23 年(2011)	25,242	2,704,529
平成 24 年(2012)	25,094	2,729,623
平成 25 年(2013)	22,109	2,751,731
平成 26 年(2014)	20,803	2,772,534
平成 27 年(2015)	18,480	2,791,013
平成 28 年(2016)	17,621	2,808,635
平成 29 年(2017)	17,126	2,825,761
平成 30 年(2018)	15,898	2,841,659

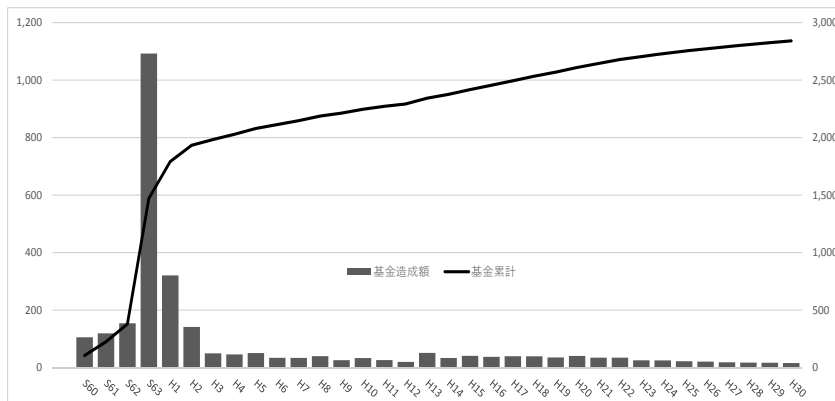


図 1 都市緑化基金造成額の推移と基金累計の伸び

2. 造成と運用及び事業費の経緯

しかし、大台の1億円を超える寄付金は、平成2年（1990）のバブル崩壊により、この年を最後に、その後は年間3,000万円から5,000万円程度を推移し、平成23年度（2011）以降は2,000万円台に、平成27年（2015）度には1,000万円台に減少、現在もこの状況が続き、平成30年（2018）度末の造成額は約28億4,000万円となっている。

このような状況から、平成28年（2016）に30億円とした造成目標額達成時期をさらに平成38年（2026）に変更している。

2）（一社）東京都造園緑化業協会および会員各社の基金造成への貢献

（社）東京都造園緑化業協会（以下一般社団法人後も含めて造園緑化業協会という）は、都市緑化基金設立直後にいち早く行動を開始し、昭和60年（1985）度から5ヵ年で総額約1億円を寄付することを決定した。この間毎年、東京都建設局長に対し、当協会理事長から贈呈を行ってきた。



平成3年（1991）7月の寄付目録贈呈

その後、平成4年（1992）の造成額目標の増額変更を受け、再度平成8年（1996）度から、5年間で総額5,000万円の寄付を行った。造園緑化業協会の寄付総額は、法人としては最も多額の寄付となっており、この後も、毎年会員多数が、自主的な寄付を継続し今日に至っている。

（2）東京都都市緑化基金の運用状況

1）基金の運用方法

募金による寄付金の運用方法は、「都市における総合的な緑化を推進するための方策について」の都市計画中央審議会中間答申（昭和55年（1980））を踏まえると、積み立てによる果実（利子）運用と、当該年の寄付金をそのまま資金として運用する2つの方法からの選択が基金を運営する公益法人に委ねられている。

都市緑化基金は、都市緑化活動を長期的に推進していく観点から、果実運用方法を選択している。

また、基金の適正な運用を図るため、運営主体である公園協会は、昭和61年（1986）の都市緑化基金立ち上げと同時に、「東京都都市緑化基金運用委員会」を発足させた。

当初の構成メンバーは、商工会議所副会頭、都市緑化関連の各種団体会長、学識経験者、新聞社部長、区長会・市長会会長、都庁関係局長など14名であった。

現在は表2のとおり16名で構成されており、都市緑化関係団体として造園緑化業協会も委員に加わっている。

表2 都市緑化基金運用委員

氏名	現職
藤原 房子	元日本経済新聞編集委員
菊地 謙二	（一社）東京都造園緑化業協会相談役
谷茂岡正子	東京都地域婦人団体連盟会長
宮下 和正	（公財）都市緑化機構専務理事
佐藤 毅	（公社）ゴルフ緑化促進会常任理事
細谷 恒夫	（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会顧問
金子 忠一	東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授
石田 大介	（株）みずほ銀行公務部長
近藤 豊	東京都環境局自然環境部長
上林山 隆	東京都産業労働局農林水産部長
古川 浩二	東京都建設局公園緑地部長
佐野 克彦	（公財）東京都公園協会理事長
田倉 英明	（公財）東京都公園協会常務理事
五十嵐政郎	（公財）東京都公園協会常務理事
有路 信	（公財）東京都公園協会理事 （一社）日本公園緑地協会会長
鹿田 哲也	（公財）東京都公園協会事務局長

令和元年6月7日現在

2) 基金の運用状況

東京都の出捐金と都民の貴重な財産によって積み立てられる都市緑化基金の基本財産は、慎重かつ確実な運用が求められる。そのため、当初から公共債、定期預金、貸付信託などによる堅実な運用が行われている。現在、運用益をなるべく長期的に平準化して生み出すことができるよう、公共債の買い付けなどが行われている。

平成2年(1990)のバブル崩壊以降は、社会経済が目まぐるしく変化し、10年国債の利率も平成2年(1990)の8%台をピークに、平成7年(1995)には3%前後となり、現在では1%台までに落ち込んでいる。平成2年(1990)から平成5年(1993)までは1億円の大台を超える運用益を生み出していたが、平成6年(1994)には基金累計は伸びているものの8,000万円台に減少している。

平成8年(1996)には、長期的な視点に立ち、できるだけ多くの果実(運用益)を安定的にもたらすための運用方針を定めるなど、運用益の安定化が進められてきたが、平成10年(1998)に「公定歩合に相当する数値」が0,5%に引き下げられ、超低金利時代に突入し、平成12年(2000)以降は4,000万円台に留まっていた運用益も、平成29年(2017)以降は3,000万円台に落ち込んでいる。

運用益が著しく減少し、大幅な回復が見込めない現在では、事業の縮小や打ち切りも視野に入れた基金運用を行わざるを得ない状況という。

一方で、着実な運用益を生み出した結果として、興味深い数字がある。東京都からの出捐金10億円を除く企業なども含めた都民からの募金額の累計は、平成30年(2018)度末で約18億4,000万円である。そして、同年度

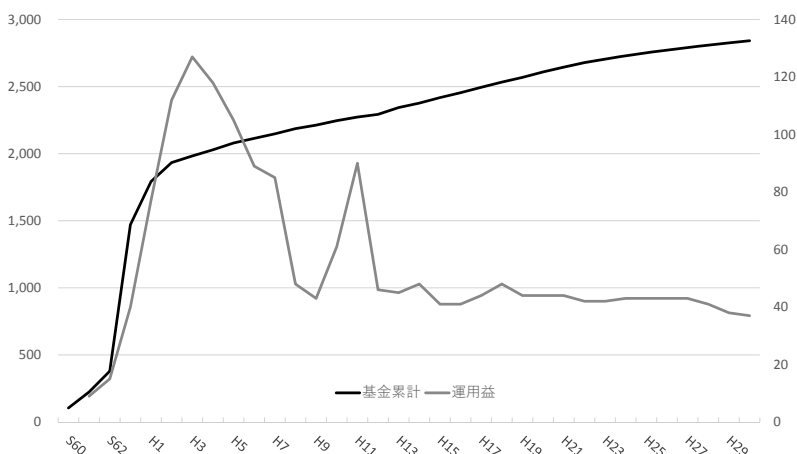


図2 都市緑化基金運用益の推移

表3 都市緑化基金運用益

単位：千円

年度	基金累計	運用益
昭和60年(1985)	105,312	-
昭和61年(1986)	224,446	9,226
昭和62年(1987)	378,800	15,409
昭和63年(1988)	1,471,408	40,000
平成元年(1989)	1,792,076	77,375
平成2年(1990)	1,933,578	112,313
平成3年(1991)	1,983,349	126,709
平成4年(1992)	2,029,273	118,412
平成5年(1993)	2,079,887	104,792
平成6年(1994)	2,113,905	88,689
平成7年(1995)	2,147,669	85,300
平成8年(1996)	2,187,463	48,231
平成9年(1997)	2,213,354	42,950
平成10年(1998)	2,246,445	61,262
平成11年(1999)	2,272,630	90,092
平成12年(2000)	2,292,536	45,695
平成13年(2001)	2,343,676	45,331
平成14年(2002)	2,377,035	47,625
平成15年(2003)	2,417,983	40,834
平成16年(2004)	2,455,401	41,146
平成17年(2005)	2,494,794	43,964
平成18年(2006)	2,534,042	47,623
平成19年(2007)	2,569,443	43,974
平成20年(2008)	2,610,031	44,175
平成21年(2009)	2,644,777	44,160
平成22年(2010)	2,679,286	41,511
平成23年(2011)	2,704,529	42,312
平成24年(2012)	2,729,623	42,540
平成25年(2013)	2,751,731	42,877
平成26年(2014)	2,772,534	43,269
平成27年(2015)	2,791,013	42,755
平成28年(2016)	2,808,635	40,695
平成29年(2017)	2,825,761	37,875
平成30年(2018)	2,841,659	37,478

2. 造成と運用及び事業費の経緯

末の運用益の累計がほぼ同額の約 18 億 4,000 万円である。

これは、厳しい経済状況のなかで、基金の果実方式を採用したことにより、造成額を保持しつつ寄付という都民の緑化への思いを反映してきたことを裏付けるものであり、広く知っていただきたいことである。

(3) 東京都都市緑化基金事業費の経緯

都市緑化基金の事業費は、運用益を財源とすることとしているが、公園協会は本来公益的な財団であることから、都立公園の売店や駐車場などの収益事業の一部も都市緑化基金の事業費に繰り入れ、事業を行ってきた。

都市緑化基金の運用益は、平成 30 年（2018）度末現在累計で約 18 億 4,000 万円に上り、一方で同年度末現在の事業費の累計は約 22 億円となっている。この差額の約 3 億 6,000 万円が公園協会の収益事業から繰り入れられている。

斜体部分削除案（外部にここまで知らせるかどうか）

もし、斜体部分を削除した場合、下から 2 行目を下記のように書き換える

…「億 6,000 万円については、公園協会の駐車場などの収益事業の一部を繰り入れてい」…

注）平成 21 年（2009）度～ 24 年（2012）年度の運用益と事業費の大きな差額は、公園協会が平成 19 年（2007）3 月に『緑と水辺から拓げる「公益事業推進 3 か年推進計画」』を策定し、都市緑化活動団体の育成・拡大を目指す重点事業（まちなか緑

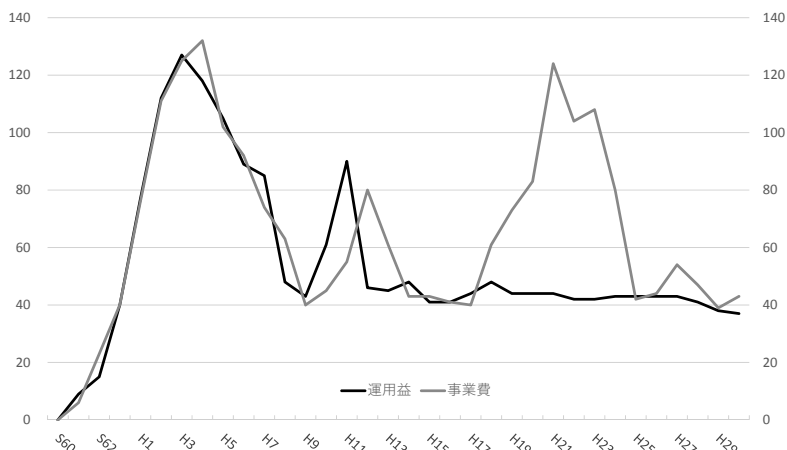


図 3 都市緑化基金運用益と事業費の推移

表 4 都市緑化基金運用益と事業費

単位：千円

年 度	運用益	事業費
昭和 60 年 (1985)	-	初年度緑化普及費のみ
昭和 61 年 (1986)	9,226	5,781
昭和 62 年 (1987)	15,409	22,565
昭和 63 年 (1988)	40,000	40,396
平成元年 (1989)	77,375	76,283
平成 2 年 (1990)	112,313	110,644
平成 3 年 (1991)	126,709	124,878
平成 4 年 (1992)	118,412	131,742
平成 5 年 (1993)	104,792	102,092
平成 6 年 (1994)	88,689	92,376
平成 7 年 (1995)	85,300	74,224
平成 8 年 (1996)	48,231	63,403
平成 9 年 (1997)	42,950	39,865
平成 10 年 (1998)	61,262	44,613
平成 11 年 (1999)	90,092	55,097
平成 12 年 (2000)	45,695	79,921
平成 13 年 (2001)	45,331	60,535
平成 14 年 (2002)	47,625	43,209
平成 15 年 (2003)	40,834	43,170
平成 16 年 (2004)	41,146	40,556
平成 17 年 (2005)	43,964	39,834
平成 18 年 (2006)	47,623	61,132
平成 19 年 (2007)	43,974	73,095
平成 20 年 (2008)	44,175	83,006
平成 21 年 (2009)	44,160	123,759
平成 22 年 (2010)	41,511	104,498
平成 23 年 (2011)	42,312	107,585
平成 24 年 (2012)	42,540	79,620
平成 25 年 (2013)	42,877	41,891
平成 26 年 (2014)	43,269	43,720
平成 27 年 (2015)	42,755	53,958
平成 28 年 (2016)	40,695	47,117
平成 29 年 (2017)	37,875	38,636
平成 30 年 (2018)	37,478	43,146

3. 歩んできた事業を辿る

都市緑化基金は、昭和60年（1985）に設立されて以来、今年の7月で35年目を迎える。当初の事業内容は、「都市緑化に関する普及啓発」、「民有地への緑化助成」、「都市緑化に関する調査研究」が主な3本柱であった。

これらの事業内容は、その後の社会を取り巻く環境の変化、運用益の減少、事業執行の観点からの事業内容の見直しなどにより、その時々で変化してきている。都市緑化基金は、時代の流れと、運用益減少による目まぐるしい事業の見直しのなかであって、より効率的・効果的な事業を着実に進めている。

この章では、運用益を主な財源として実施してきた都市緑化基金のこれまでの事業を紹介させていただくとともに、各時代を貫いてきた「都市緑化に関する普及啓発」、「民有地への緑化助成」、「都市緑化に関する調査研究」の3つの事業について、その実施内容を紹介したい。

（1）都市緑化に関する普及啓発事業

1）パンフレット・冊子類などの作成

パンフレットは、都市緑化基金設立当初は企業からの大口寄付も視野に入れた募金活動をするための内容、バブル崩壊後の平成4年（1992）以降は事業の成果を重点に置いた内容、平成7年（1995）以降は募金額の低迷打開のために寄付のお願いに重点を置いた内容へとシフトし、その後も都市緑化基金を取り巻く状況に対応したパンフレットを作成している。

また、平成7年（1995）には、都市緑化基金設立当初からの10カ年の緑化助成の成果を広く知ってもらうため、助成箇所が広範囲におよんでいることを示す「みどりの助成マップ」を作成するとともに、福祉施設・病院などの緑化助成対象施設についてそれぞれ

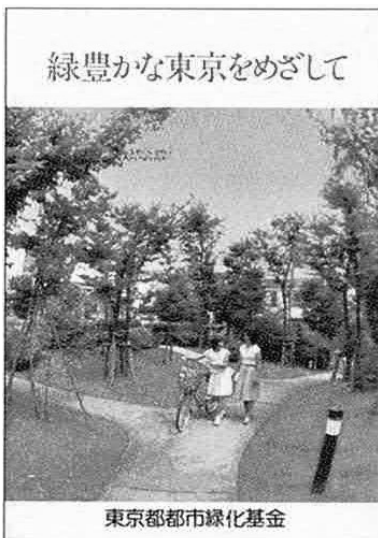


みどりの東京をめざして

「東京都都市緑化基金」募金のお願い

財団法人 東京都公園協会

募金のお願いパンフレット「みどりの東京をめざして」



東京都都市緑化基金



第1号パンフレット「緑豊かな東京をめざして」昭和60年10月

3. 歩んできた事業を辿る

れの緑化手法のノウハウを説明した「緑化のススメ」（冊子）なども発行し、技術的な側面からのアドバイスも行い、対象施設側の助成申請を促すような取り組みも行っている。

さらに、平成22年（2010）度より地下鉄車内の中吊り広告の掲出や、同様内容のポスターを作成し都立公園内に掲出するなど、より多くの都民に都市緑化基金を知ってもらうため、PRに努めている。

平成30年（2019）末までに作成したパンフレット、冊子類は37種類に上るといふ。



三つ折りパンフレット

2) 広報誌の発行

昭和62年（1987）年4月に都市緑化基金の季刊広報誌として「みどり Tokyo」第1号が発行され、平成12年（2000）年8月の夏号（第53号）を最後に廃刊した。

この廃刊は発行終了ではなく、翌月9月に創刊された公園協会全体の広報季刊誌「緑と水のひろば」に発展的に統合され、この「緑と水とひろば」に都市緑化基金のページが設けられ、現在に至っている。

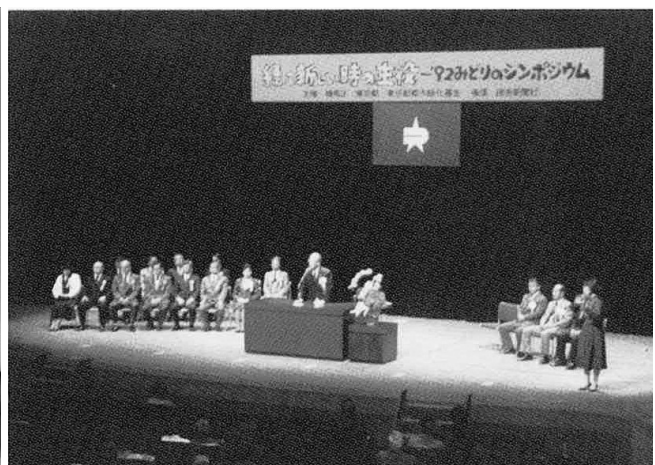


3) シンポジウムや緑の教室の開催

昭和61年（1986）度から平成3年（1991）度まで毎年6回に亘り、東京都との共催などに



みどりと子供のつどい（後援 読売新聞）平成2年



緑は新しい時の主役（後援 読売新聞）平成4年

特集 東京都都市緑化基金

より「緑のシンポジウム」を開催し、平均で400人を超える参加者を数えたという。

また、最初の都民参加型の普及啓発事業として昭和61年（1986）6月に神代植物公園で東京都に協賛する形で「さつき教室」を開催し、その後平成5年（1993）度まで東京都への後援・協賛や東京都との共催の形で、緑の相談所や百貨店で「バラの育て方」などをテーマに延べ26回の緑の教室を開催している。

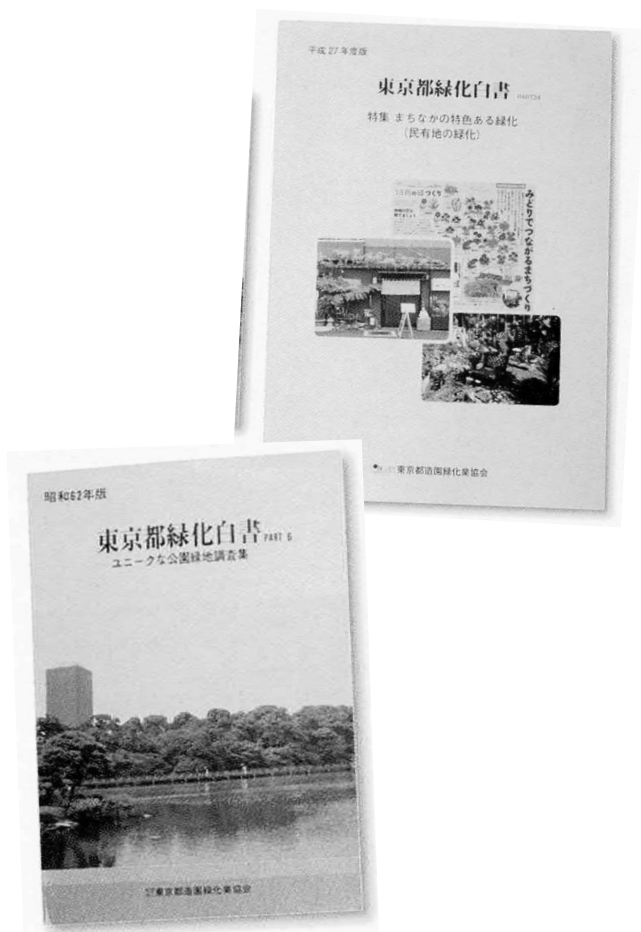


花木の育て方 椿の苗木（西武百貨店渋谷店）平成3年

4) 造園緑化業協会発行の「東京都緑化白書」への助成

「東京都緑化白書」は、造園緑化業協会が昭和57年（1982）年より毎年発行し、内容は東京都・区市町村の緑化関連の予算や緑化の現状など、東京全体の緑化動向をデータで把握するとともに、関心の高いタイムリーなテーマを特集するなど、会員はもとより広く緑化関係者の業務に参考にしていただくことを期待し、発行している。

公園協会は、白書の発行に際し、白書の公益性と造園緑化業協会並びに会員各社の都市緑化基金造成への協力を鑑み、基金創設後に助成事業が開始された昭和62年（1987）版から現在に至るまで毎年助成を継続している。



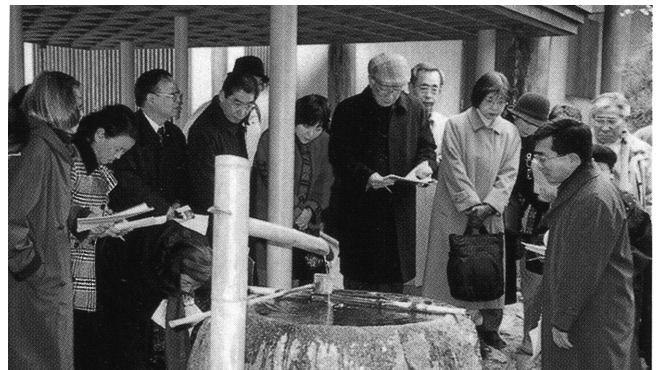
5) 緑と水の講座の開催

平成11年(1999)、緑や水に関する幅広い知識や技術を学ぶ場の提供と、緑化推進のための人材を育成することを目的として、都立庭園ガイド養成講座、庭園専門講座、地域緑化リーダー養成講座など5講座を実施している。

こうした講座の実施が実績となって、翌平成12年(2000)、日比谷公園内に「緑と水の市民カレッジ」が誕生した。

「東京都緑の倍增計画」に位置付けられた、民有地の緑化推進のための重要な施策である都民協働を加速させるための本格的な人材育成が始動したのである。

都市緑化に関連する講座の開催は、それ以降、公園協会において都市緑化基金と同様の公益事業である「緑と水の市民カレッジ」事業の運営として行われ、緑化業協会の会員も講師などを行っている。



庭園専門講座(清澄庭園の見学)



地域緑化リーダー養成講座(樹木管理実習)

6) 都市緑化基金に寄付金が納入される普及啓発事業

①「メトロガイド」活用による緑化普及活動

メトロガイドは、ご存知の方も多いと思うが、東京メトロの各駅など330箇所無料で配布されている月刊のタブロイド紙であり、発行部数は100万部である。

平成17年(2005)年12月、公園協会はメトロガイド発行元の日刊工業新聞社と「都市緑化基金支援広告掲載の実施に関する協定」を締結した。締結内容は紙面の1ページを緑化普及なども含めた公園協会のPRを行うとともに、都市緑化基金を支援する企業名を掲載するものである。この1ページの全面広告代を公園協会が支払い、日刊工業新聞社から企業名掲載料の50%を都市緑化基金に寄付してもらおう仕組みで、双方がウィンウィンとなる普及啓発活動である。季刊で広告掲載を行い、平成24年(2012)度の終了までに日刊工業新聞社より約2,800万円の寄付金が都市緑化基金に納入された。

この緑化基金を支援する企業名掲載の募集に当たっては、



メトロガイドの基金支援広告ページ

趣旨に賛同した造園緑化業協会の会員が多数協力している。発行の度に毎回掲載に協力した会員もいる。

②都民銀行の定期預金商品との連携

(株)東京都民銀行は平成20年(2008)年10月「みどりの街づくり定期預金」を発売した。

店頭表示金利にさらに金利を上乗せし、預金残高の0.01%相当額(最高200万円)を都市緑化基金に寄付するものであり、銀行の社会貢献事業の一環の側面もある。まさに企業との連携による形態の普及啓発活動である。

締め切り前に完売し、最高限度額の200万円が都市緑化基金に寄付された。

■募金の概要／お取扱期間中にご契約いただいた「みどりの街づくり定期」の残高のうち、0.01%相当額を、財団法人東京都公園協会が実施する「東京都都市緑化基金」に寄付いたします。お客さまのご負担はございません。なお、当行からの寄付は初年度一回のみとし、翌年以降の寄付は行いません。

みどりの街づくり定期チラシ



7) 花の種子配布事業

平成16年(2004)度より民間の自主的な緑化への助成の一環として花の種子配布事業を開始し、ボランティア活動団体や社会福祉施設、学校などに花の種子や球根を配布し、緑化意識の啓発を図っていた。その後同年に創設された「花壇・庭づくり事業」の資材助成と類似することから、平成25年(2013)度に廃止された。

この間、延べ3,000団体を超える幼稚園、小中学校、ボランティア団体、病院、社会福祉施設に配布され、地道な事業であったが、多数の礼状が寄せられる事業であった。

表5 花の種子配布事業 配布件数

年度	配布件数	幼稚園	小中学校	ボランティア	病院・社会福祉施設	その他
平成16年(2004)	41	6	7	12	16	
平成17年(2005)	100	14	43	38	5	
平成18年(2006)	200	64	108	23	5	
平成19年(2007)	300	91	164	38	7	
平成20年(2008)	300	115	137	41	7	
平成21年(2009)	300	108	83	69	1	39
平成22年(2010)	300	193	58	49		
平成23年(2011)	600	321	115	150	14	
平成24年(2012)	600	345	105	139	11	
平成25年(2013)	300	134	87	75	4	

8) トーク&コンサートの開催

平成18年(2006)年1月、都市緑化基金20周年記念事業としてトークショーとコンサートを組み合わせた「さわやかトーク&コンサート～花と緑とやさしさを～」を日比谷公会堂で開催した。有料(前売り料金で2,000円)であったが、約1,000人の入場者があり、これをきっかけに、楽しみながら普及啓発活動を行う観点から継続開催することとした。

その後、毎年3月に開催したが、平成21年(2008)3月の第4回を最後とした。トークには永六輔さん、桜守りで有名な佐野藤右衛門さん、柳生慎吾さんなど、コンサートには東儀秀樹さん、タケカワユキヒデさんなどが出演している。

さらに、より多くの方々に普及啓発活動を図るため、平成21年(2009)度からは、平成14年(2002)度を初年度として毎年10月に開催されている「日比谷公園ガーデニングショー」への参加にシフトした。

公園協会は、当初からガーデニングショーに参加し、都立公園の紹介および利用促進などを行ってきた。新たに公益事業連携イベントを開催する形で参加し、都市緑化の普及啓発のための出展ブースも設けられた。これ以降、現在まで毎年継続してガーデニングショーに出展している。

9) その他

都市緑化基金は、花壇コンクールへの都市緑化基金賞の授与や花壇コンクールの開催、公園などの保全美化運動を推進する各地域の愛護会などへの助成、苗木配布などの事業を設立当初から10年ほど行ってきた。

また、都市緑化基金のシンボルマークの公募や、都市緑化基金設立5周年、10周年、20周年と節目ごとに記念事業を行い、都市緑化基金の認知度向上に努めた。

30周年においては、「東京都都市緑化基金30年の歩み」を発行し、関係機関のみならず都内各市町村の図書館に配布している。

なお、中央の都市緑化基金と地方公共団体が主催する「全国都市緑化フェア」、現在、公園協会が事務局を担っている「日比谷公園ガーデニングショー」は、造園緑化業協会も当初から協力しており、第6章で紹介する。



永六輔さんのトーク



東儀秀樹さんによる雅楽演奏

(2) 民有地緑化助成に関する事業

1) 民有地緑化助成事業の審査および決定

公園協会は、緑化基金設立と同時に「東京都都市緑化基金助成金交付要綱」を整備し、公園協会内に助成の可否(現在は採否)および助成額の決定について審議する「緑化助成事業審査会」を設けている。

緑化助成事業の実施にあたっては、第三者機関である「東京都都市緑化基金運用委員会」で承認された「助成金交付審査基準」に基づき、「緑化助成事業審査会」で助成の採否および交付すべき助成金の額を決定する仕組みとしている。

審査会は公園協会内の緑化基金担当常務理事、総務部長、公園事業部長、外部から緑化に関する学識経験者、都民代表の5人で構成され、常務理事が委員長を務めている。

また、緑化助成事業項目ごとに事業実施要綱が整備され、助成は要綱に則って実施されている。

なお、民有地緑化助成に関する事業は状況に応じて変化し、これまでの事業は時系列的に整理すると理解しやすい。このため、本項では、当事業を立ち上げた「創設期」、社会状況に合わせながら着実に事業を展開した「充実期」、都民主体の緑化推進を鮮明に打ち出し新たな事業へ積極的に取り組み始めた「発展期」に大別して紹介する。

2) 創設期(事業を立ち上げた設立当初)

事業設立当初は、①緑化協定区域、緑化地区への助成、生垣設置などの民間の自主的な緑化への助成、②都市公園等の保全、緑化リーダーや専門家の養成・活用など住民の活動等への助成、③緑地保全地区、緑化協定地区などの維持管理への助成の3項目を対象に助成事業をスタートさせた。

事業の助成対象は、当時の民有地緑化に関する法律や条例などを勘案しながら決定されたと推察される。特に緑化協定区域、緑化地区への助成は、都市緑地保全法で制度化された民有地への緑化を後押しする切り札として活用されることを期待したものであったと思われる。

しかしながら、都市緑化基金設立当時は、個人レベルの緑化を面的に拡げていく意識が乏しかったこともあり、申請はほとんどなかったようである。

基金設立当初である昭和61年(1986)度の運用益は約900万円と少なかったこともあり、助成元年に当たるこの年は、現在のJR目白駅及び周辺鉄道敷地の緑化に集中して助成された。助成第1号である。ちなみに、緑化助成金額は工事費の2分の1とし、限度額は600万円であった。

その後も緑化基金設立後3年間は、都市緑化基金の認知度向上、緑化による車窓からの景観向上、広域的な展開を狙い、鉄道施設を中心に助成された。

この助成事業は、その後再三にわたる見直しが行われ、事業名称は改変されているものの本質的には現在も継続されている事業であることから、第4章の現在におけるそれぞれの事業の項で全体を通した年度別件数などについてまとめて紹介する。

3. 歩んできた事業を辿る

3) 充実期（効率的・効果的な事業の見直しによる展開）

平成2年（1990）のバブル崩壊以降は、わが国の経済活動は長らく低迷を続けることになる。運用益も国債の利率に助けられるなどして、平成2年（1990）度から5年（1993）度までの4年間は1億円の大台を確保し、多くの民間施設への緑化に貢献したが、その後の利率の低下により平成8年（1996）度以降、運用益は4,000万円台に減少してしまった。

こうした背景を受け、平成9年（1997）5月の緑化助成審査会では、金利が回復し助成金額の増額が見込めるようになるまでの当面の措置として、当初の緑化助成基準を変更し、助成金額の減額を行うことを決めており、この暫定運用が平成12年（2000）度まで続くこととなった。

平成13年（2001）11月に都市緑化基金事業の見直しが行われ、「民有地の緑化助成事業」をよりわかり易くするため、民間の自主的な緑化への助成を「緑を増やそう」事業、住民の緑化活動等への助成を「緑のなかま」事業に改めた。

減少した運用益での事業が強いられるなか、平成15年（2003）の都市緑化基金運用委員会で事業の見直しが審議された。この結果、後述の「調査研究事業」が廃止され、民有地の緑の量的拡大にウエイトを置いた事業のあり方から、公園協会の公益事業と連携した緑化意識醸成のための普及啓発事業に重点が置かれることとなった。

表6 民有地緑化助成事業における助成金額の変遷

民間緑化事業への助成	昭和61年度～平成8年度	①社会福祉施設 200万円までを全額、それを超える金額については、事業費から200万円を引いた金額の50%化事業費の50%	②病院、学校施設など 緑化事業費の50%	③事務所 上限 600万円	④集合住宅 上限 600万円
	平成9年度 上限金額の変更	①社会福祉施設 100万円までを全額、それを超える金額については、事業費から100万円を引いた金額の50%	②病院、学校施設など 緑化事業費の50%	③事務所 上限 400万円	④集合住宅 緑化事業費の30%
上限金額変更後、助成審査会の議を経て、助成限度額を20%減額し運用開始					
緑をふやそう事業	平成9年度～平成12年度	①社会福祉施設 100万円までを全額、それを超える金額については、事業費から100万円を引いた金額の50%	②病院、学校施設など 緑化事業費の50%	③事務所 上限 320万円	④集合住宅 緑化事業費の30%
	平成13年度 全施設共通	緑化事業費の 30%～50%		上限 300万円	
平成14年度 全施設共通	緑化事業費の 30%～50%		上限 200万円		
緑化計画書の導入					
平成15年度 全施設共通	緑化事業費の30%～50%		義務的緑化 事業費の30%		上限 200万円
街かど緑化支援事業	平成16年度 全施設共通	事業費の 50%		上限 100万円	
	平成18年度 全施設共通	事業費の 50%		上限 200万円	
平成23年度～現在	①社会福祉施設、病院・医療施設 100万円までを全額、それを超える金額については、事業費から100万円を引いた金額の50%	②①に準ずる施設（鉄道、郵便局）	③一般施設 事業費の50%		上限 400万円 上限 400万円 上限 200万円

さらに平成16年(2004)には、再度、民間の自主的な緑化の具体的な用途について見直しが行われ、「街かど緑化支援事業」、「シンボルツリーを植えよう事業」(後に「街かど緑化支援事業」に吸収)、「花壇・庭造り支援事業」に改められた。

「街かど緑化支援事業」では、鉄道施設、学校施設、社会福祉施設、病院施設などの公共的な施設をはじめ、工場や会社の道路と接する公開的な機能を有する敷地など、民間が行う緑化事業で公開性のある人工地盤や壁面への緑化も対象に緑化の量的拡大を図った。助成額については見直しが繰り返されたため、公園協会では表6のように整理している。

「花壇・庭造り支援事業」は、都市緑化を進めるボランティア団体の育成と次世代の担い手である小中学生の緑化意識の普及のため、花壇・庭づくりなどの緑化活動に対する助成金や材料支給による支援、活動への助言を目的とした事業である。また、緑化助成の観点のみならず、むしろ都市緑化の裾野を広げる幅広い対象への緑化普及啓発効果も大きい事業である。支援期間は通算3年以内とし、3年間継続助成することで活動が根付くことへの期待感が込められている。助成限度額は初年度10万円、2・3年目は各5万円である。

「街かど緑化支援事業」、「花壇・庭造り支援事業」は、現在も継続されている事業であることから、第4章で設立当初から全体を通じた年度別件数などについて紹介する(66~68ページ)。

都市緑化基金は、運用益減少に対する新たな財源を模索するなか、当面の打開策として、平成18年(2006)2月に(財)民間都市開発推進機構の「住民参加型まちづくりファンド支援事業」(通称:民都資金)に応募、採択され、平成17年(2005)度から5年間で5,000万円が拠出されることになった。(表7)

この資金により、公共施設と連続した大規模住宅の緑化など、効果的な官民連携による快適空間の創出のための緑化助成が可能となった。緑化助成の限度額は1件当たり500万円で、5年間で4,100万円、17件の効果の高い緑化助成が行われた。この資金のうち900万円は、都立公園で活動するボランティア団体への花苗など、資材提供の助成に使用されている。

特筆すべきは、この民都資金による2番目の助成対象事業である。私鉄の系列会社である造園緑化業協会の会員(当時)が親会社と連携し、複々線化事業により生まれた人工地盤上の有効利用策として貸農園を整備する事業であり、農園の外周緑地整備が助成対象であった。

平成18年度(2006)に整備されたこの貸農園は、平成19年(2007)のオープン時にNHKのニュースで放映され、これを契機にテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などに数多く取り上げられた。宣伝費用に換算すると数千万円規模であったそうである。さらに、翌年の平成20年(2008)会員(当時)は、この事業に対し屋上・壁面緑化技術コンクールの国土交通大臣賞を受賞している。

また、「緑地保全地区等の維持管理」については、都市緑化基金から助成を行っていたが、都市緑地保全法を受けて、平成13年度より都からの受託事業となった。

これは、平成7年(1995)7月に都市緑地保全法が改正され、市民緑地制度、緑地管理機構制度が創立されたことによる。市民緑地制度は、地方公共団体または緑地管理機構が土地の所有者と契約し、その緑地を市民が利用する市民緑地として管理し、公開する制度である。

緑地管理機構制度は、地方都市緑化基金など、緑化の推進に取り組む法人を緑地管理機構として指定し、緑地の買い取りや市民緑地の管理に活躍してもらう制度で、公園協会は平成10

3. 歩んできた事業を辿る

年（1998）3月に都より緑地管理機構の指定を受けた。

この結果、それまでの助成ではなく、都の要請により平成13年（2001）から20年（2008）まで、2箇所市の市民緑地の維持管理を緑地管理機構として受託。その後、東京都が土地を取得し、現在は都立公園となっている。（表8）

表7 「住民参加型まちづくりファンド支援事業」対象事業

単位：千円

年度	施設名	事業者名	所在	事業内容	助成金額
平成17年 (2005)	パークタワー品川ベイワード	三井不動産(株)	港区	区の敷地も取り込み、運河沿いの遊歩道と一体となった緑地空間の創出	2,000
平成18年 (2006)	AGURIS 成城	小田急電鉄(株)	世田谷区	区の敷地も取り込み、運河沿いの遊歩道と一体となった緑地空間の創出	5,000
	パークタワー八王子 リバーグレイス	三井不動産 レジデンシャル(株)	北区	緑と並木を創出、隣接する敷地と一体的な公園の形成	5,000
平成19年 (2007)	ルミネ北千住店	(株)ルミネ	足立区	屋上緑化	5,000
	グリーンプロナード 世田谷計画	小田急電鉄(株)	世田谷区	梅が丘駅周辺2箇所、祖師ヶ谷大蔵駅 周辺1箇所の緑化工事	5,000
	フィル・カンパニー千駄ヶ 谷	(株)フィル・カンパニー	渋谷区	屋上部を緑化し、オープンガーデンと して一般開放（昼間）	1,070
	(学)文化杉並学園	(学)文化杉並学園	杉並区	グラウンド側壁面緑化および屋上緑化	1,930
平成20年 (2008)	THE TOYOSU TOWER	三井不動産 レジデンシャル(株)	江東区	地上部、屋上部緑化	5,000
	メモリーホーム新小岩	(株)イトー	葛飾区	壁面の自主的な緑化	300
	愛和幼稚園	(学)愛和学園	練馬区	地上部の自主的な芝生化	2,000
	明治学園和泉 インターナショナルハウス	(学)明治大学	千代田区	地上部、屋上部緑化	2,000
	グランハウゼ	(株)栄光社	中野区	地上部の自主的な芝生化	2,000
	生活クラブ生活協同組合 (仮称)生活クラブ	生活協同組合 東京本部	世田谷区	複合施設の外構および屋上緑化	1,560
	グリーンガーデン駐車場	グリーンガーデン駐車場	江戸川区	駐車場の生け垣、壁面緑化	175
	東急電鉄世田谷線 山下駅	NPO 法人まちこらぼ	世田谷区	地上部の自主的な緑化	445
平成21年 (2009)	グランドメゾン瑞江	富士テクノ(株)	江戸川区	地上部緑化	445
平成21年 (2009)	東京都個人タクシー会館	東京都個人タクシー協同組合	中野区	地上部緑化	587

表8 市民緑地の維持管理事業一覧

年度	市民緑地名	所在	面積 (㎡)	委託先
平成13年～平成16年 (2001～2006)	祖師谷公園成城9丁目市民緑地	世田谷区	400	NPO 法人グリーンコム イレブン
平成14年～平成20年 (2002～2008)	小山田緑地梅木窪市民緑地	町田市	8,403	NPO 法人鶴見川源流ネットワーク (有)小山田グリーンサービス

4) 発展期（都民主体の地域緑化を目指した新たな取り組みの展開）

民有地緑化の当初からの大きな柱でありながら、住民の緑化意識の醸成が十分でないこともあり、助成が行われていなかった地域の緑化についての新たな事業が始まった。

都民の自主的なパワーでの緑化を推進するため、公園協会が平成19年（2007）3月に策定した「公益事業3ヵ年計画」の目玉として打ち出した「まちなか緑化活動支援事業」である。ま

表9 モデル事業対象地区および緑化箇所

年 度	対象団体名	所 在	緑化箇所数
平成20年～平成22年（2008～2010）	みちびき花の辻商店街振興組合	台東区浅草	7箇所
平成20年～平成22年（2008～2010）	商店会振興組合 久我山商店会	杉並区久我山	17箇所
平成21年～平成23年（2009～2011）	地縁法人 桃園町会	中野区中野	24箇所
平成22年～平成24年（2010～2012）	NPO法人ゼファー池袋まちづくり	豊島区池袋	23箇所
平成23年～平成25年（2011～2013）	地縁法人 木場5丁目町会	江東区木場	21箇所

さに都市緑化基金事業と、公園協会の公益事業と連携した形での実践となった。

事業は、公園、幹線道路、河川など、公共の緑と将来的に連続する可能性がある地域を対象とし、地域の活動団体主導による緑化を進めながらその団体への人材育成を行い、育成された人材に仮称「まちなか緑化士」の資格を付与し、さらなる地域の緑化の推進を波状的に図ろうとするものである。

まさに、公と民の緑を効果的に連続させ、都民と協働して都市景観の向上を図り、さらに、緑化意識の向上も進めていくことを目的としている。

公園協会は、プロポーザル方式により事業の具体的な手法を募集した。採用された提案（株チームネット）の手法は、①地域住民を対象に緑化による温度軽減効果（涼しさ）の体感と分かり易い説明により緑化のメリットを各人に気付かせ、②個人単位の緑化を出発点として、地域のなかで連鎖するよう主体的な意欲を個々人から引き出し、③豊かな緑環境の醸成に繋げていこうとするものであった。

さらに、提案では、地域住民の緑化への意欲をコーディネートする専門家として「まちなか緑化士」を位置づけ、この事業を普及させるための活動拠点も整備していこうというものである。

事業実施には、地域住民への説明会をはじめとするワークショップなどの密度の濃い交流や「まちなか緑化士」育成のための研修講座の開催など、ソフト面での経費も従来の助成と比較して多大となった。

このため、公園協会は、この事業実施期間中は毎年当該年度の運用益の2～3倍の事業費を緑化基金に繰り入れており、公園協会の新たな事業への取り組みの熱意が伺える。

こうして、平成19年(2007)6月から、候補地選定作業に着手し、商店街、住宅地、住宅・マンション混在地の3タイプの5箇所を選定した。公園協会は、経験のない事業への試みであることから、この5箇所についてはモデル事業として実施している。

また、地域住民の緑化機運の高揚には時間を要することから、1地区あたり3年の継続事業となった。緑化助成

表10 まちなか緑化士及び緑化士補認定者数

年 度	緑化士認定人数	緑化士補認定人数	備考
平成23年(2011)	8名	5名	有効期限は3年以降要更新手続き
平成24年(2012)	7名	3名	
平成25年(2013)	9名	1名	
平成26年(2014)	8名	—	
平成27年(2015)	17名	3名	
平成28年(2016)	8名	—	
平成29年(2017)	10名	—	
平成30年(2018)	5名	2名	

3. 歩んできた事業を辿る

表 11 「まちなか緑化活動支援モデル事業」に関連して作成された CD や小冊子

年度	表題
平成 20 年 (2008)	個からはじまる緑のまちづくり
平成 21 年 (2009)	緑でつながろう。東京都公園協会が目指す”まちなか緑化” みどりのまちづくりには人づくりから～フィールドリーダー養成講座～
平成 22 年 (2010)	魅力ある商店街をつくる まちなか緑化 まちづくりを変える まちなか緑化
平成 23 年 (2011)	人づくりから始まる、緑ゆたかなまちづくり まちなか緑化
平成 24 年 (2012)	界わい緑化（コンセプト編、取り組み編） 全国都市緑化フェア TOKYO 各地区 DVD



「まちなか緑化」冊子（平成 24 年発行）

「まちなか緑化」商店街モデルのご紹介（平成 24 年発行）

は 1 年目 400 万円、2、3 年目はそれぞれ 200 万円を限度額とし、助成対象は個人ではなく商店会、自治会、管理組合など対象地域の団体とした。

こうして平成 20 年（2008）度から平成 25 年度（2013）まで、浅草の商店街を皮切りに 5 箇所について、コーディネーターによる度重なる説明会やワークショップが開催され、地域住民が主体となった緑化が行われた。

コーディネーターは提案者である(株)チームネットの代表が務め、長年培ってきた計算し尽されたプログラムにより、想像以上に地域住民の緑化への盛り上がりが高まることとなった。

地域住民の緑化機運を高め、緑化のイメージを地域住民が主体となって作成するように導くコーディネーターのスキルは、一朝一夕に取得できるものではない。

「まちなか緑化士」の認定を得るには、まず緑化やまちづくりなどの関連事業従事者を対象とした「まちなか緑化士養成講座」の受講が必要である。その上で、「まちなか緑化」の推進プログラムを基盤に、緑を活かしたまちの環境づくりやコミュニティづくりの手法を学んだ受講生に対し、この手法を活用して事業を進めていく上で必要な企画提案力や意欲がある者を、公園協会が「まちなか緑化士」として認定する仕組みになっている。

この個ではなく地域を対象とした新たな緑化手法に注目した造園緑化業協会の会員も複数おり、既に■社■名が「まちなか緑化士」に認定されている。

こうして、平成 30 年（2018）度までに造園緑化業協会の会員を含め 72 名が認定を受け、それぞれの分野で活躍している。

「まちなか緑化活動支援事業」を普及啓発するための活動拠点は、平成 21 年（2009）8 月に都立木場公園内の旧木場ミドリアム（緑の相談所）に整備されたが、平成 28 年（2016）4 月

東京都が防災拠点を担う事務室として使用することになり、事業紹介のパネル展示や講座開催の教室は無くなり、建物外部の緑のカーテンによる「体感コーナー」のみが現在存続している。

「まちなか緑化活動支援モデル事業」の第1回の報告会には、国や幅広い自治体、関連企業、NPO、大学、メディアなど173名の参加があり、先駆的な事業への注目を集めた。また、新聞・雑誌、テレビなどにも紹介されるとともに、杉並区・豊島区をはじめ愛知県豊田市、神奈川県小田原市、埼玉県熊谷市などにもこの手法が拡散した。そしてこの手法は、東京都と区市町村が行う民有地の緑化の手法として採用されていくことになる。

「まちなか緑化活動支援モデル事業」については、8枚のCDを制作しており（各15分程度）、希望があれば公園協会からの借用が可能である。

平成16年（2004）4月から事業名が見直されスタートした「街かど緑化支援事業」、「花壇・庭造り活動支援事業」については、その後も着実に事業が継続された。なお、両事業とも現在まで継続されていることから、各年度別の助成対象や件数については第4章で示すこととする。

（3）調査研究事業

調査研究事業は都市緑化基金設立の翌年から、都市緑化基金の事業を進めて行く上での参考に資するため、「都市地域における民有地の緑化推進手法に関する調査」を3年間にわたり実施することでスタートした。

主要な事業対象となる公共的な性格を有する鉄道敷地における具体的な緑化計画案について特に掘り下げた提案がなされている。当初の緑化助成対象が鉄道敷地に重点を置いていたことが頷ける。

平成元年（1989）度は、この3年間の調査の最終年度であるとともに、新たに「都市内より発生する樹木の剪定枝葉の活用手法調査」に着手した。調査期間は同様に3年間である。剪定枝葉の有効活用は公園協会が昭和61年（1986）度から取り組みを開始した事業である。

公園協会は昭和60年（1985）10月に都立霊園の受託管理事業を開始したが、直後から小平霊園の秋の彼岸の墓参に伴い発生した個人墓地内の大量の枝葉処理の費用に悩まされたとのことで、当時、造園緑化業協会の会員が剪定枝葉粉碎処理の大型機械化に取り組んでおり、公園協会は実用化のための試験委託を行った。

この実用化に向けた試験において、活用の具体化に向けた機械の仕様の検討や機械作動の騒音調査、時間当たりの粉碎量を基本にした歩掛り算定などが行われた。その結果を踏まえ、公園での園路や遊具周辺への敷き均し、堆肥化などの実用化が全国に先駆けて行われた。

こうした背景もあり、「都市内より発生する樹木の剪定枝葉の活用手法調査」では、さらなる展開を目指して、東京都全域の公園等の剪定枝葉の発生量の算定、処理施設の形式や配置場所、流通に関する調査、資源化の安全性、品質予測などの具体的な提案をまとめた。後に、この調査結果が、造園緑化業協会の「海の森剪定枝葉堆肥化事業」へと繋がる一助となっている。

平成4年（1992）度から4年間は、「市街地の変化に対応した新しい緑化手法に関する調査」を行っている。緑化助成対象の社会福祉施設、病院・医療施設、学校・教育施設、事務所、集合住宅について、それぞれ緑化のポイントと今後の緑化の方向性を提案しており、助成対象施設からの助成申請を促すための調査であった。この成果を得て、公園協会は、平成7年（1995）

3. 歩んできた事業を辿る

表 12 調査研究事業の年度別一覧

年 度	調査件名
昭和 61 年 (1986)	都市地域における民有地の緑化推進手法に関する調査・研究
昭和 62 年 (1987)	都市地域における民有地の緑化推進手法に関する調査・研究 (その 2)
昭和 63 年 (1988)	都市地域における民有地の緑化推進手法に関する調査・研究 (その 3)
平成元年 (1989)	都市地域における民有地の緑化推進手法に関する調査・研究 (その 4)
	都内で発生する樹木の剪定枝の有効利用を図るための調査 来年度からの調査の予備調査
平成 2 年 (1990)	都内より発生する樹木の剪定枝の有効利用を図るための調査
平成 3 年 (1991)	都内より発生する樹木の剪定枝の有効利用を図るための調査 (その 2)
平成 4 年 (1992)	市街地の変化に対応した新しい緑化手法に関する調査
平成 5 年 (1993)	市街地の変化に対応した新しい緑化手法に関する調査 (その 2)
平成 6 年 (1994)	市街地の変化に対応した新しい緑化手法に関する調査 (その 3)
平成 7 年 (1995)	市街地の変化に対応した新しい緑化手法に関する調査 (その 4)
平成 10 年 (1998)	市民緑地による樹林地管理手法の検討調査
	都市景観向上に果たすべき緩衝植栽の役割調査
平成 11 年 (1999)	市民緑地による樹林地管理手法の検討調査 (その 2)
	都市景観向上に果たすべき緩衝植栽の役割調査 (その 2)
平成 12 年 (2000)	市民緑地による樹林地管理手法の検討調査 (その 3)
	緑のリサイクルサポート事業に関する調査
	都内のサクラ各所の更新に関する調査
	東京都における屋上緑化等の現況調査
	三宅島における緑の回復に関する基礎調査
平成 13 年 (2001)	屋上緑化の推進に関する調査

年 3 月に緑化の普及啓発事業の一環として「緑化のススメ」を発行している。

平成 9 年 (1997) 度に公園協会が緑地管理機構の指定を受けたことから、平成 10 年 (1998) 度より 3 年間「市民緑地による樹木管理手法の検討調査」を行っている。この調査では、緑地管理機構制度を利用した市民参加の緑化推進事業を推進するために、市民が積極的に緑化に参加できる仕組みづくり、行政によるバックアップや助成のあり方などが提案されている。

このように都市緑化基金を取り巻く緑化の状況を把握しながら、時機をとらえた調査が平成 14 年 (2002) 度まで実施されてきたが、平成 15 年 (2003) の都市緑化基金運用委員会で基金の運用益の減少に伴う事業の見直しが行われ、残念ながら調査研究事業は廃止された。



さまざまな調査研究報告書

4. 今日における東京都都市緑化基金の事業展開

低金利時代に突入し、運用益の増加が期待できず、さらに先行きが見えない現在、都民からの貴重な募金を原資とする都市緑化基金の事業は、より慎重かつ効果的に実施していかざるを得ない状況におかれ、これまでにない苦労がうかがえる。

社会経済状況の変化に伴う度重なる事業の再編・廃止や助成額の見直しなどを経て今日の事業に至っており、この章では都市緑化基金の事業の現在について紹介する。

(1) 東京都都市緑化基金の現在の事業の体系

都市緑化基金設立当初からの民有地緑化への助成と、都市緑化を推進するための普及啓発の2つの事業に大別されている。

民有地緑化助成は、「街かど緑化支援事業」、「花壇・庭づくり支援事業」、「界わい緑化推進プログラムに基づく緑化活動支援事業」の3つの柱により構成されている。

また、緑化普及啓発は、造園緑化業協会が協賛するとともに多くの会員が協力する「日比谷公園ガーデニングショー」などのさまざまな団体と協働した緑化推進の普及啓発事業として取り組んでいる。

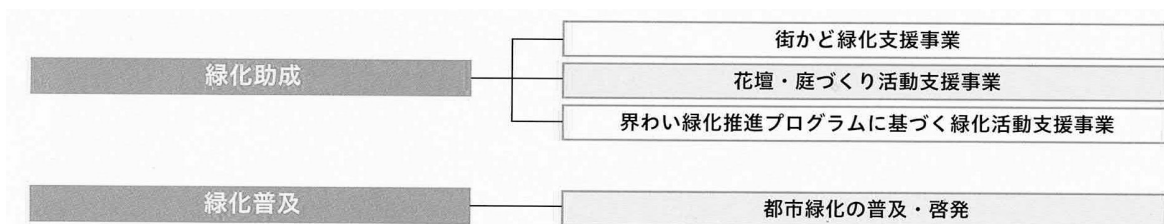


図4 東京都都市緑化基金の事業体系図 (平成28年度(2016))

(2) 緑化助成事業

1) 緑化助成対象事業の審査および決定

平成21年(2009)3月緑化助成審査会の構成員に都民代表を加えたことに続き、平成24年(2012)1月に審査のより質的な助言を求めため、緑化に関する学識経験者を加え、厳正な審査の上、助成事業が決定されている。

表13 都市緑化基金助成事業審査会委員

役名	氏名	現職
委員長	田倉 英明	(公財) 東京都公園協会常務理事
委員	葉山 嘉一	元日本大学生物資源科学部准教授
	高村 絵里	都民代表
	澤井 晴美	(公財) 東京都公園協会総務部長
	菊池 正芳	(公財) 東京都公園協会公園事業部長

平成31年3月31現在

2) 街かど緑化支援事業

対象施設はこれまでと同様に、社会福祉施設・医療施設・教育施設・鉄道施設など公共的な施設を主なものとし、企業の事務所敷地や集合住宅などが含まれている。

助成額については、23年(2011)度に改正以降変更されていない。第3章の「表6 民有

4. 今日の事業展開

地緑化助成事業における助成金額の変遷」(59 ページ) に示したように、社会福祉施設、病院・医療施設の緑化工事費については100万円までは全額、それを超える工事費については2分の1(上限400万円)、これらの施設に準じた鉄道などの公共施設については工事費の50%(上限400万円)、企業や集合住宅などの一般施設については同様に工事費の50%(上限200万円)としている。

街かど緑化支援事業は、表6の通り事業名を変更しながら現在に至るが、これまでの助成対象の施設別分類と助成件数は表14の通りである。全体助成件数の施設別の割合は、社会福祉施設、一般施設がそれぞれ3分の1を占めているが、公共的な施設がの割合が減少し、一般施

表14 街かど緑化支援事業の施設別分類と助成件数 (件数)

年 度	鉄道施設	医療施設	社会福祉施設	教育施設	一般施設	その他	計
昭和61年(1986)	1						1
昭和62年(1987)	1		1	1	5		8
昭和63年(1988)	6			3	4		13
平成元年(1989)	5	2	4	1	15		27
平成2年(1990)	3	1	6	8	12	1	31
平成3年(1991)	4	2	8	7	12	1	34
平成4年(1992)	3	3	1	3	21		31
平成5年(1993)	3	2	6	6	13		30
平成6年(1994)	2	3	10	9	5	1	30
平成7年(1995)	2		8	6	3		19
平成8年(1996)	2	2	15	3	6		28
平成9年(1997)		1	10	6	2		19
平成10年(1998)		1	8	4	1		14
平成11年(1999)		1	6	7	4		18
平成12年(2000)		4	6	2	7		19
平成13年(2001)		3	16				19
平成14年(2002)		2	12	3			17
平成15年(2003)		1	18	2			21
平成16年(2004)		2	11	3	1		17
平成17年(2005)		1	2	3	3		9
平成18年(2006)		3	4		7		14
平成19年(2007)	1		3	2	7		13
平成20年(2008)	1	1	1	2	7		12
平成21年(2009)		2	4	2	15		23
平成22年(2010)			2	1	4		7
平成23年(2011)	1	2	1	3	6		13
平成24年(2012)		2	3	4	4		13
平成25年(2013)	1	1		1	4		7
平成26年(2014)		1	2	4	3		10
平成27年(2015)		3	1	2	9		15
平成28年(2016)			3		4		7
平成29年(2017)			4		1		5
平成30年(2018)		1	5		1		7

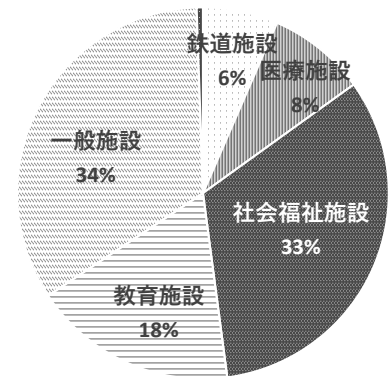


図5 街かど緑化全体助成件数の施設別の割合

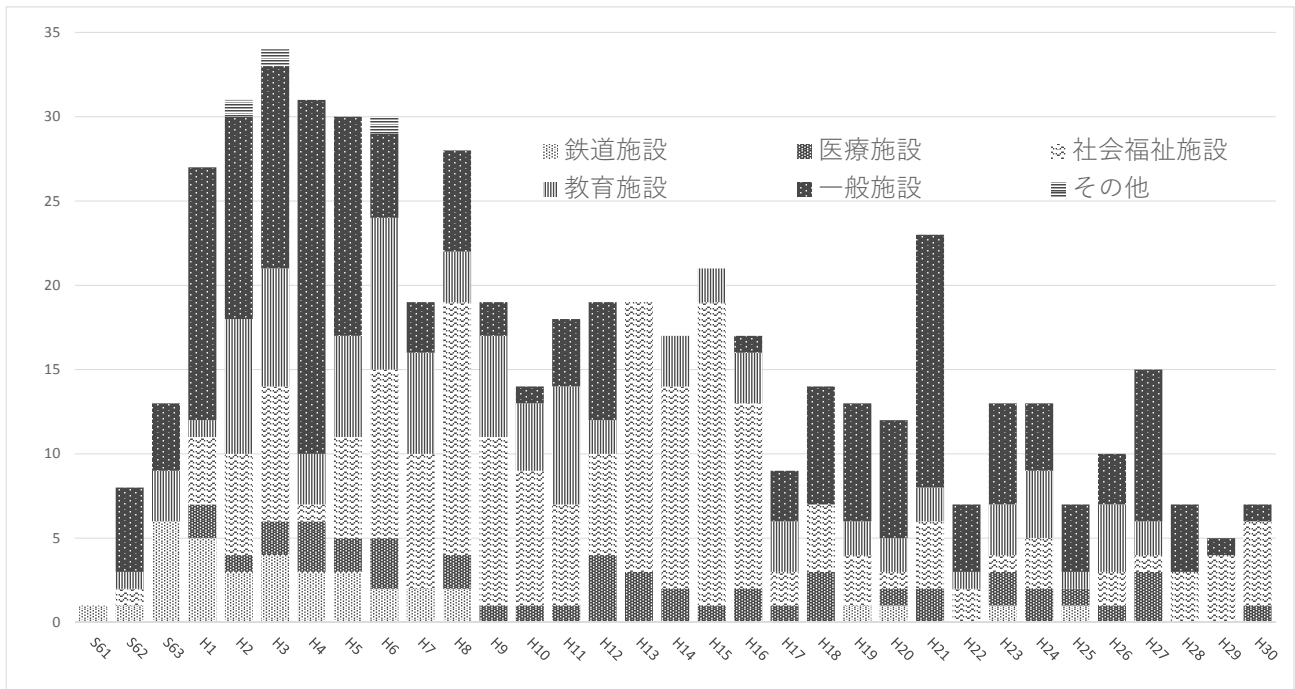


図6 街かど緑化助成先の年度別・施設別件数の推移

設の割合が高くなる傾向にあるといえる。

3) 花壇・庭づくり活動支援事業

この事業は、平成13年(2001)度に「みどりのなかま事業」としてスタートし、平成16年(2004)度から現在の事業名に改変された。ボランティア団体等による公共的な場所での花壇・庭づくり、野草・樹木保護活動(都立公園での活動は除く)、小中学校での総合的な学習の時間などにおける緑化に対する取り組みを対象として3年間で最大20万円(1年目10万円、2・3年目各5万円)の助成を行っている。

平成27年(2015)度からは初心者への配慮から、扱いやすい材料を組み合わせた選択リストによる材料支給方式を拡充し、必要な資材を届ける取り組みも行っている。

さらに2020年のオリンピック、パラリンピック大会開催に向けて「おもてなし」にふさわしい花に関心が高まっており、引き続き助成に力が入れている。

この事業の推移は表15の通りであり、地道な事業と思われるが財政事情が好転した際には拡大が望まれる事業である。

表15 花壇・庭づくり活動支援事業助成件数

年度	学校	ボランティア	計
平成13年(2001)	0	10	10
平成14年(2002)	0	5	5
平成15年(2003)	0	4	4
平成16年(2004)	4	7	11
平成17年(2005)	18	6	24
平成18年(2006)	23	17	40
平成19年(2007)	29	17	46
平成20年(2008)	26	28	54
平成21年(2009)	29	44	73
平成22年(2010)	28	46	74
平成23年(2011)	28	54	82
平成24年(2012)	29	46	75
平成25年(2013)	23	46	69
平成26年(2014)	39	44	83
平成27年(2015)	47	47	94
平成28年(2016)	38	54	92
平成29年(2017)	23	55	78
平成30年(2018)	34	39	73
			987

※平成14年、15年は「みどりのなかま事業」、平成16年から現在は「花壇・庭づくり活動支援事業」

4) 界わい緑化推進プログラムに基づく緑化活動支援事業

「界わい緑化推進プログラム」とは、平成 22 年（2010）5 月に東京都と区市町村が合同で策定した「緑確保のための総合的な方針」のなかで、密集した市街地の民有地緑化を推進するための新たな事業手法のことである。

この新たな事業手法には、都市緑化基金で取り組んだ地域の民有地緑化を住民主体で行う「まちなか緑化活動支援事業」の手法が採用されている。このことから、東京都公園協会は「まちなか緑化活動支援事業」を、東京都と区市町村が連携して進める「界わい緑化推進プログラム」を支援することに発展的にシフトし、平成 22 年（2010）年 6 月東京都都市整備局と「界わい緑化推進プログラムに関する協定書」を締結している。

この協定書締結の背景には、まちなか緑化活動支援モデル事業を進めていくうえで、地域住民の主体的活動と区市町村のノウハウの獲得が必要となる。このため、協定の締結期間は 5 年だが、地域や自治体が独立して事業を進めるよう 4 年日以降の支援は行わず、以下の 3 年間のスケジュールが想定されている。

開始：自治体が事業計画書を都に提出
公園協会が支援策などを助言

1 年目：モデル事業のための助成枠組みの検討

自治体職員向け研修、効果的箇所抽出、地域向け説明会、施工候補絞り込み

2 年目：制度検討のための展開

ワークショップ (WS)、デザインプレゼンテーション (DP)、施工箇所決定・施工、管理説明

3 年目：制度づくり

成果共有・事業 PR、新たな箇所での WS・DP・施工箇所決定・施工、管理説明

事業は、平成 23 年（2011）4 月より「まちなか緑化活動支援事業」を経験し、この手法に理解のある豊島区の 17 箇所で実施。その後、都は平成 26 年（2014）12 月、「世界一の都市・東京」の実現を目指した「東京都長期ビジョン」を策定し、「界わい緑化推進プログラム」を自然豊かな環境を次世代に継承する施策として位置づけたことから、平成 27 年（2015）3 月協定を 5 年間延長し、事業開始以来、現在 2 区、3 市が事業計画を提出、事業を行っている。（表 16）

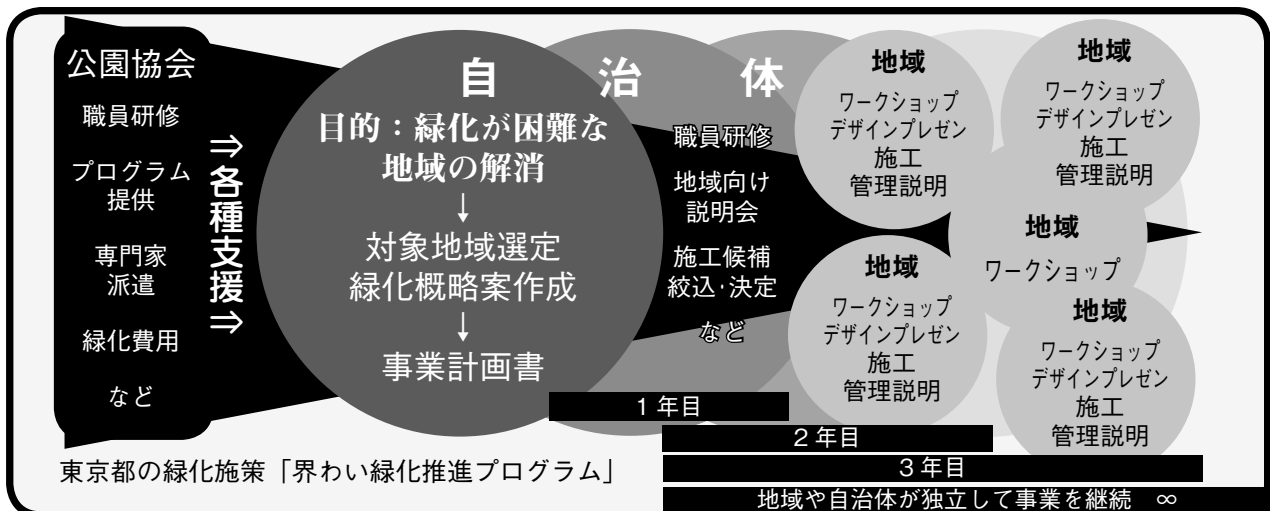


図7 界わい緑化仕組み図（イメージ）

特集 東京都都市緑化基金

表 16 界わい緑化推進プログラム支援自治体

年度	対象自治体	実施地区	緑化箇所数	備考
平成 23 年～ 26 年 (2011～2014)	豊島区	大塚駅南町会	17 箇所	平成 23 年度専門家派遣
平成 24～25 年 (2012～2015)	品川区	平塚及び旗の台	-	平成 24～25 年度専門家派遣
平成 25 年～ 27 年 (2012～2015)	港区	芝商店会	7 箇所	平成 25 年度専門家派遣
平成 26 年～ 28 年 (2013～2016)	狛江市	御台橋商栄会	14 箇所	平成 26～28 年度専門家派遣
平成 27 年～ 29 年 (2014～2017 年)	三鷹市	新川宿まちづくり協議会	6 箇所	平成 27～29 年度専門家派遣
平成 28～30 年 (2015～2018)	八王子市	西放射線ユーロード ／中町地区	各 10 箇所 計 20 箇所	平成 28～30 年度専門家派遣
平成 30～32 年 (2017～2020)	葛飾区	区役所周辺地区	-	平成 30 年度～専門家派遣



東京都都市整備局が作成した「界わい緑化パンフレット」平成 28 年 (2016) 3 月発行

(3) 普及啓発事業

都市緑化基金の普及啓発のため、より多くの人々に基金の事業の周知を目指した広報活動、都市緑化の推進活動への積極的な参加を図るための人材育成、大規模イベントへの参加などに努め、積極的に普及啓発活動を進めている。

広報活動については、公園協会全体の季刊広報誌「緑と水のひろば」のなかで「街かど緑化」事業の実績紹介や緑化基金の現在の造成額の紹介、寄付者の掲載など、より緑化基金への理解が深まるような構成に配慮している。

また、平成 22 年 (2010) 度から開始した電車内の中吊り広告も平成 26 年 (2014) 度には都

表 17 まちなか緑化関連年度別人材育成輩出人数

講座及び認定資格／年度	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	合計
フィールドリーダー養成講座	21	25	14	18	19	14	11	16	8	-	-	146
【認定】まちなか緑化インストラクター		23	10	13	13	9	5	12	5	-	-	90
上級フィールドリーダー養成講座		6	23	8	8	-	-	-	-	-	-	45
まちなか緑化士養成講座				14	9	12	9	20	10	11	10	95
【認定】まちなか緑化士				8	7	9	8	17	8	10	5	72

営線各路線に拡大している。

人材育成については、「界わい緑化推進プログラムに基づく緑化活動支援事業」にも必要なことから、「まちなか緑化活動支援事業」で行った人材育成を継続している。

現在、このまちなか緑化関連の人材育成の実績は表 17 の通りである。

大規模イベントへの参加については、第 3 章で述べたように毎年日比谷公園で継続開催されている「日比谷公園ガーデニングショー」に、さまざまな形態で参画している。

平成 25 年（2013）度以降はポスター、会場チラシ、ガーデニングショー実施報告書作成経費など広報関連費用への助成を行っている。同年よりガーデニングショー最大の目玉である 4 部門のコンテストの金賞を、実行委員会の理解もあり、都市緑化基金賞に名称変更し、都市緑化基金の知名度アップを図っている。

また、平成 26 年（2014）度以降は、東京マラソン財団と屋上開発研究会の協力により、緑化助成箇所も含めた「まちなみつなぐ緑マップ」を作成し、ガーデニングショー開催時に来場者に配布し、周辺をウォーキングしながらの緑化の普及啓発も行っている。

さらに、公園協会の公益事業紹介の出展テントのなかでの都市緑化基金の紹介・募金活動も毎年継続して実施している。

この「日比谷公園ガーデニングショー」には、造園緑化業協会及び個々の会員がさまざまな形で協力・参画していることから、造園緑化業協会関連事項については、第 5 章で紹介することとする。

都市緑化基金では、2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックの「花のおもてなし」に向けての貢献準備も進めている。具体的には、試みとして夏に強い花苗をボランティア団体に 4,000 株配布し、花き産地間連絡生産協議会の協力のもと、配布先の生育状況調査なども行っている。

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例

緑化基金設立以来、令和元年7月で丸34年が経過したことになる。この間の緑化助成事業による緑化面積は約33.3haにおよび、日比谷公園の約2倍に相当する。着実に助成を行ってきた成果である。

しかし、この緑がそのまま残り、都市景観の向上などに寄与しているのかどうか、緑化助成した施設のその後の状況は気になるところである。

公園協会では、設立30周年の記念誌「東京都都市緑化基金30年の歩み」を平成29年（2017）3月に発行したが、そのなかで助成先のその後の状況について委託による追跡調査を行うなど、緑化助成の効果を検証している。この章では助成事業の効果の検証の概略を紹介するとともに、各助成事業の実績事例を抜粋して紹介する。

（1）緑化助成事業対象施設のその後の状況

1）街かど緑化支援事業（鉄道、病院、学校、企業などの各施設の緑化）

昭和61年（1986）度の当初の助成から平成27年（2015）度までの全512箇所（申請者名などが判明しないものを含めると532箇所）について、グーグルが提供するストリートビューにより可能な限りの確認を行っている。

さらに、このうち31箇所について現地調査が行われ、加えて現地調査箇所から12箇所を抽出し、緑が有効に機能しているかの聞き取り調査が実施されている。なお、ストリートビューによる調査では、敷地内に植栽地があれば、助成対象の緑と見なしている。

この結果、当初の予想を大きく上回り、緑化助成対象全箇所で植栽地が確認され、助成対象地が都市景観の向上に大きく貢献していることが実証されたことになる。なかには、明らかに建物の改変後に新たな植栽地を確保している事例も見受けられ、緑の継承が行われている。

現地調査では、概ね公開性が確保されており、大規模施設では河川や街路樹との水と緑のネットワークの形成への寄与、小規模施設でも公園、街路樹、農地などの身近な緑との一体感の構成が確認されている。このことは、都市の緑を保全・創出し、繋げていこうという都市緑化基金の成果であるとともに、施設の緑化により、良好な空間、緑の空間が連鎖する証といえる。

聞き取り調査では、どの施設でも緑化への認識の高さと熱意が感じられ、複数の社会福祉施設では維持管理のノウハウのアドバイザー派遣を要請されている。

2）まちなか緑化活動支援事業（住民主体の地域の緑化）

モデル事業として5箇所の地域で実施されたが、どの地域でも事業進行中にコミュニティの醸成が図られることが、実感として分かり、民有地緑化は進め方次第で「まちづくり」のための有効な手段となっている。

まちなか緑化の取り組みにより「緑の環境デザイン賞」の国土交通大臣賞を受賞し、さらに800万円の助成金を獲得した地区をはじめ、区の商店街の補助事業に採択されたことにより300万円の助成金をさらに獲得した地区もあり、いろいろな側面から新たな緑化手法に対する評価の裏付けが行われた。コミュニティの醸成による効果も大きいものがあった。

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例

商店街地区ではマルシェや植木市などの独自の緑化関連イベントを開催して商店街の活性化を図り、住宅地区では地域住民参加のイベントを開催し、今までにない交流を深める段階にまで発展した。また、地域住民による独自の緑化憲章の制定や人力車のコースに組み入れられ、懸案であった観光客の呼び込みに成功したケースもみられた。

自治体関連では、杉並区、豊島区がいち早く「まちなか緑化手法」を応用し、独自の地域緑化に取り組み、愛知県豊田市や神奈川県小田原市でもこの手法が導入され、埼玉県熊谷市では市民協働事業として採択された事業でまちなか緑化手法が活用されている。

この緑化手法を応用した企画立案の推進役を「まちなか緑化士」が担った事業では、まちなか緑化士2名がそれぞれの異なった事業で「緑の環境デザイン賞」を受賞しており、ここでも成果の裏付けが得られている。

3) 界わい緑化推進プログラム支援事業（区市町村が事業主体となり都・公園協会が支援する地域緑化）

この事業でユニークなのは、全国展開する外資系のコーヒーチェーン店が積極的に参加し、店舗前面両側に大きく緑化スペースを設け、店内の利用客もさることながら、地域の居心地の良さにも大きく貢献したことである。この空間を拠点として、緑の連鎖が始まり、この地区では3年間で17件の緑化への参加があり、今後のさらなる連鎖が期待される。

この地区の事業主体であった豊島区は、全区内で活用すべく「界わい緑化助成」を制度化し、3軒以上のグループ助成を対象として、緑を介したコミュニティ活動の活性化も意図した制度となっている。

他の事業主体となった区や市においても、グループ単位での申請形態、緑化助成の金額等の検討など、新たな独自事業の制度化について検討している。

表 19 界わい緑化 緑化件数

自治体	合計	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
豊島区	17	12	5					
港区	7			3	4			
狛江市	14				9	5		
三鷹市	8					6	2	
八王子市	20						10	10
5地区合計	46		5	3	13	11	12	10

(2) 街かど緑化支援事業の実績事例

街かど緑化に類する助成箇所は昭和 61 年 (1986) 度から平成 30 年 (2018) 度まで 551 箇所におよんでいる。その内訳は繰り返しになるが、対象施設の種類の鉄道・病院・学校・福祉施設などの公共的施設、事業所・集合住宅などの一般施設と多岐にわたり、緑化形態も平面的な植栽に留まらず、壁面への植栽、屋上などの人工地盤への植栽などさまざまである。

本稿では紙面の都合もあり、施設の種類の緑化形態の観点から代表的な事例を公園協会が発行した「東京都都市緑化基金 30 年の歩み」の実績事例より 5 箇所を抜粋して紹介する。



平成 26 年撮影

1) 聖路加国際病院 (中央区明石町)

平成 3 ~ 5 年度 (1991 ~ 1993) 助成

生涯現役医師を貫いた故梅原院長は、医療における緑の果たす役割について造詣が深く、「森のなかの病院」づくりを目指し、武蔵野の雑木林をテーマに公開空地や屋上・テラスの緑化に尽力した。再整備の緑化計画の策定に当たって病院は専門家を交えた委員会を立ち上げ、当時の公園協会の常務理事も委員として参加したそうである。

実のなる木にも配慮した屋上では、植栽空間を車椅子でも散策できるようになっており、患者さんたちは集まる鳥たちに癒されている。

また、小児病棟があるフロアも屋上が緑化されており、患者さん向けに夏祭り (花火や売店) を行ったり、医師の許可のもと、ベッドごと緑化空間を散策するなど心のケアにも役立っている。

専門職員が常駐し、植栽についても「森のなかの病院」の明確なコンセプトのもと適正な維



聖路加国際病院
平成 3 年
助成当時



平成 26 年撮影

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例



小児病棟と同じフロアに設置された屋上緑化



武蔵野の雑木林をイメージさせる都道沿いの緑化

持管理が行われている。

なお、平成3年（1991）度には、緑のデザイン賞建設大臣賞を受賞している。

現在では、都道の街路樹との連携や墨田川沿いのスーパー堤防の緑化との一体的整備により、水と緑のネットワークの拠点となっている。

2) 学校法人文化杉並学園（杉並区阿佐ヶ谷）

平成19年（2007）度助成

住宅地のなかの学校である。近隣の騒音への視覚的な配慮も含め、緑に囲まれた学校づくりを目指している。特徴は、校舎全面の壁面緑化と屋上緑化により建物の全面が垂直方向に見事に緑化されていることである。青梅街道からも学校の植栽が見えるなど緑化が学校のシンボルになっている。

学校側から建設会社へ、各階の緑を垂直方向にも連続させるため構造上の意匠された柱部分にも植物が伸びることができるように要望したそうであり、学校側の緑化に対する熱意が感じられる。この柱を伝っての垂直方向への緑はまだ完全には各階と繋がっていないが、繋がった暁には見事な壁面緑化が完成することは間違いない。

維持管理は職員が直営で行っており、散水は肥料等を混ぜた水を1日2回自動散水している。生徒の安全管理上、壁面には植栽管理のためのキャットウオークもなく、高所作業車により除



校舎の壁面緑化と屋上緑化



壁面緑化（アップ）

草などの維持管理作業を行っているとのことである。壁面緑化施工の際には管理面についての配慮が重要となる。



3) 知的障害者福祉施設

大型鉢による屋上緑化

グラウンド周りの緑化

設 大沢にじの里・未来工房にじ（三鷹市大沢）平成 14 年 (2002) 度助成

周辺には生産緑地が多い住宅地の一角にあり、その点では緑豊かな環境にある施設である。理事長に聞き取り調査を行った際には、緑豊かな環境にあるからこそ建設に当たっては周辺の緑との調和に配慮したとのことである。それを裏付けるように、道路沿いの緑化、園生が運動などに利用する屋上の緑化、パンを販売するショップの前面や駐輪場の緑化など敷地内の緑は豊かであり、周辺との景観もよく調和している。

また、周辺との景観の調和のみならず、地域との調和すなわち地元の方々特にお年寄り達とのコミュニケーションも生まれており、地域における施設と住民の相互理解が深い事例である。



施設では地元で草花やパン、豆腐の製造工程ででたオカラを施設内で処理して作った堆肥を販売し、地元では施設のお祭りへの参加や農業指導などを行っている。

植栽の維持管理は園生とスタッフが毎日道路も含めて植え込み地の清掃を行っており、剪定作業は年 1 回業者に依頼している。

聞き取り調査のなかで職員から植え込み地の手入れ方法の指導や花苗購入の助成などの支援を切実に要望されたとのことである。

園生と職員による毎朝の落ち葉等の植え込み地清掃



道路境界の緑化



屋上の緑化

施設全景



5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例

4) マイスタイル門仲（江東区古石場）

平成 23 年 (2011) 度助成

コンセプトとして「癒し」を大きな軸に据え、“グリーン”と“ペット”をキーワードに、壁面緑化や屋上緑化も加え通常の集合住宅ではありえないほどの植栽を行い、新しい賃貸住宅のあり方を提案した事例である。

綿密な植栽計画のもと、季節感の演出、高木・中木・低木・地被類などの多様な植栽によるボリューム感や配色への配慮により、際立つ緑化空間を創出している。ちなみに、植栽の設計者はガーデンデザイナーの石原和幸氏である。

隣接する区立の親水公園との連携により、この集合住宅の植栽の多様性も相まって結果的に鳥や虫の飛来など生物多様性に貢献している。

緑化による趣のある空間構成により一階の喫茶店は土日を中心に地域の賑わい空間になっているとのことである。

5年を経過した時点での入居状況も好調であり、若い入居者が多いようである。

緑の付加価値の高い集合住宅は、ここに限らず一般的に入居率に好影響をもたらしているようである。

緑化空間の維持管理については、コンセプト保持のため設計会社に委託し、春・秋・冬は月1回、夏場は月2回の剪定等のきめ細かい管理を行っている。



屋上緑化と壁面緑化



親水空間との連携



小さな空間も積極的に緑化



道路からのアプローチの緑化

5) 回向院念仏堂（墨田区両国）

平成 25 年（2013）度助成

江戸後期から明治末期までの76年間「回向院相撲」が行われ、鼠小僧次郎吉の墓があることで有名である。

山門を入ると参道に竹林が立ち並び、この竹林が緑化助成対象である念仏堂に繋がり、参道とお堂が一体となって参拝者や利用者があたたかも竹林空間に身を置くような設計となっている。

念仏堂の2・3階の外周を1階屋上かつ2階のテラス部分に植栽された竹林が取り巻くデザインにより、竹林の一体感を演出している。

2階には客殿があり、茶道教室の利用者や見学者から「都会にいながら森の中にいるようだ」と好評であり、外国からの見学者も多いとのことである。



念仏堂の2階から生える竹林



竹林の参道



2階テラス上の竹林の植栽基盤

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例



2階客殿越しの眺め



2階客殿から見る竹林

外部の緑化空間と内部の緑化空間を一体化させ、外部からみても建物内部から見てもまさに緑のなかに身を置いているように演出する緑化手法である。

念仏堂は2016年度の「グッドデザイン賞」を受賞した。

テラス上の竹林の根の伸長については施工当初から制御のための透明な柵の設置など防水シートへの影響について最大限の配慮を行っている。

2か月に1度程度の業者による維持管理と自動灌水などにより竹林は維持されている。

(3) まちなか緑化活動支援事業の実績事例

まちなか緑化活動支援事業の実績事例として、中野区の桃園町会を紹介する。JR 中野駅南口からほど近く利便性の高い住宅地で、町会活動も活発な地域である。町会の中央に区立「囲桃園公園」があり、町会有志の方々が管理を行っている。

この有志の方々を核に、ワークショップを通じて住民の皆さんの地域の緑化への関心が高まっていった。一軒一軒ごとの緑化により各通りの緑を繋げていこうとの意識が強かった地区とされている。

平成 21 年（2009）～ 23 年（2011）の 3 年間で 24 件の緑化事業が実施され、この地区の緑化事業実施により、「向う 3 軒両隣り方式」との緑化手法の言葉が生まれたという。

この 6 月初旬に現在の状況確認のため現地を訪問してみると、樹木等の成長もあるが明らかに緑が連続している通りが多いことに気付かされる。

また、中野駅南口からこの地区への導入部である飲食店を中心とした「レンガ通り」の両側



L 集合住宅



V 集合住宅



S 邸



H 邸

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例

にオリーブの大きな鉢が連続して配置され、緑の連続性が新たに出現していた。事業主体まで調査はしていないが、桃園町会の熱意も関係しているように思われる。

さらに、この事業実施時に地区に隣接する大型店舗である丸井の外構工事が実施直前で、幸いなことに緑化の連携を図ることができたとのことであり、生物多様性に配慮した誰でも憩える緑空間が連続した町会となっている。



クリーニング店の緑と向かいの緑と繋がった通りの緑



L,V,S,Hの繋がった通りの緑



囲桃園公園での緑の茶屋風景



マルイとコラボのミニレクチャー



桃園町会へのアプローチとなる「レンガ通り」の緑



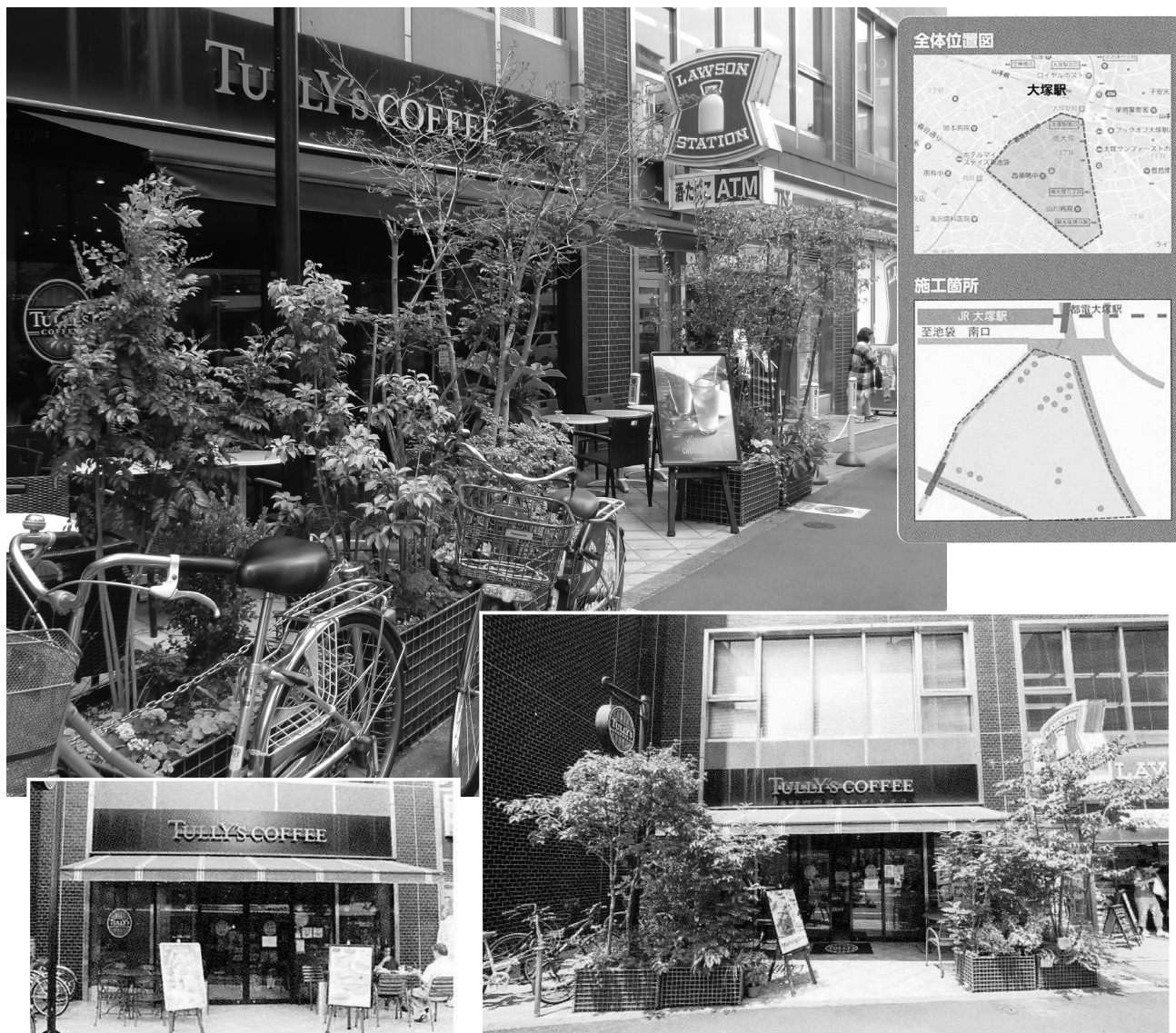
桃園町会と隣接する丸井の緑

(4) 界わい緑化推進プログラム支援事業の実績事例

豊島区大塚駅南町会を紹介する。JR 山手線大塚駅南口ロータリーに接しており、サンモール大塚、盛和会の二つの商店街を擁している。都電沿線のバラは有名であり、地域の方々により整備・育成が行われている。ワークショップを通じてこれまでの地域の活動と繋げながら緑のまちづくりを行うという思いが確認された地区である。

平成 23 年 (2011) ~ 26 年 (2014) の 4 年間で 17 件の緑化事業を実施している。事業主体である豊島区は、池袋西口におけるまちなか緑化モデル事業を経験しており、まちなか緑化の手法に関しての造詣が深い。「向う 3 軒両隣り方式」を意識しながらの事業実施となっている。事業実施の際には、大塚駅南口広場の再整備を控えた時期でもあり、まず南町会の商店街を緑で繋げ、駅南口の再整備による緑と、商店街の緑、そして天祖神社の緑、都電荒川線のバラ、住宅地への緑と一体化を図ろうというものである。

前述したように、この地区での最大の特徴は大手コーヒーチェーン店の前面の緑化である。



タリーズ大塚店の取り組み前 (左下) と施工直後 (右下) と、現在のようす (上)

5. 緑化助成事業対象施設のその後と実績事例

これを契機にコーヒーチェーン店の緑化が進めばと願うものである。また、界わい緑化の名の通り密集した商店の前面の緑化は間口も面積も狭い箇所が多く、「向う3軒両隣り方式」により、鉢植えなどの小規模の既存の緑と連続させていき、それが連鎖していくことに期待したとのことである。

中野区の桃園町会と同様、6月の初旬に状況確認のため現地を訪問した。

予定通り駅南口の広場が再整備され、緑豊かな空間となっている。商店街の玄関口に準ずるコーヒーチェーン店の緑は健在であるが、灌水不足か一部樹木の上部が変色しつつあり、良好な管理が望まれる。管理不足の緑はむしろ逆効果になりかねない。

商店街の内部では、角地の事業実施した樹木の効果的な存在や連続した商店での事業実施による緑の一体性、事業実施した商店の緑と下町的な鉢や大型ポットによる商店の既存の緑との

繋がりが随所に見られ、緑の繋がりにへの意識の高さが感じられた。



奥田商事 さんの取り組み前



奥田商事院 さんの現在のようす
商店街入り口の緑は健在



蕎麦やさんの取り組み前



蕎麦やさんと大塚接骨院 さんの現在のようす



大塚接骨院 さんの取り組み前



洋品店 Ricca さんの現在と
向かいの林肉店の緑との繋がりに

6. 基金事業への東京都造園緑化業協会の貢献

今まで述べてきたように、造園緑化業協会は緑化基金造成額の目標達成（現在目標額 30 億円）に向けて、2 度にわたる大口寄付を行うとともに会員各社の自主的な地道かつ着実な寄付の継続を行っており、当協会一丸となって取り組んでいる。

平成 28 年（2016）に終了した東京港埋め立て地で剪定枝葉を受け入れる造園緑化業協会の直営事業である「海の森堆肥化事業」も第 3 章で紹介したように、かつて都市緑化基金の主要事業であった調査研究事業の成果を糸口としている。その他さまざまな緑化助成先での工事請負など間接的な形態での協力は数知れない。

この章では、都市緑化基金が普及啓発事業として連携する大規模なイベントに焦点を当て、造園緑化業協会や会員各社がそのイベントに果たしてきた役割を取り上げてみたい。

（1）全国都市緑化フェア

全国都市緑化フェアは旧建設省（現国土交通省）が提唱し、当時の財団法人都市緑化基金（現公益財団法人都市緑化機構）と開催地の地方公共団体が主催する緑化祭である。その目的は、



全国都市緑化フェア TOKYO のサイン

緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及を図り、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することであり、都市緑化の普及啓発のための国内最大規模のイベントである。

昭和 58 年（1983）の第 1 回の大阪府開催に引き続き、翌昭和 59 年（1984）の第 2 回は東京都開催であった。東京都都市緑化基金設立の前年である。

この都市緑化フェアは、全国の地方公共団体の持ち回りで開催することになっており、



全国都市緑化フェア TOKYO の会場では、まちなか緑化の紹介も行われた

(2) 日比谷公園ガーデニングショー

日比谷公園ガーデニングショーは、平成14年(2002)に東京都主催により開催された日比谷公園100年記念事業のイベントを継承する形で翌年の平成15年(2003)から毎年定期的に10月に開催されているイベントである。

ガーデン、ライフスタイルガーデン、コンテナガーデン、ハンギングバスケットの4部門のコンテストがこのイベントの目玉となっており、近年関東近県に留まらず、広域からの参加者も多い。優秀な作品には、国土交通大臣賞、農林水産大臣賞、都知事賞などが授与されるが、都知事賞に次ぐ優秀作品に東京都都市緑化基金賞が授与されている。

このイベントの特徴は、都民参加による実行委員会形式により運営され、まさに都民主体のガーデニングショーである。主催する実行委員会は造園緑化業協会をはじめ、(一社)日本造園建設業協会東京都支部、(一社)日本造園組合連合会、全国1級造園施工管理技士の会(一造会)、(一社)ランドスケープデザインコンサルタンツ、ジャパンガーデンデザイナー協会、日本ハンギングバスケット協会東京支部など緑化に関連する民間団体で構成されており、緑化の普及啓発の観点から参加している公園協会が唯一の公的な団体である。平成21年(2009)より公園協会が事務局となり、現在に至っている。

実行委員は約40名で構成されているが、現在造園緑化業協会からは理事長をはじめ、4名が参加しており、幹事会など重要な会議には常時出席している。

造園緑化業協会は、特別協賛団体として財政面での支援をするほか、ガーデニングショーの会場設営には会員各社の協力が不可欠であり、会場のシンボリック的存在となっている「思いのたけ」をはじめ、ボランティア精神を発揮して汗を流している。

さらに、会期中には、テント出展も行い、会員が持ち寄った造園・緑化資材を格安で販売する「花と緑のマーケット」や四ツ目垣の結束方法などの「プロから学ぶ緑の講習会」を開催し、会員がその対応に当たっている。

そのほか、イベントの目玉であるガーデンコンテスト、ライフガーデンコンテストなどにも、会員各社が自主的に参加しており、毎回上位の賞を授与されている。



ガーデニングショー2018の開会式



会期中のみ開放され、賑わう第二花壇

6. 基金事業への東京都造園緑化業協会の貢献



出展庭園を鑑賞する来場者



会場のシンボリック的存在「思いのたけ」も会員が毎年準備



花と緑のマーケットや竹垣などの講習も開催



堆肥の無料配布は毎年大盛況で、海の森公園の堆肥化事業のパネル展示なども行った

7. 今後の都市緑化基金への期待と展望

現在の社会経済状況からすると、都市緑化基金の造成額目標の達成にはまだまだ時間を要し、運用益の増額は見込めるどころか減少に歯止めをかけることすら難しいのが現実である。このような状況下で今後都市緑化基金をどのようにして運営していくのか課題は山積みである。

また、造園緑化業協会も、今後、都市緑化基金とどう向き合っていけばよいのか、なかなか難しい問題である。

この章では、都市緑化基金の造成や運用などの今後の方向性と造園緑化業協会の都市緑化基金への関わり方について考えてみる。

(1) 東京都都市緑化基金の造成

基金の目標額達成には約1億6,000万円の募金額が必要となるが、バブル崩壊以降の年間募金額から勘案すると、目標期限である令和8年(2026)までの達成も難しいと思われる状況といえる。目標達成に向けて、都市緑化基金や私達ができることに知恵を絞って取り組むことはもちろんだが、募金した都民の立場からすれば、募金したお金が都市緑化にどのような形で貢献をしているのかを目に見える形で知りたいたいところである。

最近、用途をわかりやすく明確にして寄付を募るクラウドファンด์を多々目にするが、マスクミが取り上げるようなプロジェクトの提案に対して目標額を超える寄付金が集まる場合も多い。このことは裏返せば事業の内容、成果が単純明快に理解でき、目的が自分と波長が合っていれば賛同しやすいところに起因していると思われる。まさに募金の「見える化」である。

公園協会が「都市緑化基金30年の歩み」発行の際に、緑化助成事業の成果を整理して掲載したが、このことこそが募金をした都民の知りたいたいところであり、都市緑化基金を造成する側からすれば募金をする都民サイドに広く知らせなければならないことではないだろうか。

知恵を絞るなかで、多くの都民が共感し、賛同する起死回生の都市緑化のための秘策を生み出すことができれば、クラウドファンด์での寄付による目標額達成も夢ではない。秘策を生み出す位の気概を持ちながら都民に都市緑化基金の事業の周知を図る努力を重ねていくことが肝要と考える。

(2) 東京都都市緑化基金の運用

ゼロ金利政策が続く現状において、着実な運用益を保持することは難しく、これまでと同様の運用益の維持さえ困難な状況になりつつある。基金の性格からしてハイリスクによる運用益の増加は見込めない以上、事業実施のなかでのウインウインによる寄付金を視野に入れる必要があるのではないだろうか。

例えば社会貢献事業を利用した寄付金である。普及啓発事業で紹介した日刊工業新聞社との連携による寄付金や、都民銀行の定期預金商品売り上げの一部の寄付が参考となる例である。

緑化による社会貢献を選択枝の一つとして都市緑化基金に相談する企業もあることから、潜在的な需要があると思われる。

さらに、こうした事業から生み出された寄付金に限り、事業費に充当することができるよう

な大胆な運用の仕組みづくりの発想の転換も一つの考え方である。

いずれにせよ、運用益のみを考えるのではなく、このような新たな寄付金の仕組みづくりや、少子高齢化や共同住宅が6割を超える東京ならではの社会状況に応じた効果的な事業の見直しなど研ぎ澄まされた感覚を駆使し、金額の大小ではなく活きた運用益の使い方にも工夫を図っていく必要がある。

(3) 緑化助成事業について

前述のように事業費が減少する状況のもと、これからの助成事業は効果的かつ質が高く、都民にその効果を明確に示すことが可能な事業内容に絞り込むことが求められる。

さまざまな緑化手法を駆使して効果的な緑化を行い、都市景観の向上に寄与している民間施設の事例も多々ある。助成先の選定にあたっては、今まで以上に慎重かつ緑化による都市景観への貢献度への配慮が必要である。

効果的かつ質の高い事業とはハード面だけではなくソフト面においても同様である。都民が共感し、賛同する事業は広報のやり方次第ではむしろソフト面とハード面を絡めた事業の方が都民の心に響きやすい。

助成先の養護施設からの「新規植栽の助成だけではなく、入園者たちに維持管理作業の仕方を指導するために専門家からノウハウを教えてもらいたい」との要請や「まちなか緑化活動支援事業」の参加住民からの「まちづくりのいい種になる」との発言などがあったそうである。このことは、今後の緑化助成事業の在り方のヒントと捉えるべきではないだろうか。

繰り返しになるが、募金や寄付により支えられて実現した都市緑化の成果をいかにして都民に届けるか、知恵を絞らなければならない。

(4) 当造園緑化業協会と都市緑化基金の関わり

都市緑化基金の運用益が減少している中で、造園緑化業協会の会員として、今、何ができるか。大変、難しい課題である。これまでのように、少額ではあるが東京の緑づくりに携わる者として寄付は、続けて行って欲しいものである。

また、日比谷公園ガーデニングショーなど、基金の運用益を活かした緑の普及啓発事業に対しても引き続き貢献して欲しい。

造園緑化業協会に対する新たな期待は、都市緑化基金の益金を活かし、いかに都民のみどり意識を高める取り組みにつなげるかである。これまで培ってきた技術・ノウハウを活かし、都民にどのようにお役に立てるかではないだろうか。

かつて、東京都には緑の相談所があった。都民にとって、この相談所は、「ゆっくり休憩できる楽しい楽園」という意見も寄せられてきた。事業の見える化が問われる昨今において、1日緑の相談所のような地味ではあるが地域に根差した活動も大切ではないか。そして、地域のみどりの担い手となる緑化推進リーダーを育成するための貢献ができないだろうか。

また、緑化活動の支援のあり方としては、地域や学校などにおける自主・自立的な活動の支援につながる取り組みを進めることである。「花壇・庭づくり活動支援事業」や「まちなか緑化活動支援事業」など、会員の中で「まちなか緑化士」に認定された専門家が行う活動の輪が

地域の中でさらに広がればと考える。

さらには、緑化助成した対象への維持管理支援である。良好な緑を形成するためには、手入れが欠かせない。緑化はしたものの維持管理まで手が回らない。専門的な知識がないため、せっかくのみどりが放置した状態になっているところも散見される。このような対象に対し、維持管理に関する一部助成（管理のハウハウの助言含め）などの仕組みが考えられないだろうか。会員がその役割に関わることができればより質の高い緑環境づくりに貢献できると思う。

最後に、都市緑化基金を活用した調査研究事業のあり方である。過去において、「海の森緑の資源化センター」の立ち上げは、公園における緑のリサイクルの研究の成果が活かされた。緑にかかわる社会的ニーズが多様化する中で、東京の都市緑化事業は、さまざまな進展を見せている。最近の大型ビル開発をみると、明らかに都市のみどりづくりに対する取り組みの変化を感じる。地道なみどりに関する基礎調査からスタートしてはどうだろうか。新たな施策の種まきとなる研究活動のためにも都市緑化基金の調査研究事業の再開を期待したい。

令和の時代。今、東京からみどりの意識改革が始まろうとしている。

【参考・引用文献】

1. 東京都都市緑化基金 30年の歩み 平成 29 年 3 月 公益東京都財団法人東京都公園協会発行
2. 公益財団法人都市緑化機構 ホームページ
3. 剪定枝葉堆肥化等のみどりの資源化に関する調査研究報告書 平成 28 年 3 月
(今日における剪定枝葉のリサイクルの有効性に関する調査研究) 公益社団法人日本造園学会発行
4. 日比谷公園ガーデニングショー ホームページ

【資料提供】

各図表の平成 28 年度～平成 30 年度のデータ 公益東京都財団法人東京都公園協会

【写真】

東京都都市緑化基金 30 年の歩みより転載（まちなか緑化及び界わい緑化の実績事例等の一部写真を除く）

會員名簿

会員 住所 電話番号簿 (地区、郵便番号順)

会員名称	〒	住所	TEL	FAX
■千代田区				
(株)富士植木	102-0074	千代田区九段南 4-1-9	03-3265-6731	03-3265-3031
日産緑化(株)	101-0047	千代田区内神田 3-16-9	03-3256-4031	03-3254-5773
■中央区				
イビデングリーンテック(株)	103-0002	中央区日本橋馬喰町 1-14-5 日本橋 K ビル 3 階	03-5847-8370	03-5847-8380
(株)ケイミックス	104-0031	中央区京橋 2-5-7 日土地京橋ビル	03-3566-3707	03-3566-3722
■港区				
(株)日比谷アメニス	108-0073	港区三田 4-7-27	03-3453-2409	03-3453-1359
■新宿区				
武蔵野造園土木(株)	160-0023	新宿区西新宿 3-7-26-309	03-3342-5614	03-3342-5619
■文京区				
音羽建物(株)	112-0014	文京区関口 2-11-31	03-3947-1151	03-3947-1260
浅川造園土木(株)	113-0033	文京区本郷 1-31-11	03-3811-8032	03-3811-8560
■台東区				
(株)理研グリーン	110-8520	台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 8 階	03-6802-8903	03-6802-8953
東友緑化(株)	111-0041	台東区元浅草 3-20-4	03-3844-3227	03-3844-3224
■墨田区				
(株)柳島寿々喜園	130-0002	墨田区業平 5-12-16	03-3625-7428	03-3625-2921
(株)増田造園	131-0041	墨田区八広 6-19-6	03-3610-1531	03-3616-6581
京成バラ園芸(株)	131-0045	墨田区押上 1-12-1	03-3625-7851	03-3625-7852
■江東区				
(株)ランデック	135-0041	江東区冬木 6-25	03-3642-0481	03-3642-9590
(株)ノザワ	135-0042	江東区木場 5-12-7	03-3641-5151	03-3630-3903
天龍造園建設(株)東京支店	135-0016	江東区東陽 3-11-7	03-6272-5381	03-3615-1071
(株)森岡	136-0071	江東区亀戸 1-5-12	03-3637-2350	03-3682-8484
■品川区				
西村造園土木(株)	140-0015	品川区西大井 4-4-2	03-3777-1788	03-3777-1798
東急グリーンシステム(株)	141-0013	品川区西五反田 5-21-18 大井ビル 202	03-6417-0267	03-6417-0268
日本パブリックサービス(株)	142-0014	品川区大井 1-49-12	03-3778-4128	03-3778-4133
■目黒区				
(株)オーシャン	152-0002	目黒区目黒本町 4-14-17	03-5722-4128	03-5722-2811
(株)西花園	153-0051	目黒区上目黒 4-33-21	03-3719-8448	03-3719-0676
■大田区				
藤東造園建設(株)	143-0015	大田区大森西 1-19-15	03-3766-2321	03-3766-2380
大森造園建設(株)	143-0024	大田区中央 8-7-17	03-3754-4128	03-3754-9800
(株)第一造園	145-0062	大田区北千束 2-18-7	03-3726-4381	03-3727-6744
(株)錦花園	145-0066	大田区南雪谷 1-6-13	03-3728-4616	03-3728-0406
■世田谷区				
(株)野沢園	154-0003	世田谷区野沢 3-29-23	03-3424-5001	03-3418-7621
(株)蛭田植物園	155-0031	世田谷区北沢 5-1-4	03-3469-3569	03-3469-3854
緑進造園(株)	156-0042	世田谷区羽根木 1-18-3	03-3322-5090	03-3325-8590
蘆花園植木(株)	156-0056	世田谷区八幡山 2-18-1	03-3302-7175	03-3302-7179
(株)岡野造園	157-0063	世田谷区粕谷 2-5-8	03-3303-3703	03-3304-0702
第一緑興(株)	157-0063	世田谷区粕谷 3-9-5	03-3307-0721	03-3307-0774
(株)小川植木	157-0074	世田谷区大蔵 5-3-2	03-3417-0029	03-3416-5340
(株)イワキランズテック	158-0081	世田谷区深沢 8-7-13	03-5706-5633	03-5706-5530
(株)石勝エクステリア	158-0094	世田谷区玉川 1-16-7	03-3709-5592	03-3709-5857
(株)吉村造園	158-0095	世田谷区瀬田 5-4-3	03-3700-1250	03-3707-6309
■渋谷区				
朝日造園(株)	150-0001	渋谷区神宮前 6-32-5	03-3400-5473	03-3400-4278
東光園緑化(株)	150-0022	渋谷区恵比寿南 3-7-5	03-3719-4611	03-3793-1852
加勢造園(株)	151-0051	渋谷区千駄ヶ谷 3-61-5	03-3404-7781	03-3404-2439
■中野区				
住友林業緑化(株)	164-8721	中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 17 階	03-6832-2202	03-6832-2212
(株)飛鳥	165-0034	中野区大和町 1-15-3	03-5373-1700	03-5373-1703

■杉並区				
(株)昭和造園	168-0063	杉並区和泉 4-42-33	03-3315-9796	03-3315-9750
(株)大場造園	168-0064	杉並区永福 2-47-12	03-3325-5151	03-3325-5329
(株)勇和造園	168-0065	杉並区浜田山 3-6-20	03-3313-8791	03-3312-5177
箱根植木(株)	168-0074	杉並区上高井戸 3-5-15	03-3303-2211	03-3303-2273
東武緑地(株)	167-0023	杉並区上井草 4-3-6	03-3394-6910	03-3621-4889
■豊島区				
西武造園(株)	171-0022	豊島区南池袋 1-16-15	03-3989-2751	03-3989-3350
(株)武蔵野種苗園	171-0022	豊島区南池袋 1-26-10	03-3986-0711	03-3590-2874
■荒川区				
岩田造園土木(株)	116-0013	荒川区西日暮里 1-5-1	03-3802-3811	03-3805-9361
■板橋区				
(株)須藤造園	174-0074	板橋区東新町 2-36-2	03-3956-3972	03-3958-8014
(株)池田園	175-0092	板橋区赤塚 5-34-33	03-3930-0210	03-3930-0344
■練馬区				
田中緑化土木(株)	177-0045	練馬区石神井台 8-22-8	03-3921-4148	03-3921-4146
アゴラ造園(株)	179-0075	練馬区高松 6-2-18	03-3997-2108	03-3997-2252
■足立区				
(株)富士造園	121-0074	足立区西加平 2-2-34	03-3885-1100	03-3885-1166
(株)前島植物園 東京支店	121-0801	足立区東伊興 2-17-8	03-3897-4800	03-3897-4807
(株)東花園	123-0853	足立区本木 1-26-11	03-3849-2321	03-3849-2322
■葛飾区				
(株)桂造園	125-0061	葛飾区亀有 3-33-2 田中屋ビル 3階	03-3690-2690	03-3690-2694
東洋グリーン産業(株)	125-0061	葛飾区亀有 3-3-11	03-3690-3351	03-3690-3710
■江戸川区				
(株)稲亀緑花	133-0073	江戸川区鹿骨 1-20-6	03-3670-5206	03-3670-5273
(株)伍楽園	133-0073	江戸川区鹿骨 2-21-2	03-3670-8898	03-3670-8940
(株)松樹園	134-0084	江戸川区東葛西 7-20-23	03-3688-2002	03-3878-7722
(株)大國屋園藝芸場	134-0091	江戸川区船堀 7-5-15	03-3675-1188	03-5675-1168
■八王子市				
(株)多摩緑化	192-0151	八王子市上川町 663	042-654-2024	042-654-4063
植小(株)	192-0902	八王子市上野町 15-5	042-622-4796	042-623-0017
(株)植政造園	192-0905	八王子市明神町 3-14-10	042-642-7588	042-646-2564
■立川市				
(株)藤紋	190-0003	立川市栄町 2-22-2	042-536-1855	042-535-6423
関東緑花(株)	190-0003	立川市栄町 4-2-44	042-522-4101	042-529-9233
(株)山本玉翠園	190-0032	立川市上砂町 3-53-11	042-536-2431	042-536-4227
■三鷹市				
東和ランドテック(株)	181-0002	三鷹市牟礼 5-11-1	0422-46-3232	0422-71-6972
(株)麻生園	181-0005	三鷹市中原 3-7-12	0422-48-2855	0422-42-2231
■青梅市				
(株)東山園	198-0004	青梅市根ヶ布 1-476	0428-22-2456	0428-22-1450
■府中市				
(株)府中植木	183-0005	府中市若松町 4-13-1	042-361-6326	042-361-6359
(株)宮光園	183-0011	府中市白糸台 1-3-12	042-361-6415	042-361-0283
■昭島市				
(株)指田園	196-0004	昭島市緑町 1-3-13	042-544-5511	042-546-0845
■調布市				
(株)小牧造園	182-0011	調布市深大寺北町 6-14-8	042-482-5419	042-484-4617
(株)富沢造園	182-0012	調布市深大寺東町 4-30-16	042-483-4315	042-483-4319
(株)深光園	182-0017	調布市深大寺元町 4-4-5	042-482-2656	042-488-4422
■小平市				
(株)東京緑花	187-0032	小平市小川町 1-135	042-343-6026	042-344-0979
■日野市				
(株)百草造園	191-0034	日野市落川 96	042-591-0482	042-593-5588
■国分寺市				
鈴木造園(株)	185-0034	国分寺市光町 1-33-5	042-572-3310	042-572-3384
■武蔵村山市				
(株)表養樹園	208-0032	武蔵村山市三ツ木 1-20-1	042-560-2531	042-560-3667
■西東京市				
植島植木(有)	188-0013	西東京市向台町 6-3-10	042-461-0476	042-463-4911

(株)保谷園	202-0013	西東京市中町 3-2-6	042-421-6803	042-424-1525
■東久留米市				
(株)根本造園	203-0031	東久留米市南町 1-5-4	042-461-8142	042-465-3549
(株)神明園	203-0052	東久留米市幸町 3-11-15	042-471-0736	042-473-0020
松村園芸(株)	203-0052	東久留米市幸町 3-4-2	042-471-1168	042-475-5678
■多摩市				
(株)多摩ニュータウンサービス	206-0033	多摩市落合 6-15-6	042-371-1831	042-376-7441
■町田市				
(株)東京総合造園	194-0014	町田市高ヶ坂 856-1	042-721-2711	042-721-2722
■あきる野市				
(株)高木造園	197-9823	あきる野市野辺 399-7	042-559-3803	042-559-8110
■大島町				
(株)宝来左松島	100-0211	大島町差木地 4	04992-4-0621	04992-4-0621

あとがき

先日発生しました新潟・山形地震はじめ、各地で発生しております地震、台風、集中豪雨等による自然災害は、私たちの生活に大きな傷跡を残しております。私たちが住む首都東京においても、ヒートアイランド現象に伴う都市の温暖化は、多くの熱中症患者を生むなど、私たちの生活を脅かしております。

人の力ではがどうすることもできない自然の驚異に対し、私たちができることは、自然と向きあい自然とともに暮らすことではないかと思えます。

私たちが携わる「緑」に関わる仕事は、都市において直接的な利益は生まなくても、潤いある快適な環境をつくる上で欠かすことができない大切な仕事であると思えます。

来年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。多くの内外のお客様が東京を訪れた時、街路樹や公園、そしてビル街の「緑」に目を奪われるのではないかと思います。まさに、街の緑は、お客様の好感を高められる大切な要素でもあります。

今回、白書を取りまとめるに当たりましては、当協会広報委員会において、何度か議論し、東京都の緑化動向調査はもちろんのこと、これまで休止しておりました特集を復活できないかを検討してきました。

今回取り上げたテーマは、「東京都都市緑化基金の果たしてきた役割と展望」です。東京の緑づくりは、公園や道路はもとより、民有地のみどりづくりが東京の緑豊かな都市環境を形成するうえで大変重要な役割を担ってきております。

その中で、東京都都市緑化基金は、基金の運用益金をもとに民間事業者に緑化への助成を行い、民間の力で緑量の増加を進めてきたものです。この基金は、東京都の緑づくり、特に、民有地の緑化には多大な貢献をしてきてきました。

しかし、その成果については、緑行政関係者の間でも、基金の果たしてきている役割が希薄になってきているのではないかと危惧しております。改めて、今回の特集を通して、この基金の役割の重要性を広く再認識していただく機会になれば幸甚です。

最後に本白書を取りまとめるに当たりましては、緑化動向調査においては、東京都建設局公園緑地部公園建設課、そして、アンケートにご協力いただきました東京都ならびに区市町の各ご担当者様、また、今回の特集記事については、(公財)東京都公園協会の前公益事業推進課長であった金田哲男氏に多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。また、今回の特集に当たりましては、(公財)東京都公園協会公益事業推進課長はじめ職員に方々には、お忙しい中、資料提供はじめ、ご丁寧なアドバイスいただきましたこと、衷心より謝意を表する次第です。

令和元年7月

一般社団法人 東京都造園緑化業協会
広報委員会委員長 松村 一

「東京都緑化白書」編集委員会

編集委員長：松村 一 （一社）東京都造園緑化業協会 広報委員長
編集委員：山下 得男 （一社）東京都造園緑化業協会 広報副委員長
平松 健一 （一社）東京都造園緑化業協会 広報副委員長
金田 哲男 氏
監 修：大條 則子 （公財）東京都公園協会公益事業推進課長
藤田 幹人 （公財）東京都公園協会公益事業推進課緑の基金担当係長
事務局：大内 弘 （一社）東京都造園緑化業協会 専務理事
田中 喜博 （一社）東京都造園緑化業協会 事務局

東京都造園緑化業協会 広報委員会

委員長 松村 一
副委員長 山下 得男
平松 健一
広報委員 飯野 桂子
倉田 知義
篠 正一
田中 英樹
徳原 祥普
豊川 悦広
萩生田尚樹
専務理事 大内 弘

令和元年 7 月 31 日

東京都緑化白書 PART37
(平成 30 年度版 東京都緑化動向調査)

編集・発行 (一社) 東京都造園緑化業協会
〒150-0041
東京都渋谷区神南 1-20-11
造園会館 8 階
URL:<http://www.tmla.or.jp>
TEL:03-3462-2858
FAX:03-3462-2805

この白書の制作にあたっては
東京都都市緑化基金から助成を受けております